

平成 27 年 3 月 31 日

## 平成 26 年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

平成 26 年度年度名古屋経済大学 FD 委員会

平成 26 年度は、平成 24 年度より開始した方式（2 年に 1 回は担当科目の授業評価アンケートを実施する）を平成 26、27 年度についても採用することとし、教員あるいは学科がアンケート対象科目を選択した。ただし平成 25 年度より開始したカリキュラムの中心となる専門共通基礎 I, II（全 19 科目）については今年度すべて実施することとした。前期は 158 科目、後期は 150 科目のアンケートが実施された。

アンケートの設問については平成 25 年度の改良版を継続実施した。

科目担当者はそれぞれの科目について結果分析を行い、次年度の授業改善に反映させる。また、学部学科ごとの傾向については FD 委員会が分析し、その分析結果を学部学科教授会に報告した（詳細は以下参照）。

# 名古屋経済大学 授業評価アンケート

		科目 名称	担当 教員
--	--	----------	----------

FD委員会

この授業評価アンケートは、学生による授業評価を通して、授業の改善を図るためのものです。学生による回答の秘密は守られ、授業改善のため以外の目的に使用されることはありません。回答が成績評価に影響することは、全くありません。誠実な回答をお願い致します。  
 回答の仕方：この授業について、各質問にお答え下さい。鉛筆で、回答欄をマークして下さい。

- |   |  |
|---|--|
| <p><b>1. あなたは、この授業に出席していますか。</b> &lt;回答欄&gt;</p> <p>1：ほとんど出席している (出席率：90%以上) <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり出席している ( : 80%程度) <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない ( : 70%程度) <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり出席していない ( : 50%程度) <input type="radio"/> ④</p> <p>5：ほとんど出席していない ( : 30%以下) <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。</b></p> <p>1：非常に意欲的である <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり意欲的である <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり意欲的でない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く意欲的でない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>3. この授業は、シラバスにそって行なわれていますか。</b></p> <p>1：行なわれている <input type="radio"/> ①</p> <p>2：ほぼ行なわれている <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらでもない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり行なわれていない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く行なわれていない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>4. 授業内容は、わかりやすいですか。</b></p> <p>1：非常にわかりやすい <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなりわかりやすい <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：かなりわかりにくい <input type="radio"/> ④</p> <p>5：非常にわかりにくい <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>5. この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか。</b></p> <p>1：非常に引き出す <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり引き出す <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり引き出さない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く引き出さない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>6. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。</b></p> <p>1：非常に感じられる <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり感じられる <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり感じられない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く感じられない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>7. 授業の速さや進め方は適切ですか。</b></p> <p>1：非常に適切である <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり適切である <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり適切でない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く適切でない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>8. 教科書、配布資料は活用されていますか。</b></p> <p>1：非常に活用されている <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり活用されている <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり活用されていない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く活用されていない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>9. 板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか。</b></p> <p>1：非常に見やすい <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり見やすい <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：かなり見にくい <input type="radio"/> ④</p> <p>5：非常に見にくい <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>10. 教員の声は聞き取りやすいですか。</b></p> <p>1：非常に聞き取りやすい <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり聞き取りやすい <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：かなり聞き取りにくい <input type="radio"/> ④</p> <p>5：非常に聞き取りにくい <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。</b></p> <p>1：非常に適切である <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり適切である <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり適切でない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く適切でない <input type="radio"/> ⑤</p> | <p><b>12. 教員は、授業時間を守っていますか。</b></p> <p>1：非常に守っている <input type="radio"/> ①</p> <p>2：かなり守っている <input type="radio"/> ②</p> <p>3：どちらともいえない <input type="radio"/> ③</p> <p>4：あまり守っていない <input type="radio"/> ④</p> <p>5：全く守っていない <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>13. 自由質問1</b></p> <p style="text-align: center;">板書を見て、回答してください。</p> <p style="text-align: right;">①<br/>②<br/>③<br/>④<br/>⑤</p> <p><b>14. 自由質問2</b></p> <p style="text-align: center;">板書を見て、回答してください。</p> <p style="text-align: right;">①<br/>②<br/>③<br/>④<br/>⑤</p> <p><b>15. その他、この授業について「良かった点」「不満な点」があれば記入してください。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>良かった点</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>不満な点</p> </div> <p><b>A. あなたの所属している学部・学科は、どこですか。</b> &lt;回答欄&gt;</p> <p>1：経済学部・現代経済学科 <input type="radio"/> ①</p> <p>2：経営学部・経営学科 <input type="radio"/> ②</p> <p>3：法学部・法学科・ビジネス法学科 <input type="radio"/> ③</p> <p>4：人間生活科学部・教育保育学科 <input type="radio"/> ④</p> <p>5：人間生活科学部・管理栄養学科 <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>B. あなたは、何年度入学ですか。</b></p> <p>1：2013年度生 <input type="radio"/> ①</p> <p>2：2012年度生 <input type="radio"/> ②</p> <p>3：2011年度生 <input type="radio"/> ③</p> <p>4：2010年度生 <input type="radio"/> ④</p> <p>5：2009年度生 <input type="radio"/> ⑤</p> <p>6：2008年度生 <input type="radio"/> ⑥</p> <p>7：2007年度生 <input type="radio"/> ⑦</p> <p>8：科目等履修生・研究生 <input type="radio"/> ⑧</p> <p><b>C. あなたは、何年生ですか。</b></p> <p>1：1年生 <input type="radio"/> ①</p> <p>2：2年生 <input type="radio"/> ②</p> <p>3：3年生 <input type="radio"/> ③</p> <p>4：4年生 <input type="radio"/> ④</p> <p>5：その他 <input type="radio"/> ⑤</p> <p><b>D. あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。</b></p> <p>1：はい <input type="radio"/> ①</p> <p>2：いいえ <input type="radio"/> ②</p> |
|---|--|

2014年度前期 実施概要

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
経済学部	27	26	96.30	24	92.31
経営学部	34	33	97.06	33	100.00
法学部	29	29	100.00	28	96.55
人間生活科学部・管理栄養学	26	26	100.00	26	100.00
人間生活科学部・教育保育学	9	9	100.00	9	100.00
非常勤	37	35	94.59	33	94.29
<b>【全体】</b>	<b>162</b>	<b>158</b>	<b>97.53</b>	<b>153</b>	<b>96.84</b>

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
経済学部	1,517	1,458	938	64.33
経営学部	2,368	2,320	1,436	61.90
法学部	1,788	1,788	1,058	59.17
人間生活科学部・管理栄養学	999	999	842	84.28
人間生活科学部・教育保育学	313	313	245	78.27
非常勤	1,840	1,755	1,120	63.82
<b>【全体】</b>	<b>8,825</b>	<b>8,633</b>	<b>5,639</b>	<b>65.32</b>

## 2014年度後期 実施概要

所属名	対象科目数	回収科目数	回収率	コメント 提出科目数	コメント提出率
経済学部	21	21	100.00	21	100.00
経営学部	26	26	100.00	26	100.00
法学部	22	22	100.00	22	100.00
人間生活科学部・管理栄養学科	23	22	95.65	22	100.00
人間生活科学部・教育保育学科	18	18	100.00	18	100.00
非常勤	44	41	93.18	41	100.00
<b>【全体】</b>	<b>154</b>	<b>150</b>	<b>97.40</b>	<b>150</b>	<b>100.00</b>

所属名	対象科目	回収科目	回答者数	回答率
	履修者数	履修者数		
経済学部	1,310	1,310	851	64.96
経営学部	1,656	1,656	1,041	62.86
法学部	1,149	1,149	763	66.41
人間生活科学部・管理栄養学科	922	888	733	82.55
人間生活科学部・教育保育学科	756	756	632	83.60
非常勤	2,115	1,973	1,248	63.25
<b>【全体】</b>	<b>7,908</b>	<b>7,732</b>	<b>5,268</b>	<b>68.13</b>

[名古屋経済大学] 2014年度前期 授業評価アンケート 教員所属別平均一覧

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか

所属	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12
全体	4.35	3.98	4.16	3.96	3.89	4.08	4.01	4.13	3.98	4.19	4.02	4.30
経済学部	4.22	3.90	4.05	3.81	3.73	3.97	3.81	3.89	3.87	4.02	3.91	4.21
経営学部	4.31	3.99	4.23	4.09	3.97	4.18	4.12	4.25	4.18	4.29	4.10	4.40
法学部	4.21	3.84	4.07	3.79	3.73	3.90	3.92	4.00	3.79	4.13	3.94	4.24
人間生活科学部・管理栄養学科	4.68	4.16	4.22	4.06	4.05	4.23	4.14	4.23	4.07	4.41	4.16	4.31
人間生活科学部・教育保育学科	4.57	3.98	4.05	3.70	3.60	3.87	3.71	4.06	3.58	3.69	3.80	4.23
非常勤	4.34	4.03	4.20	4.05	4.01	4.16	4.10	4.19	4.02	4.19	4.02	4.32

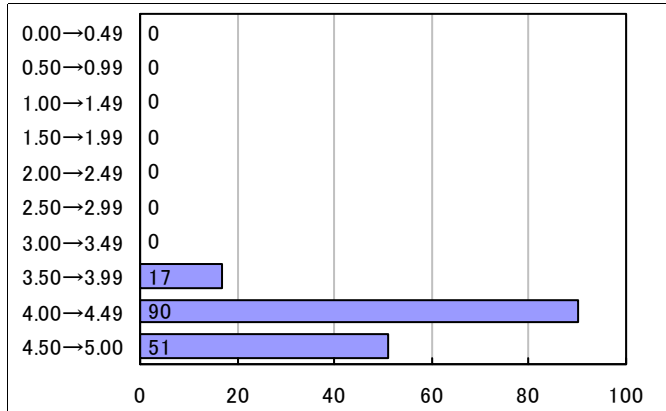
[名古屋経済大学] 2014年度後期 授業評価アンケート 教員所属別平均一覧

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか

所属	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12
全体	4.30	3.99	4.16	3.98	3.91	4.13	4.05	4.17	4.03	4.24	4.06	4.33
経済学部	4.12	3.84	4.01	3.86	3.74	3.93	3.85	3.99	4.00	4.10	3.99	4.22
経営学部	4.25	4.04	4.26	4.09	3.97	4.21	4.19	4.25	4.21	4.34	4.12	4.44
法学部	4.07	3.77	4.06	3.88	3.77	4.00	4.00	4.09	3.88	4.14	3.97	4.24
人間生活科学部・管理栄養学科	4.66	4.17	4.32	4.16	4.11	4.25	4.19	4.29	4.19	4.39	4.14	4.40
人間生活科学部・教育保育学科	4.43	4.15	4.21	4.01	3.97	4.30	4.05	4.20	3.94	4.29	4.17	4.49
非常勤	4.31	4.00	4.11	3.92	3.89	4.11	4.02	4.13	3.94	4.21	3.99	4.27

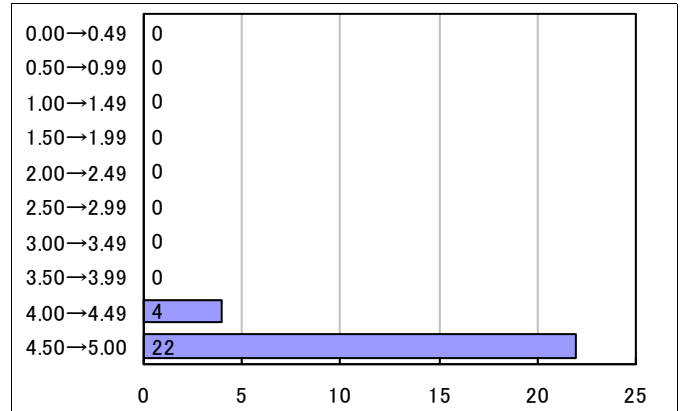
●1.あなたは、この授業に出席していますか

■全体



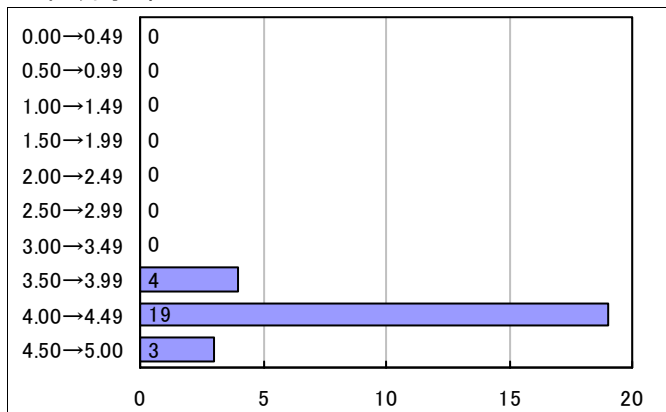
平均値 = 4.35

■人間生活科学部・管理栄養学科



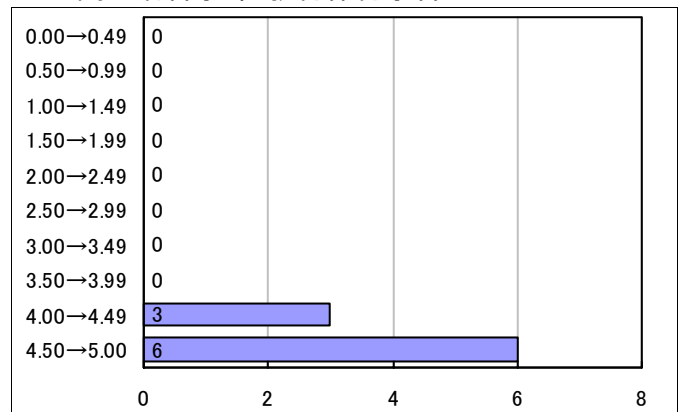
平均値 = 4.68

■経済学部



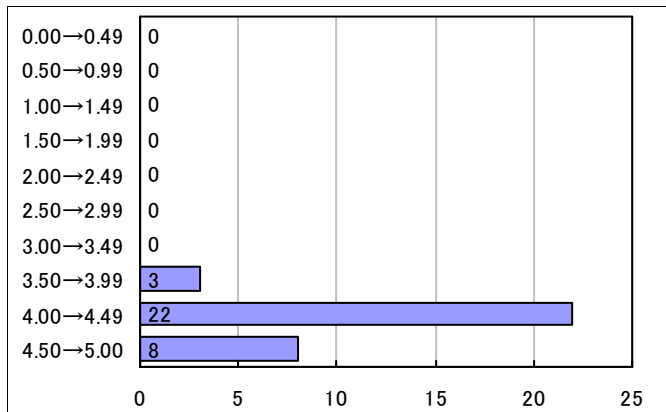
平均値 = 4.22

■人間生活科学部・教育保育学科



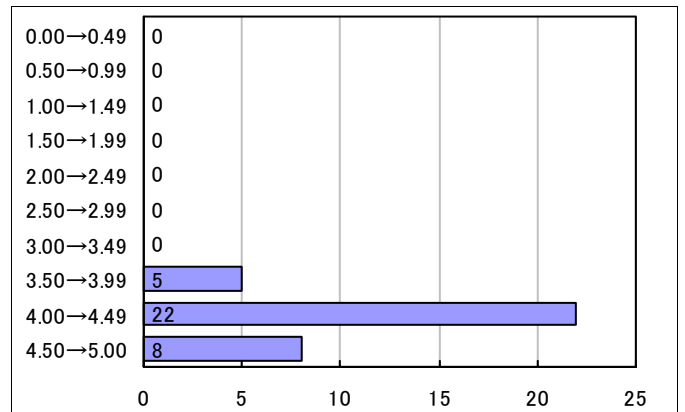
平均値 = 4.57

■経営学部



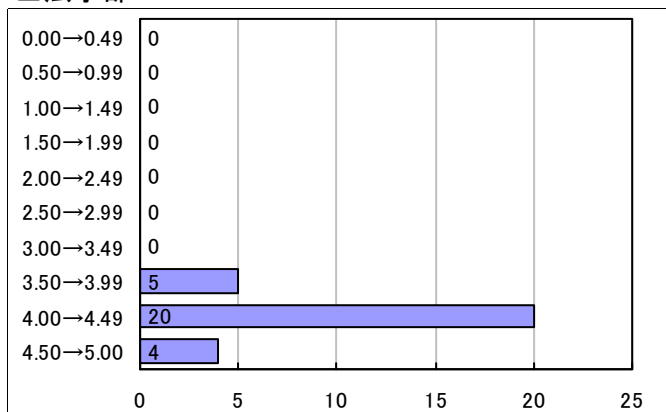
平均値 = 4.31

■非常勤



平均値 = 4.34

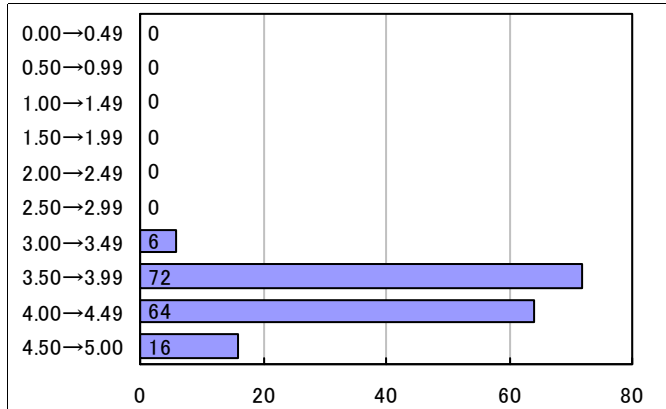
■法学部



平均値 = 4.21

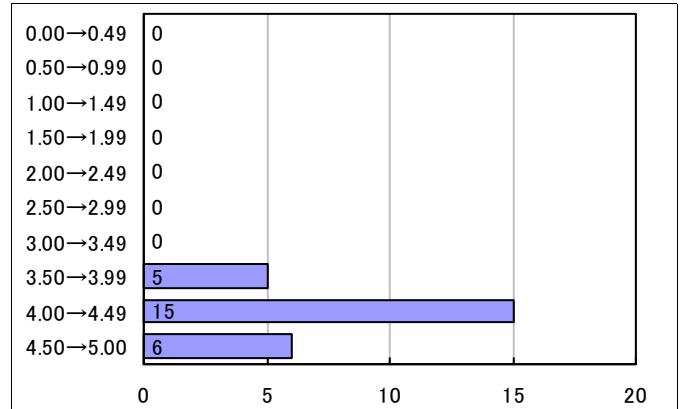
●2.あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか

■全体



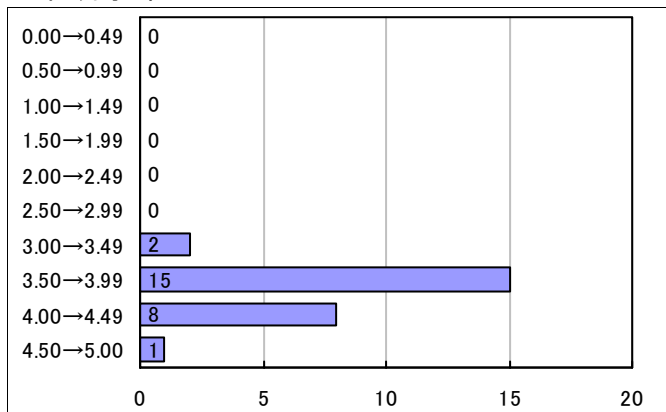
平均値 = 3.98

■人間生活科学部・管理栄養学科



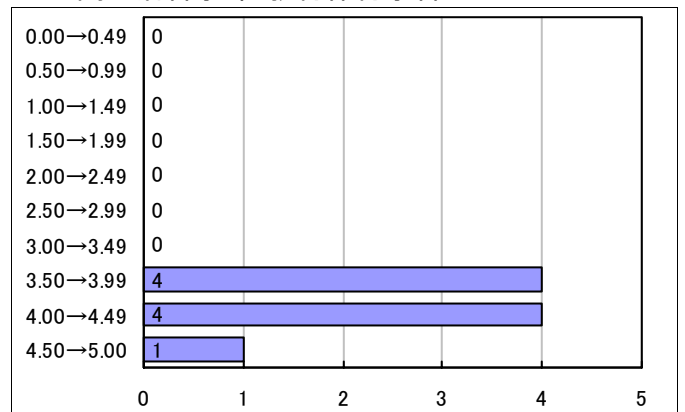
平均値 = 4.16

■経済学部



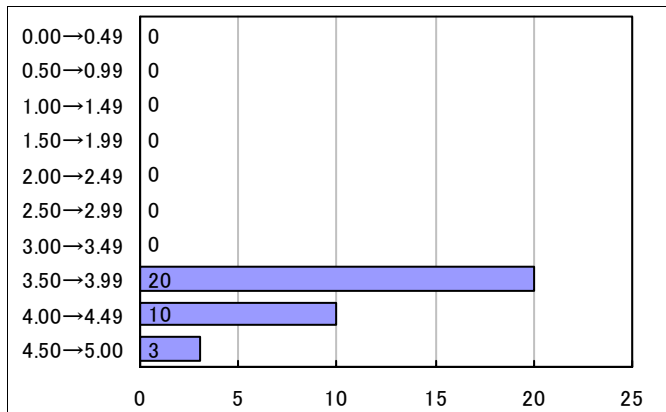
平均値 = 3.90

■人間生活科学部・教育保育学科



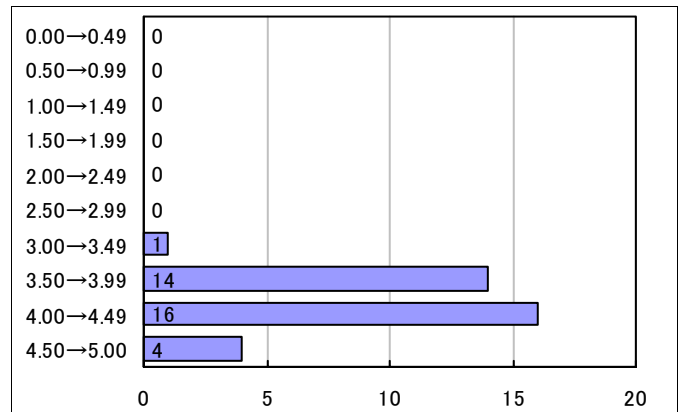
平均値 = 3.98

■経営学部



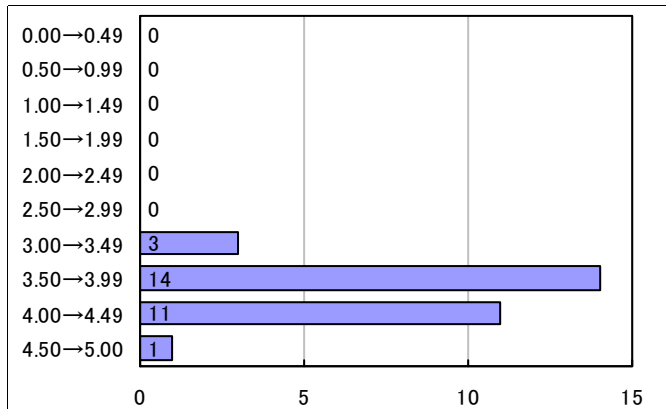
平均値 = 3.99

■非常勤



平均値 = 4.03

■法学部

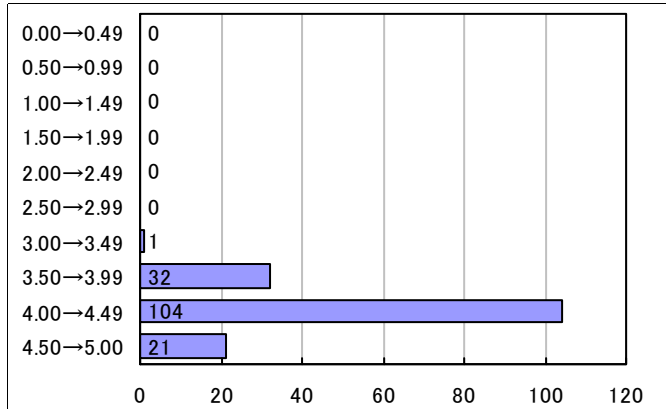


平均値 = 3.84



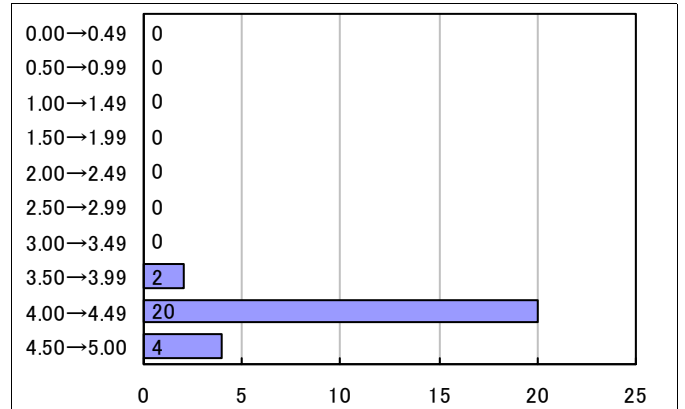
●3.この授業は、シラバスにそって行なわれていますか

■全体



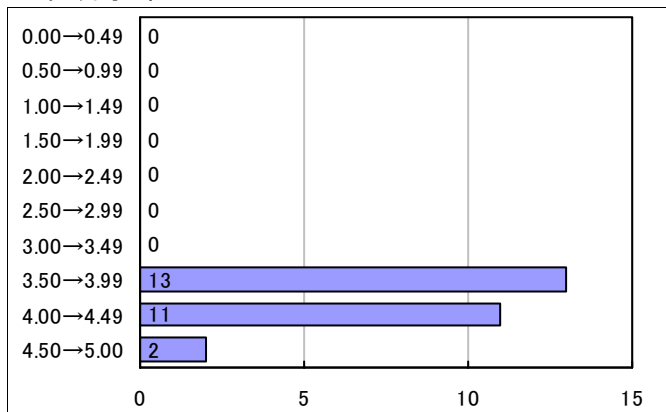
平均値 = 4.16

■人間生活科学部・管理栄養学科



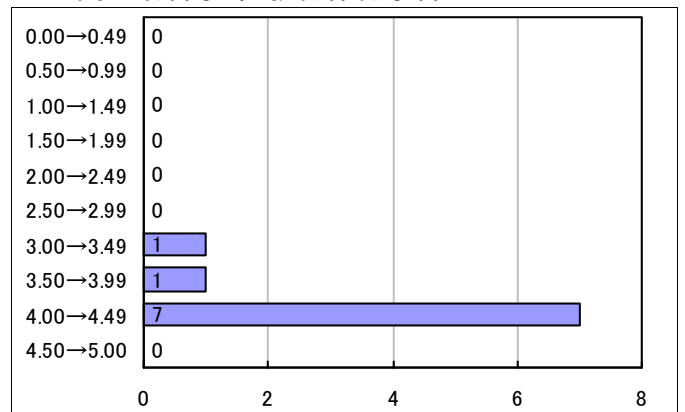
平均値 = 4.22

■経済学部



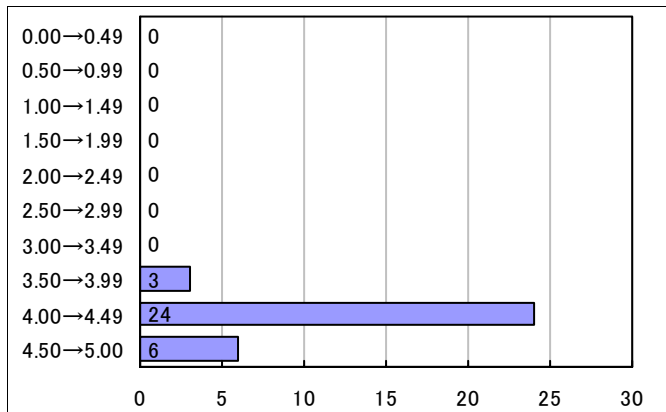
平均値 = 4.05

■人間生活科学部・教育保育学科



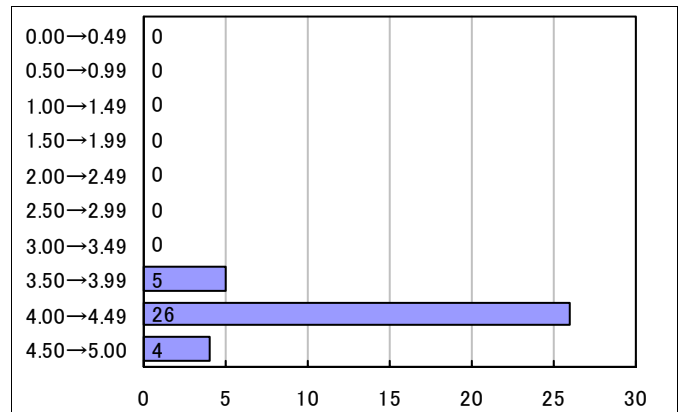
平均値 = 4.05

■経営学部



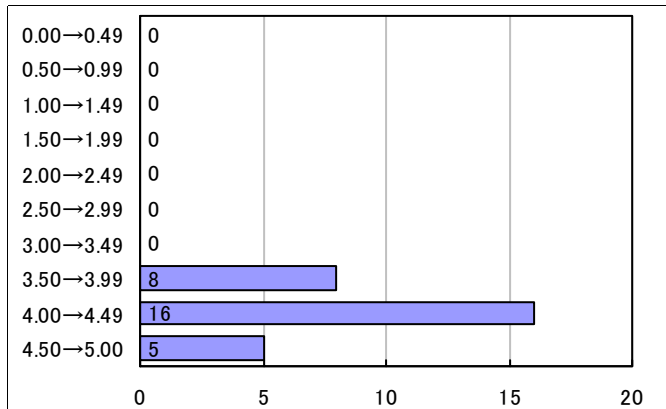
平均値 = 4.23

■非常勤



平均値 = 4.20

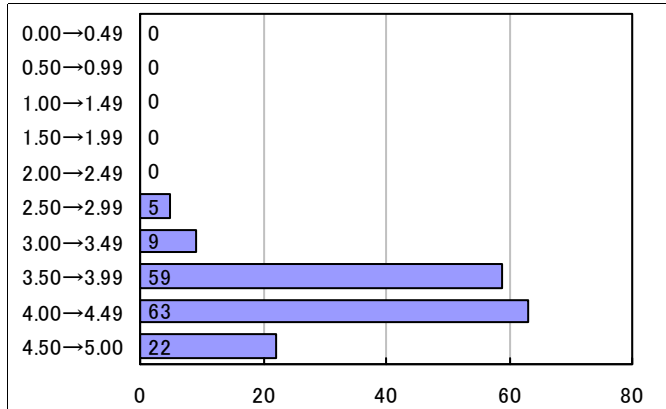
■法学部



平均値 = 4.07

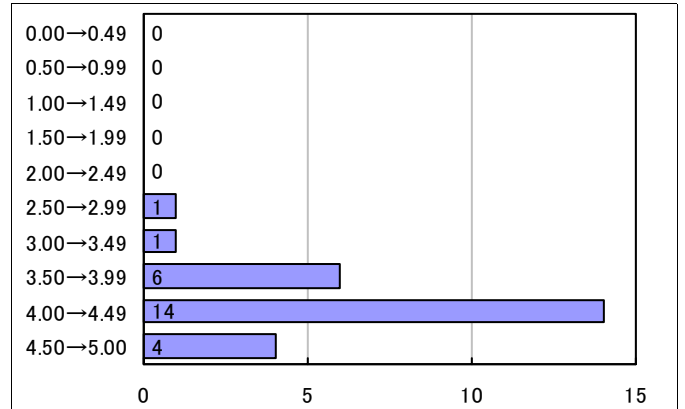
●4.授業内容は、わかりやすいですか

■全体



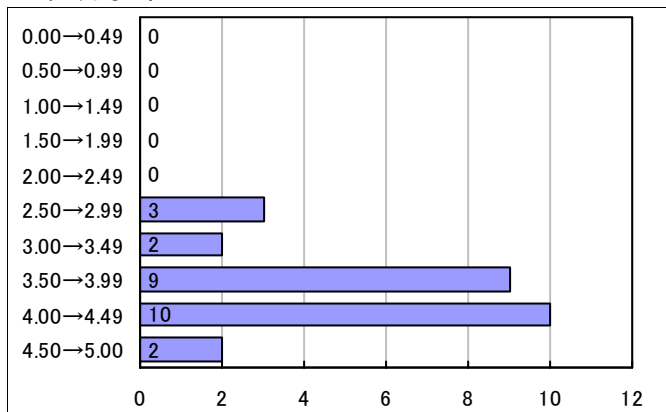
平均値 = 3.96

■人間生活科学部・管理栄養学科



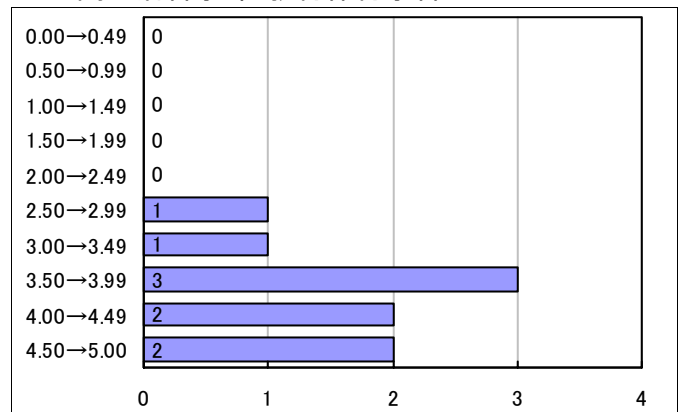
平均値 = 4.06

■経済学部



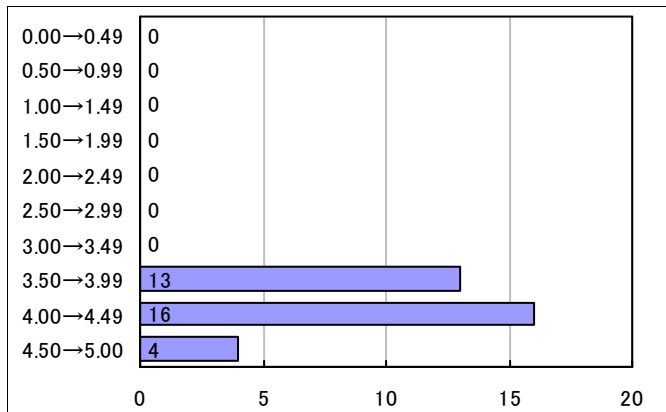
平均値 = 3.81

■人間生活科学部・教育保育学科



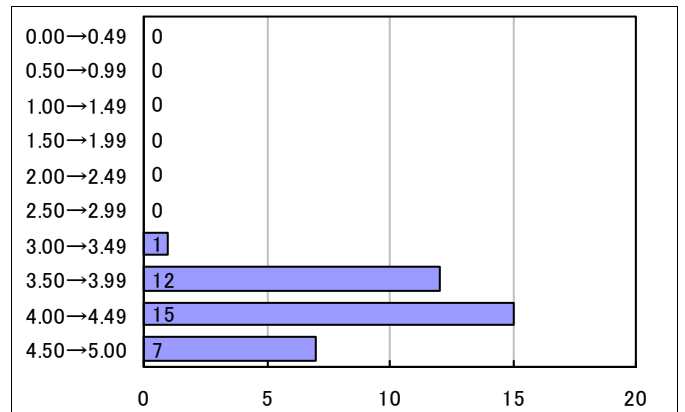
平均値 = 3.70

■経営学部



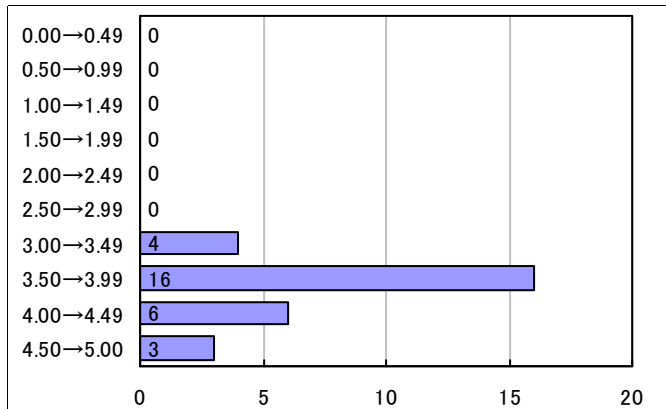
平均値 = 4.09

■非常勤



平均値 = 4.05

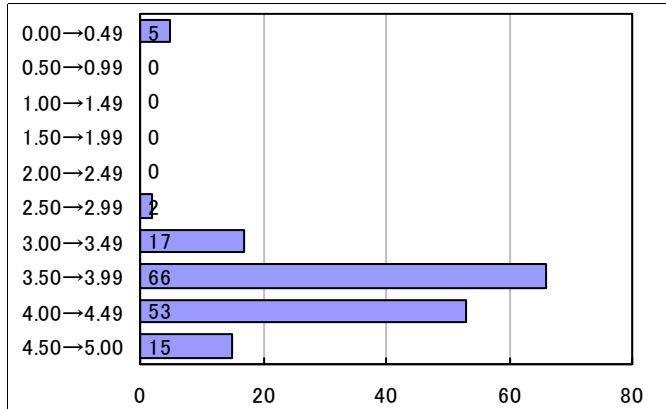
■法学部



平均値 = 3.79

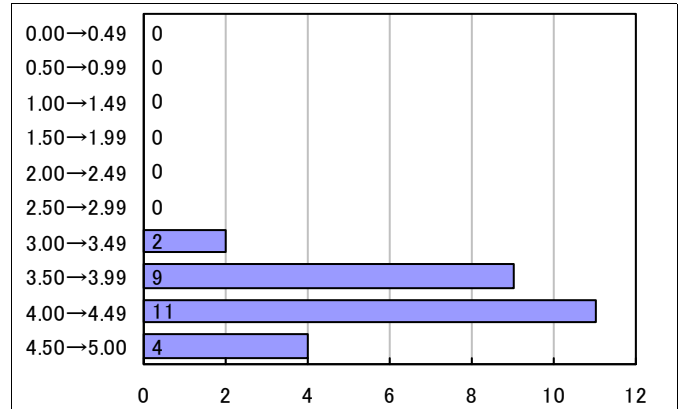
●5.この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか

■全体



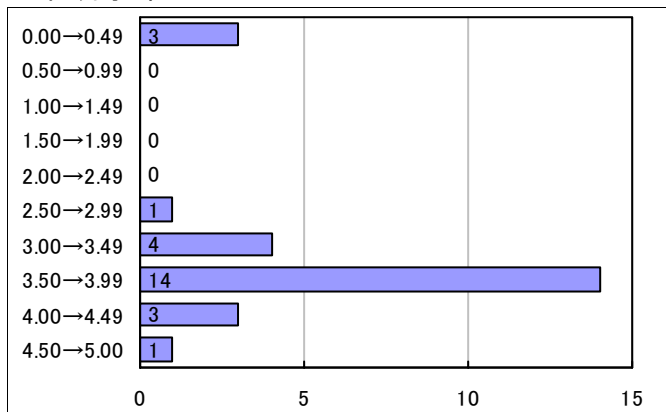
平均値 = 3.89

■人間生活科学部・管理栄養学科



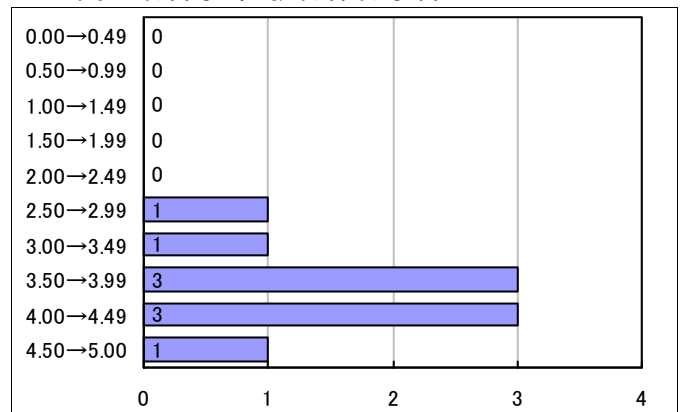
平均値 = 4.05

■経済学部



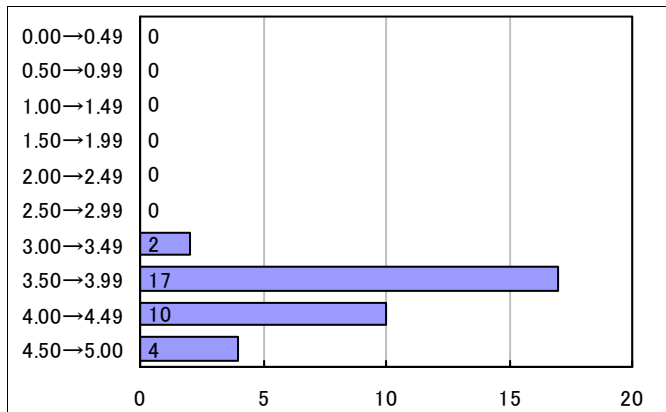
平均値 = 3.73

■人間生活科学部・教育保育学科



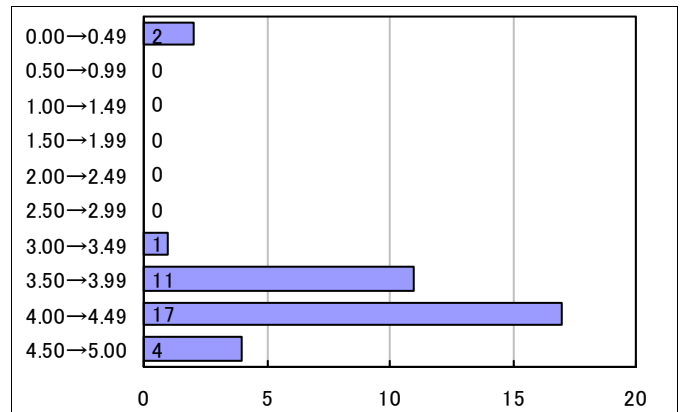
平均値 = 3.60

■経営学部



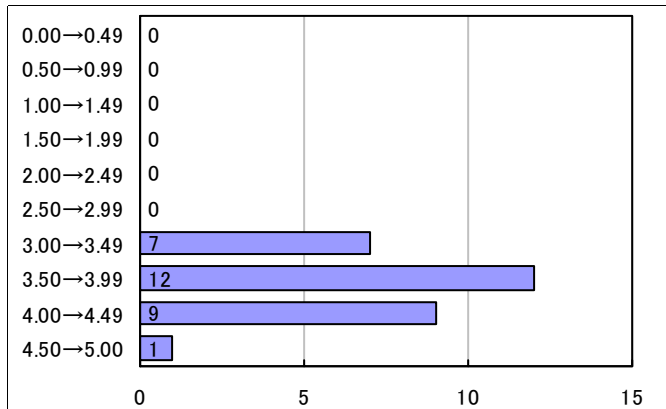
平均値 = 3.97

■非常勤



平均値 = 4.01

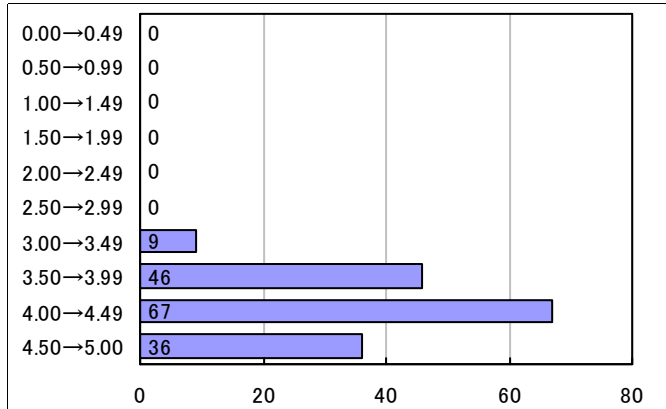
■法学部



平均値 = 3.73

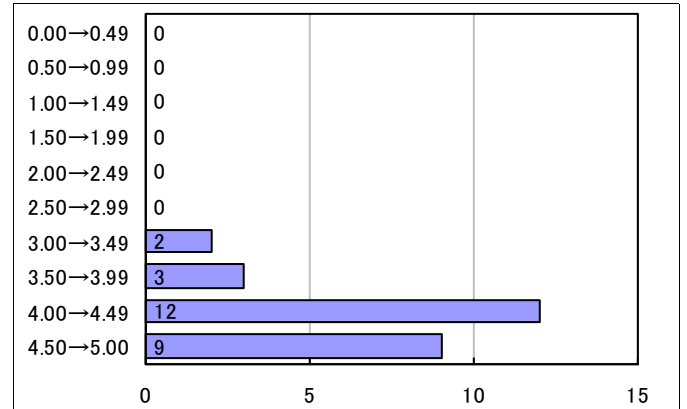
●6.教員の教え方には、熱意が感じられますか

■全体



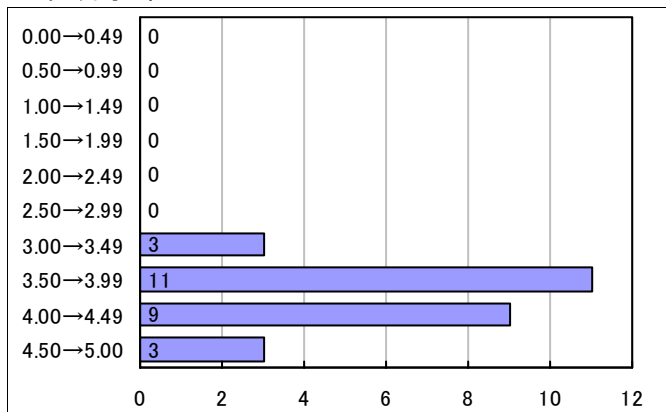
平均値 = 4.08

■人間生活科学部・管理栄養学科



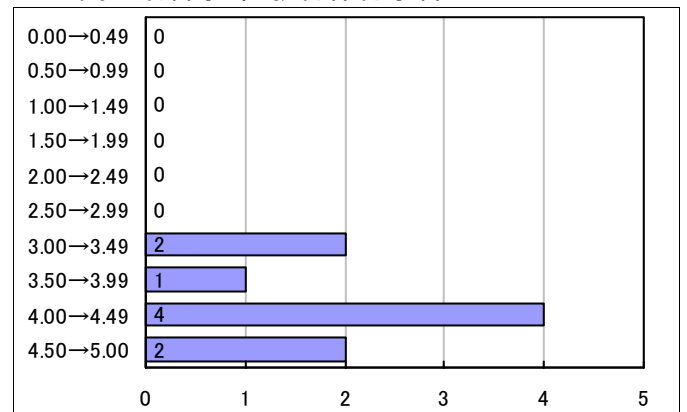
平均値 = 4.23

■経済学部



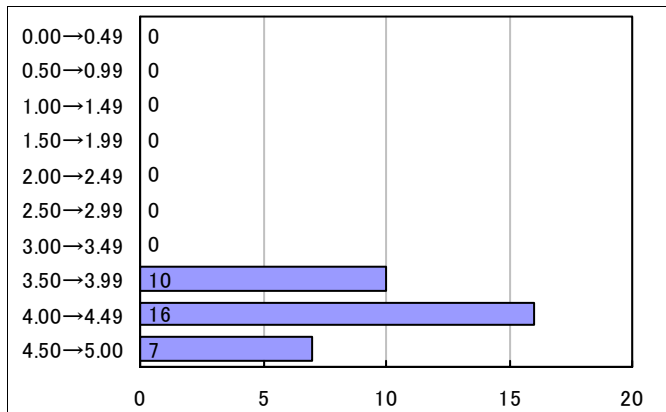
平均値 = 3.97

■人間生活科学部・教育保育学科



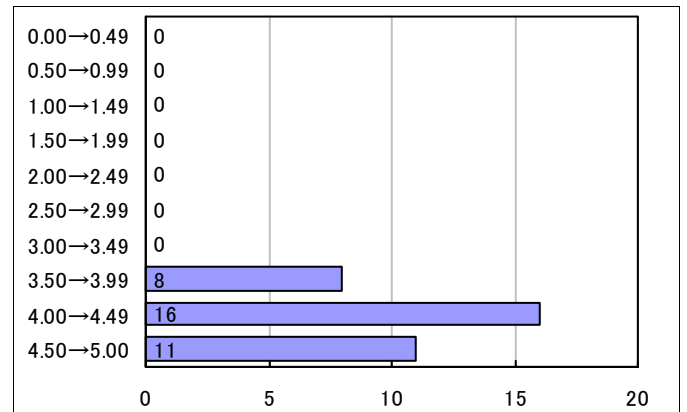
平均値 = 3.87

■経営学部



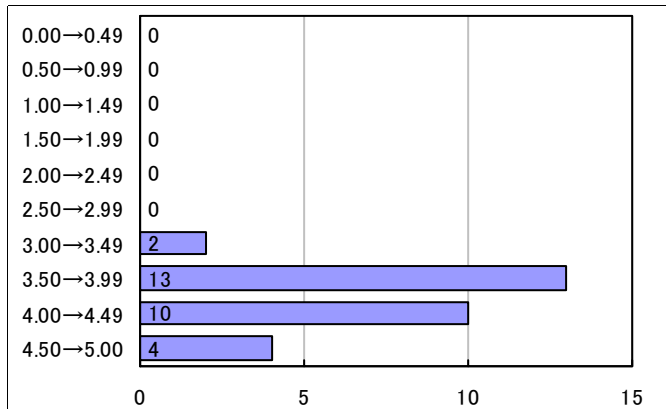
平均値 = 4.18

■非常勤



平均値 = 4.16

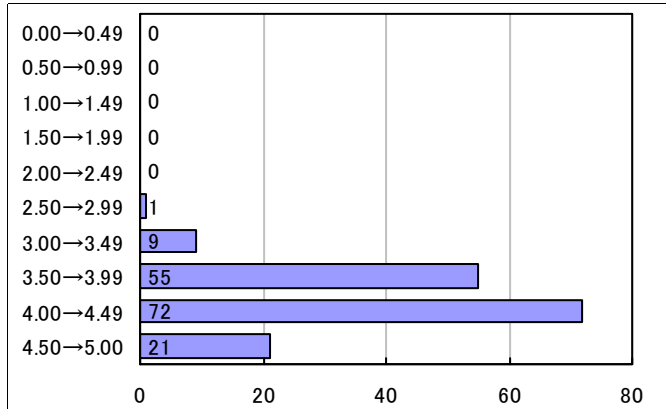
■法学部



平均値 = 3.90

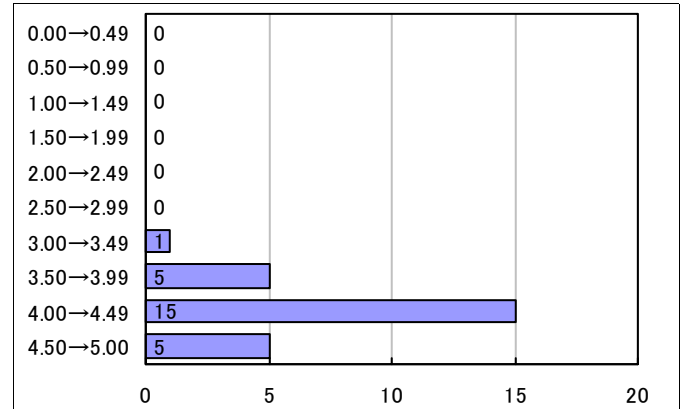
●7.授業の速さや進め方は、適切ですか

■全体



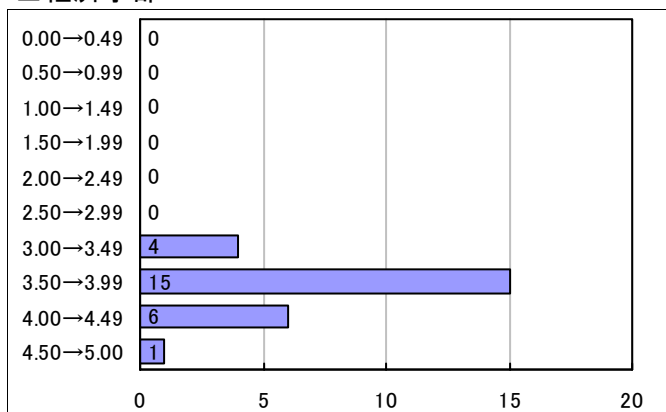
平均値 = 4.01

■人間生活科学部・管理栄養学科



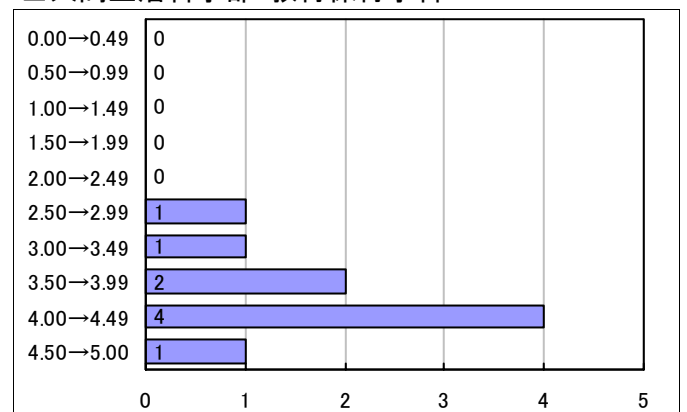
平均値 = 4.14

■経済学部



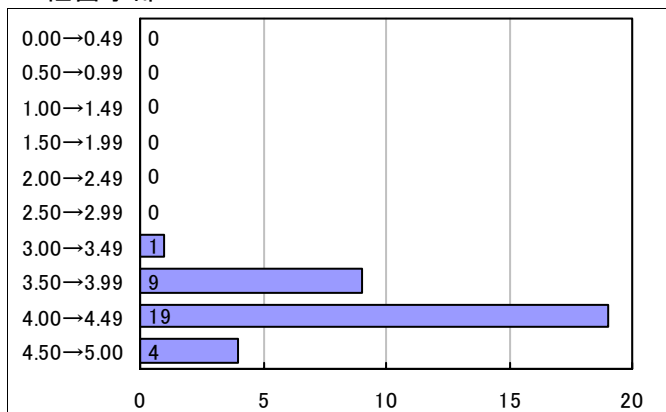
平均値 = 3.81

■人間生活科学部・教育保育学科



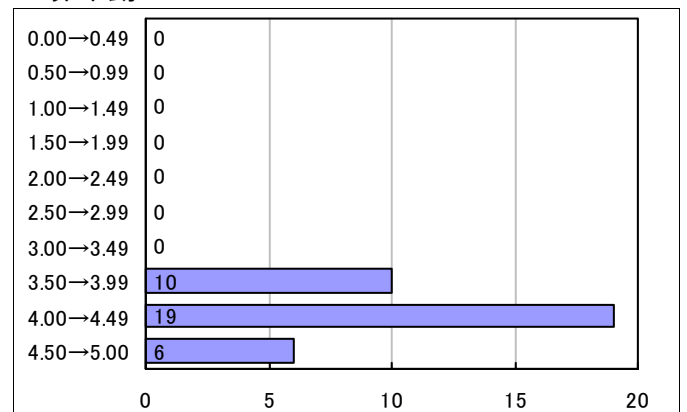
平均値 = 3.71

■経営学部



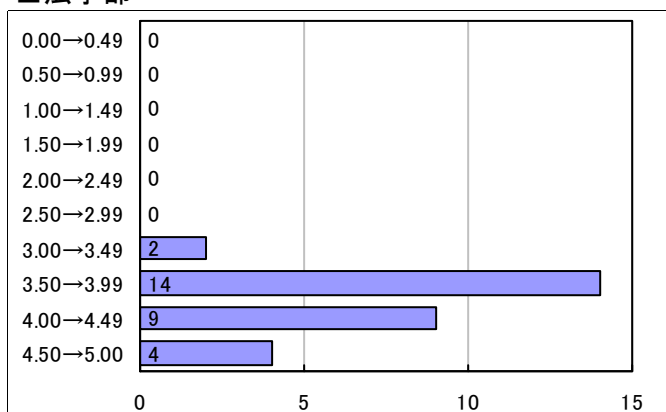
平均値 = 4.12

■非常勤



平均値 = 4.10

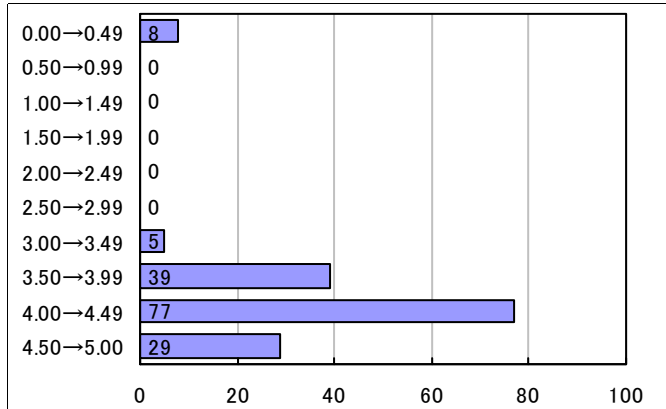
■法学部



平均値 = 3.92

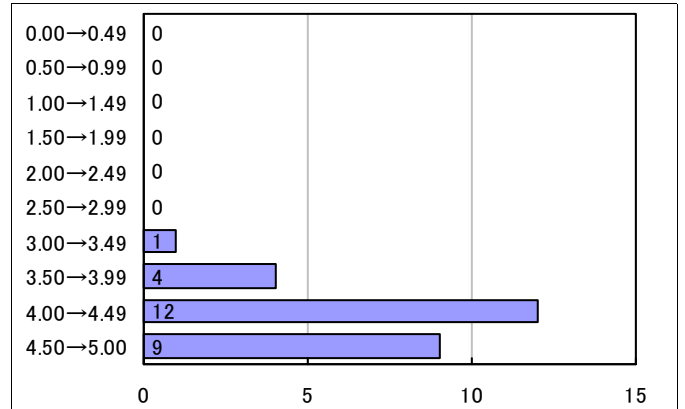
●8.教科書、配布資料が活用されていますか

■全体



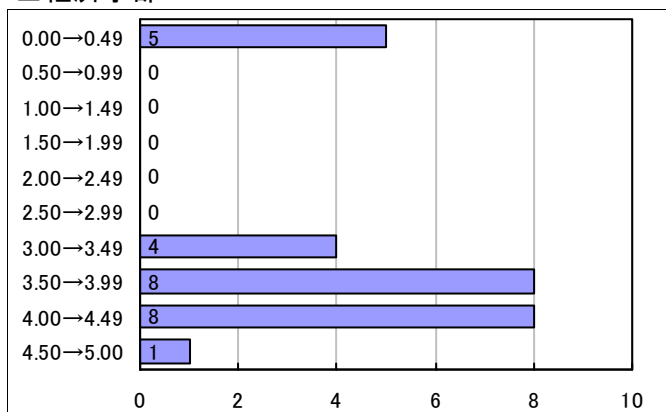
平均値 = 4.13

■人間生活科学部・管理栄養学科



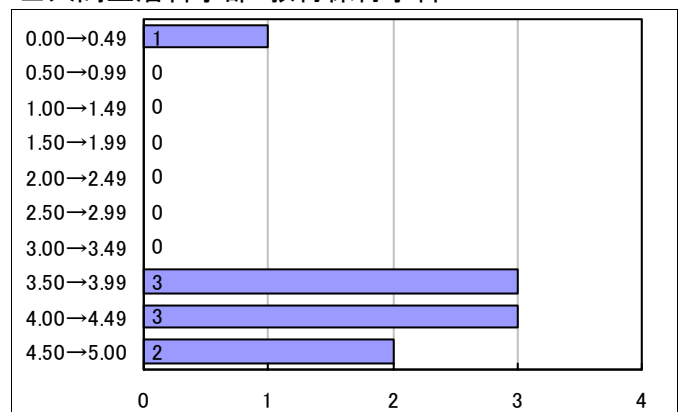
平均値 = 4.23

■経済学部



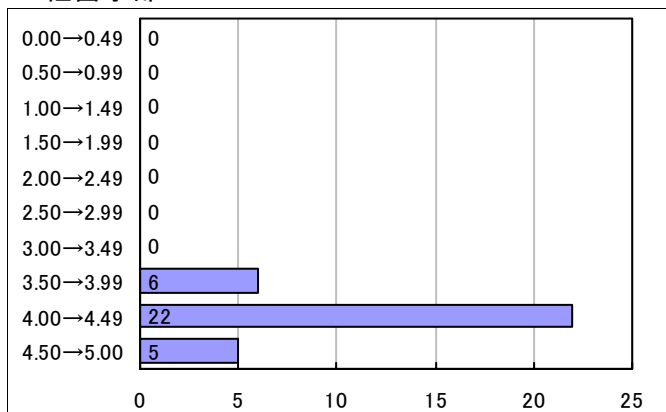
平均値 = 3.89

■人間生活科学部・教育保育学科



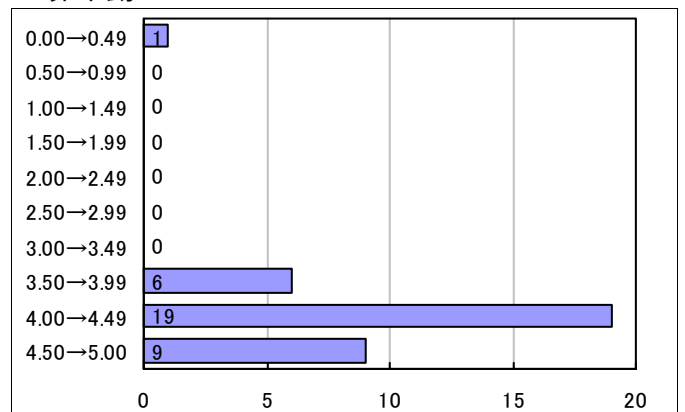
平均値 = 4.06

■経営学部



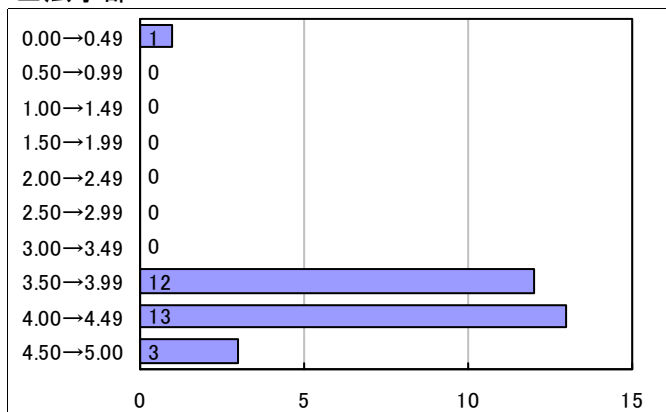
平均値 = 4.25

■非常勤



平均値 = 4.19

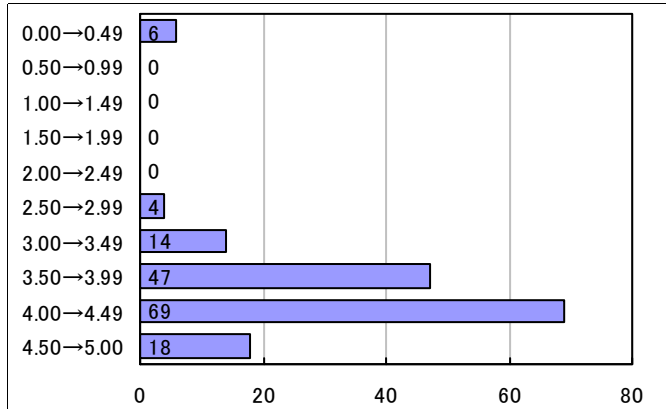
■法学部



平均値 = 4.00

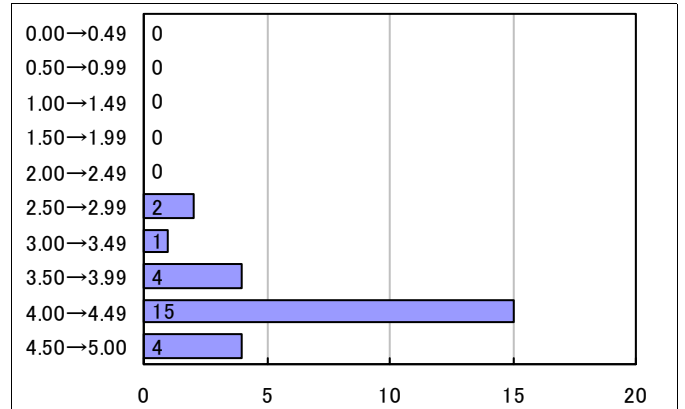
●9.板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか

■全体



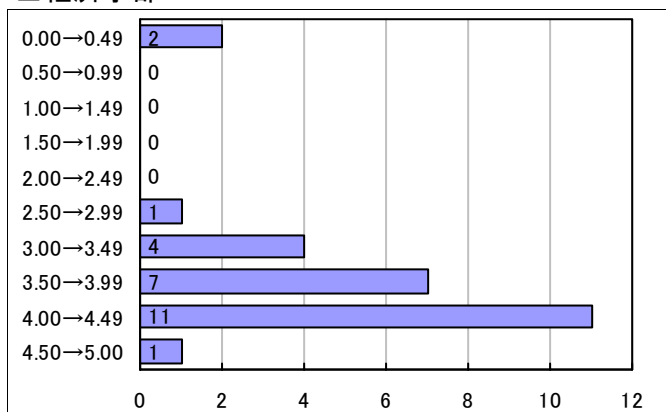
平均値 = 3.98

■人間生活科学部・管理栄養学科



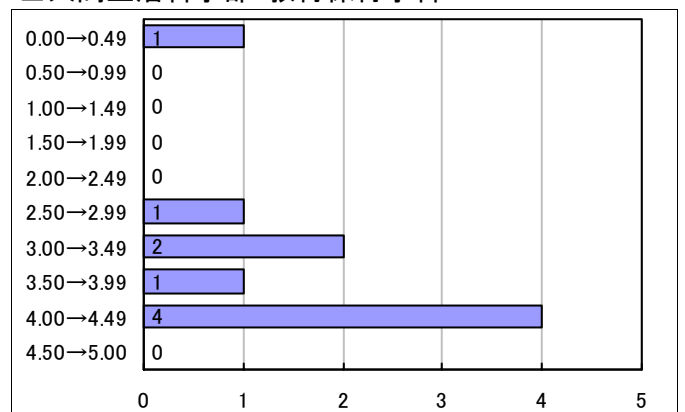
平均値 = 4.07

■経済学部



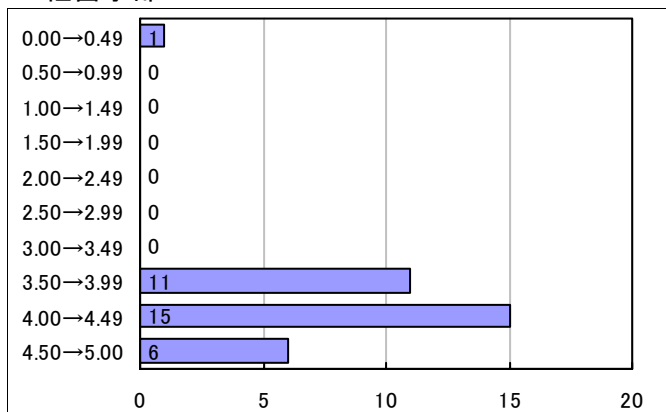
平均値 = 3.87

■人間生活科学部・教育保育学科



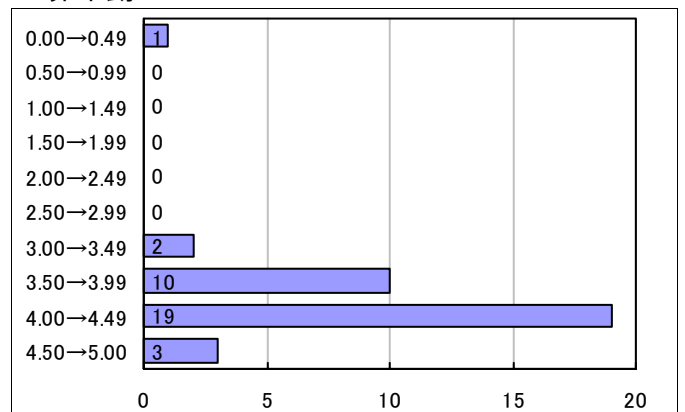
平均値 = 3.58

■経営学部



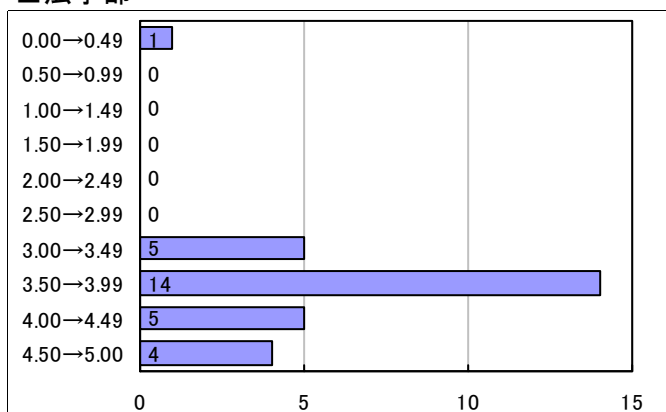
平均値 = 4.18

■非常勤



平均値 = 4.02

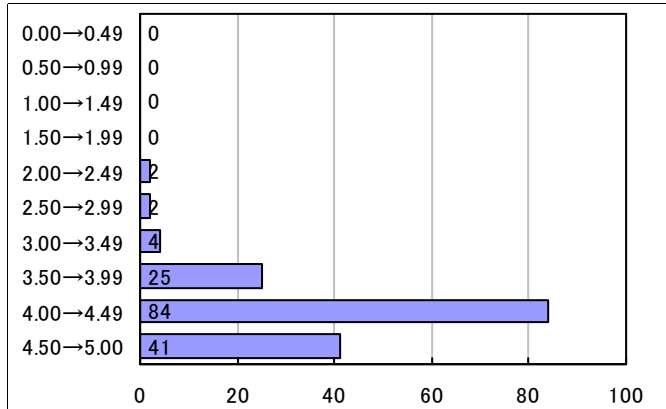
■法学部



平均値 = 3.79

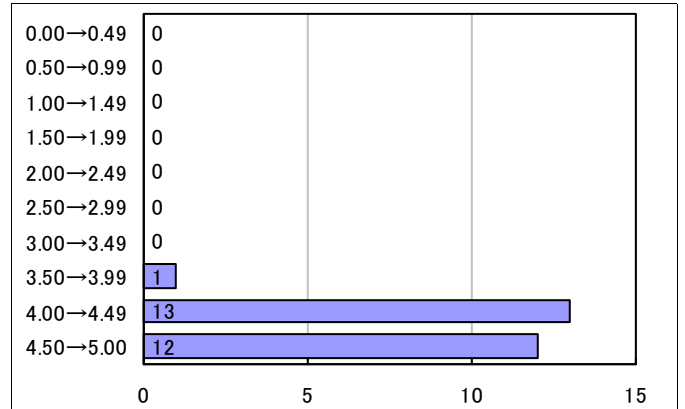
●10.教員の声は聞き取りやすいですか

■全体



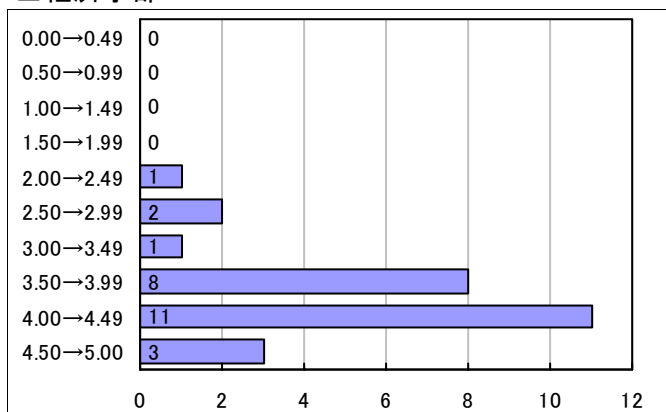
平均値 = 4.19

■人間生活科学部・管理栄養学科



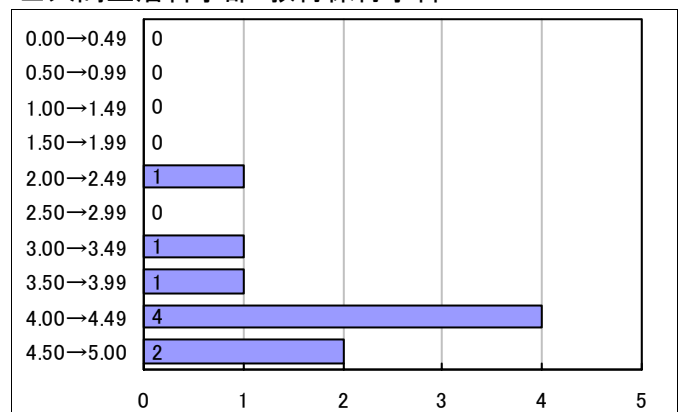
平均値 = 4.41

■経済学部



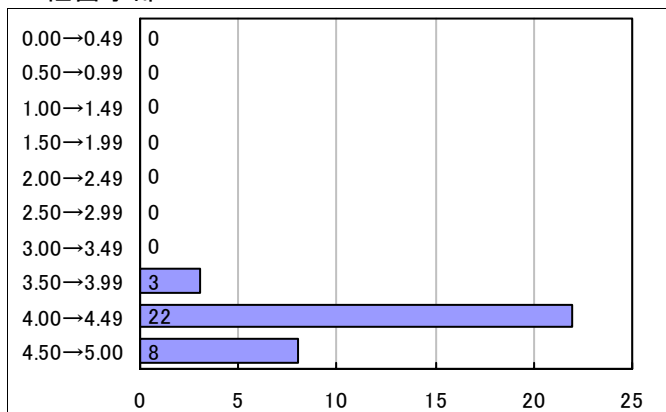
平均値 = 4.02

■人間生活科学部・教育保育学科



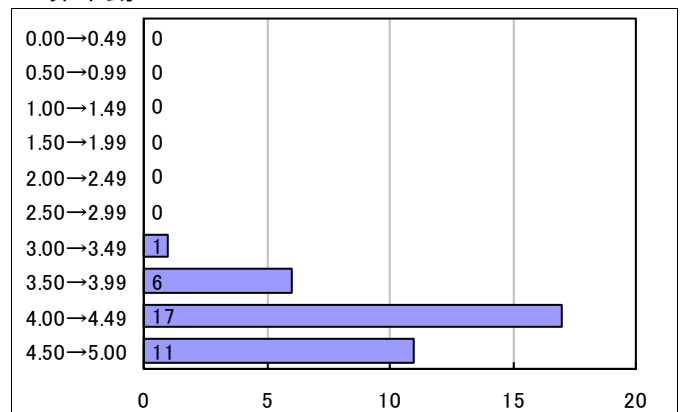
平均値 = 3.69

■経営学部



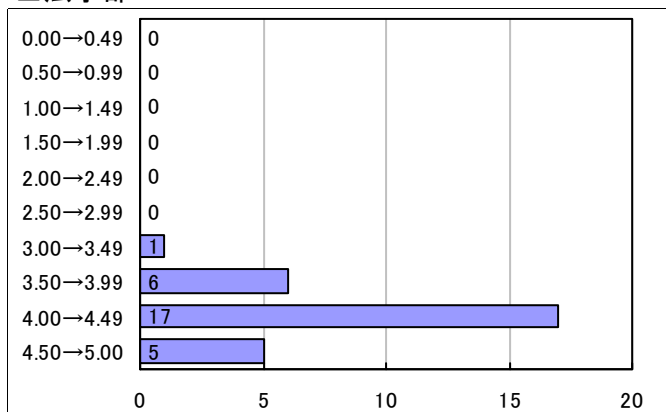
平均値 = 4.29

■非常勤



平均値 = 4.19

■法学部

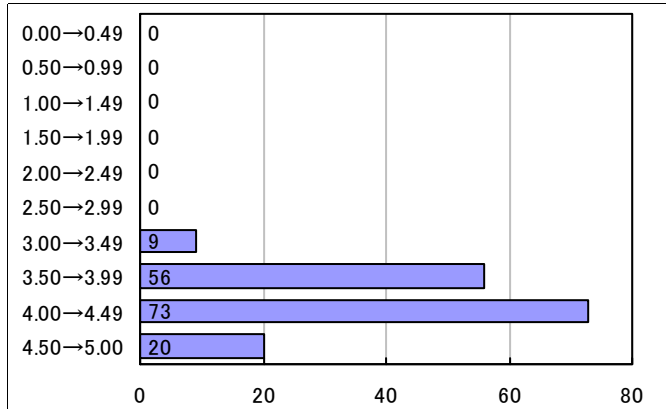


平均値 = 4.13



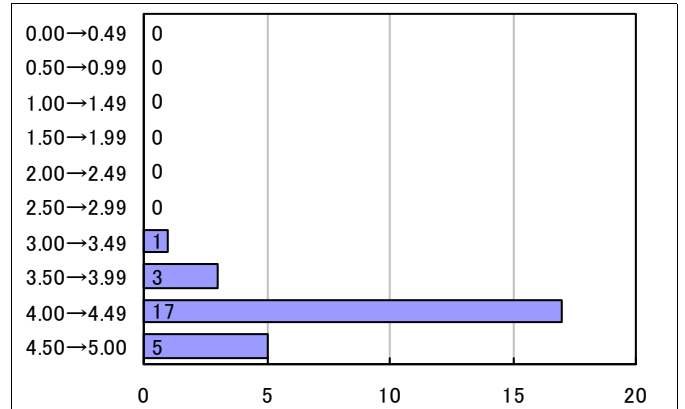
●11.一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか

■全体



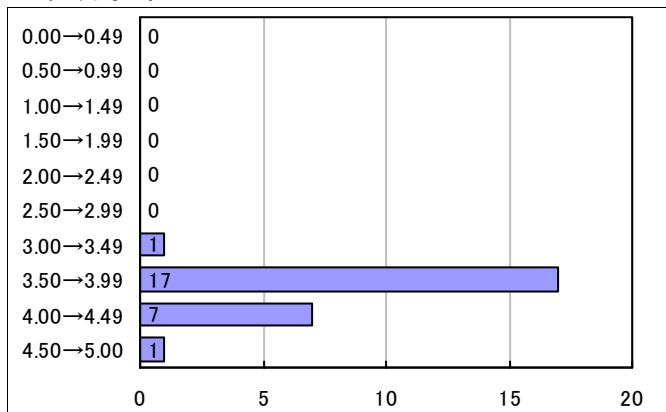
平均値 = 4.02

■人間生活科学部・管理栄養学科



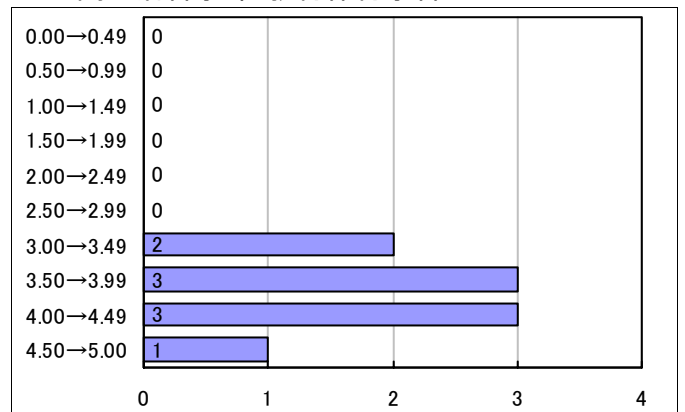
平均値 = 4.16

■経済学部



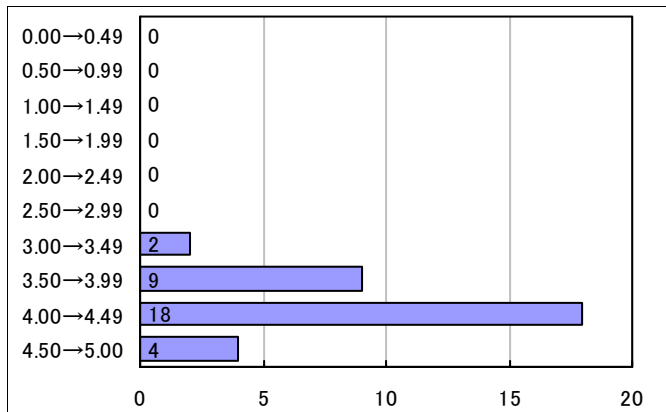
平均値 = 3.91

■人間生活科学部・教育保育学科



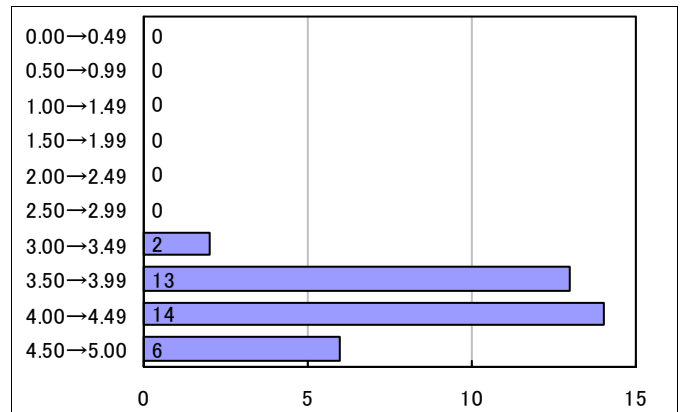
平均値 = 3.80

■経営学部



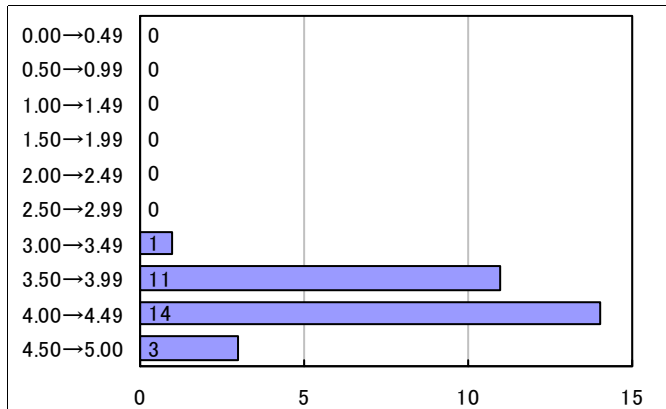
平均値 = 4.10

■非常勤



平均値 = 4.02

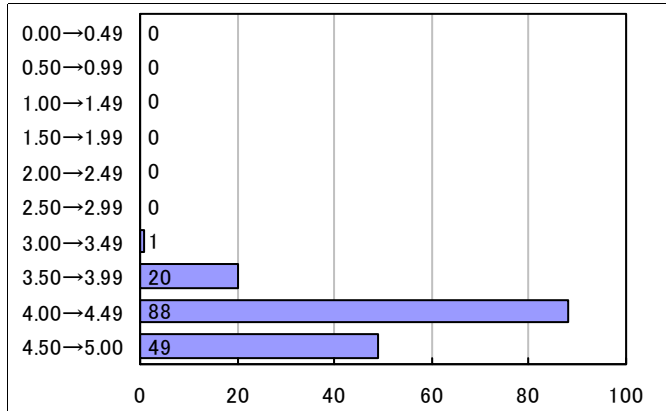
■法学部



平均値 = 3.94

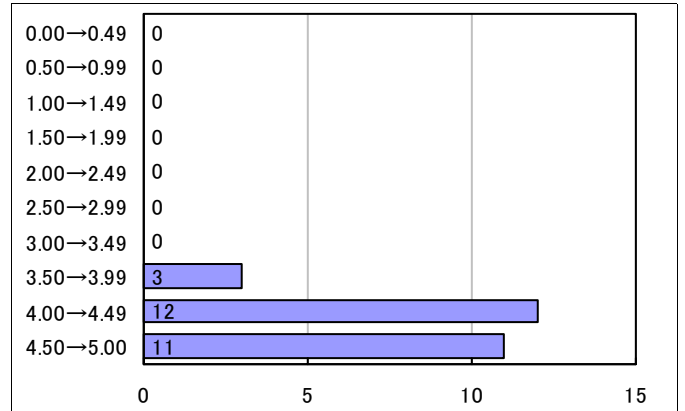
●12.教員は、授業時間を守っていますか

■全体



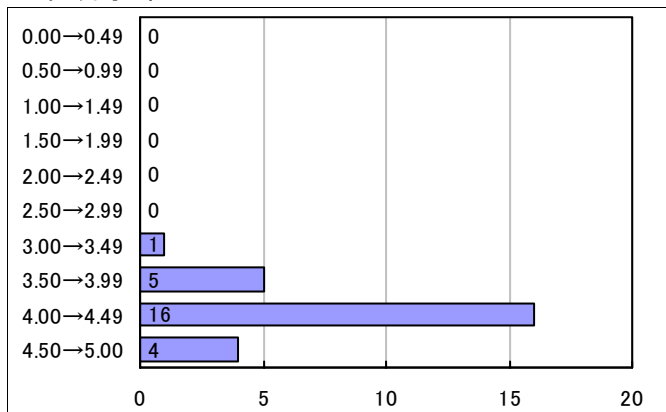
平均値 = 4.30

■人間生活科学部・管理栄養学科



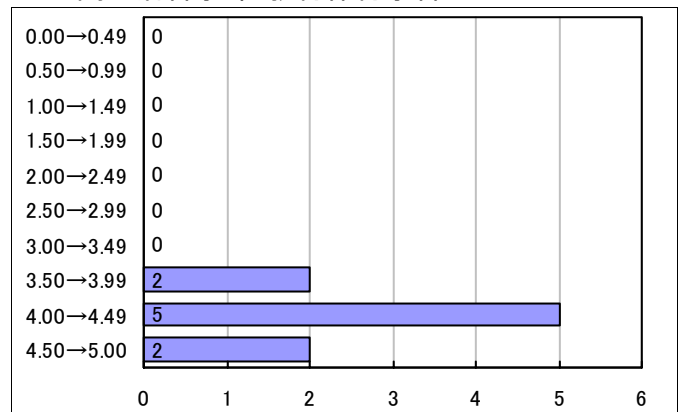
平均値 = 4.31

■経済学部



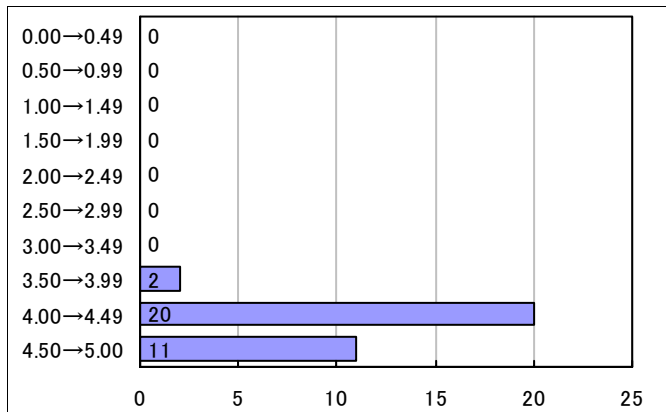
平均値 = 4.21

■人間生活科学部・教育保育学科



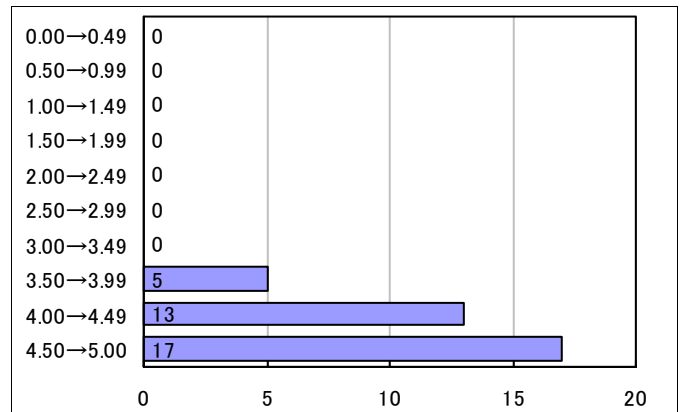
平均値 = 4.23

■経営学部



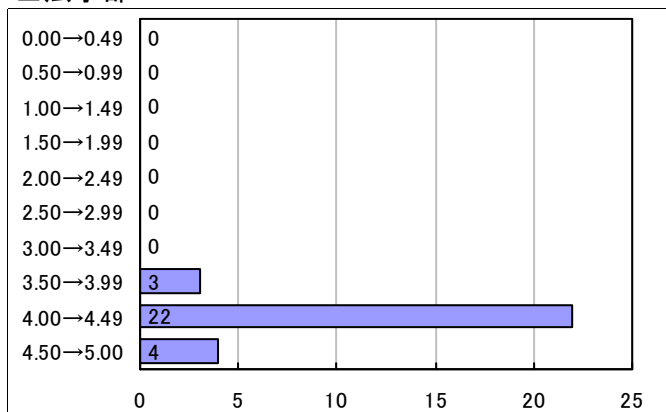
平均値 = 4.40

■非常勤



平均値 = 4.32

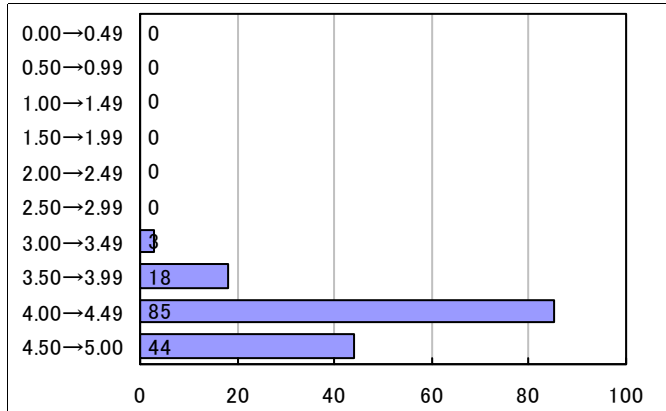
■法学部



平均値 = 4.24

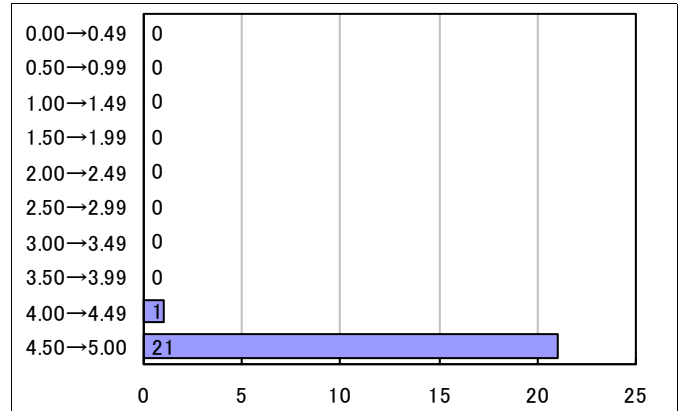
●1.あなたは、この授業に出席していますか

■全体



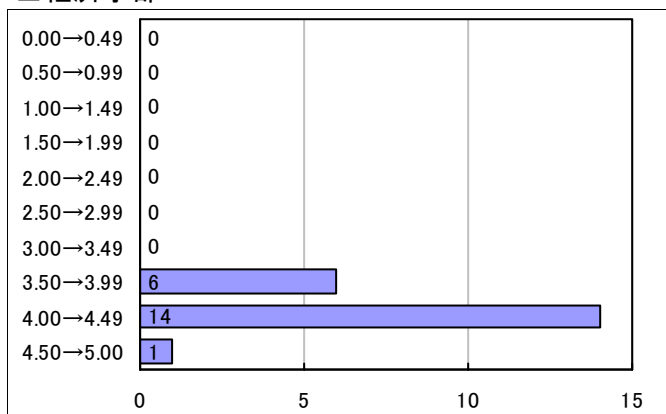
平均値 = 4.30

■人間生活科学部・管理栄養学科



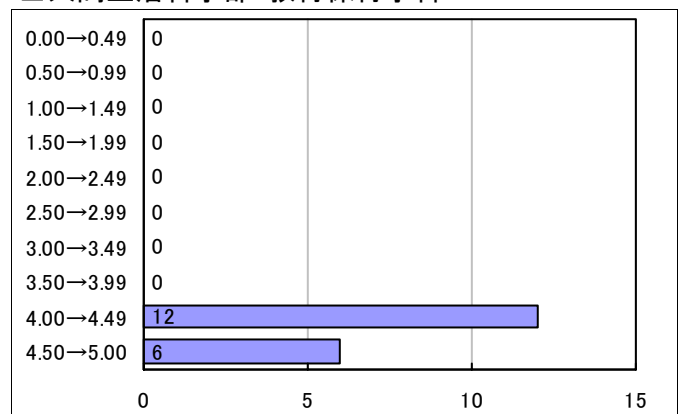
平均値 = 4.66

■経済学部



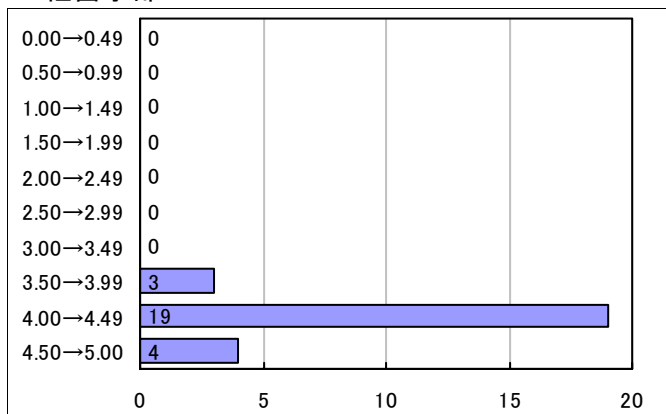
平均値 = 4.12

■人間生活科学部・教育保育学科



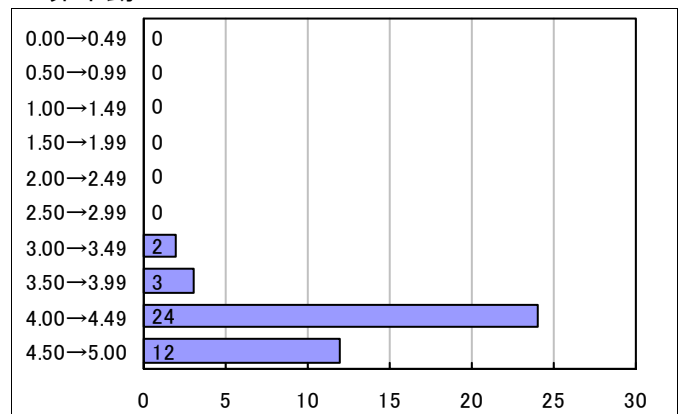
平均値 = 4.43

■経営学部



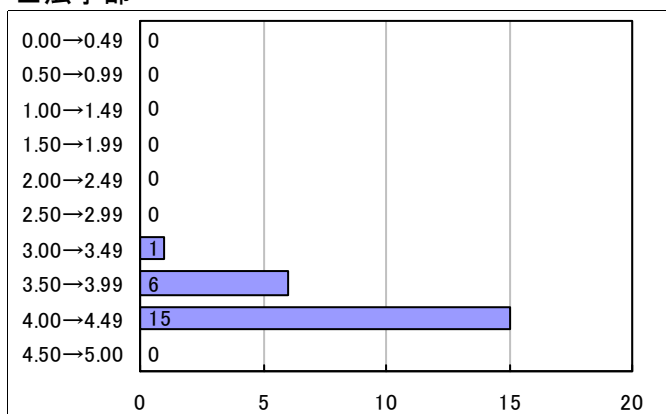
平均値 = 4.25

■非常勤



平均値 = 4.31

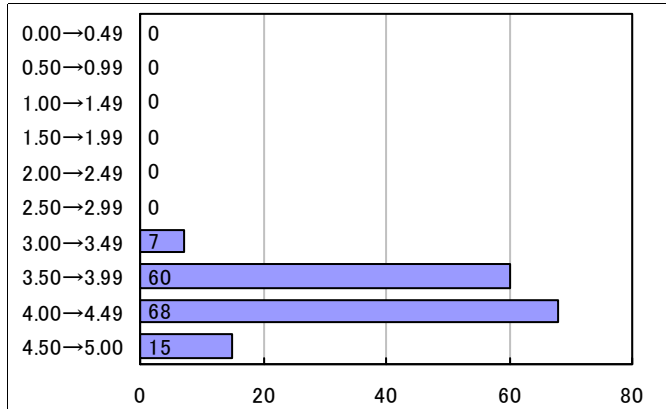
■法学部



平均値 = 4.07

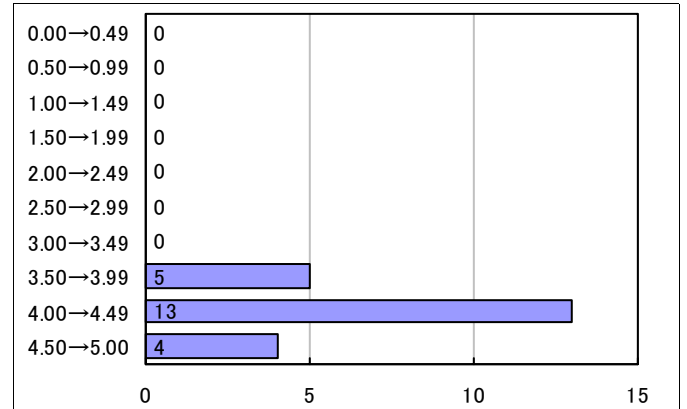
●2.あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか

■全体



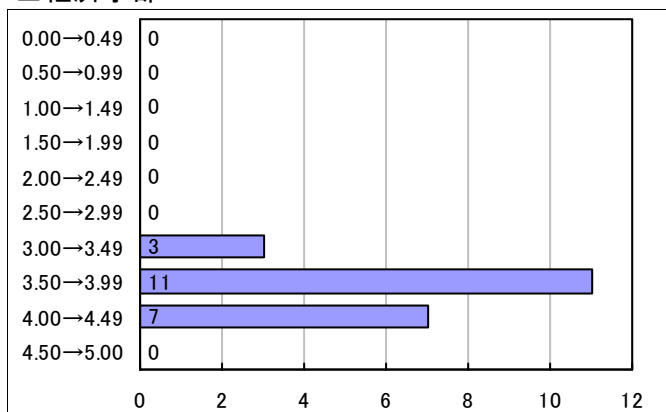
平均値 = 3.99

■人間生活科学部・管理栄養学科



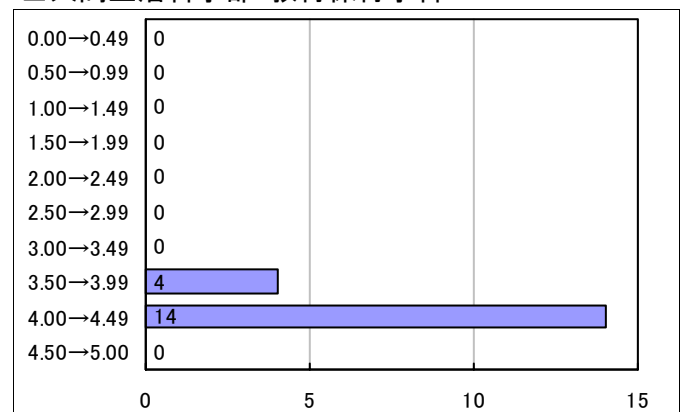
平均値 = 4.17

■経済学部



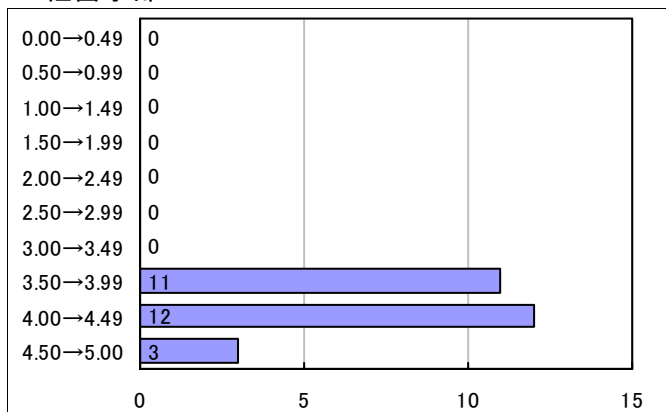
平均値 = 3.84

■人間生活科学部・教育保育学科



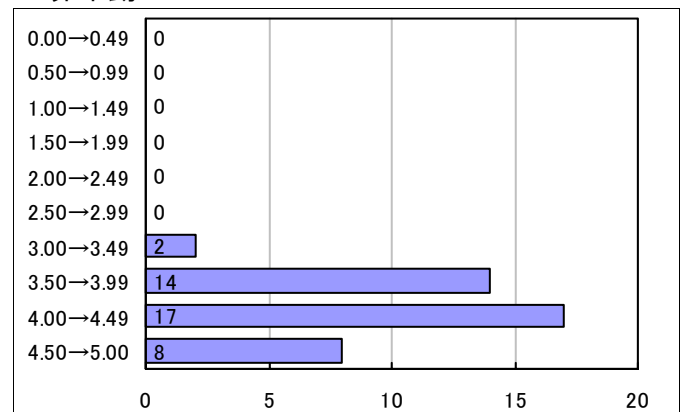
平均値 = 4.15

■経営学部



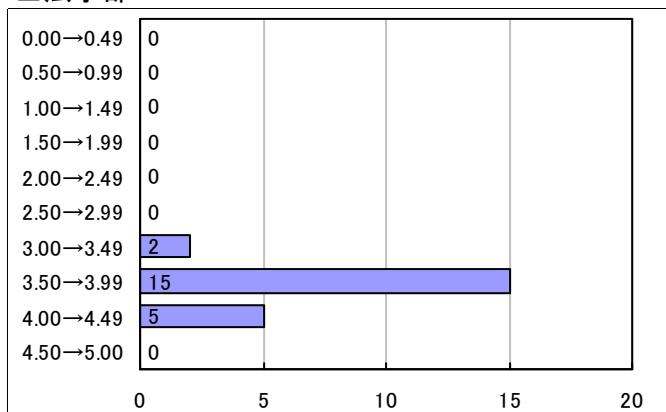
平均値 = 4.04

■非常勤



平均値 = 4.00

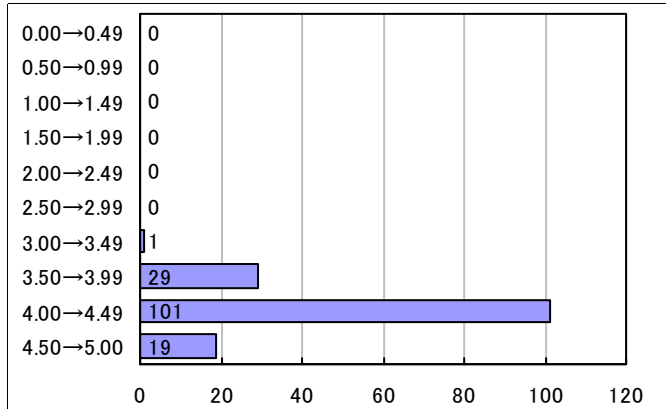
■法学部



平均値 = 3.77

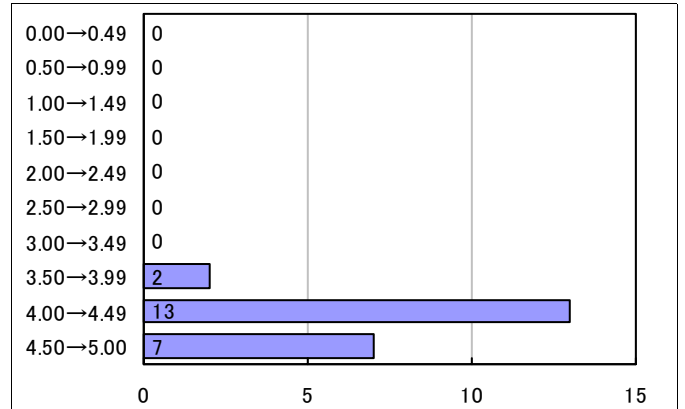
●3.この授業は、シラバスにそって行なわれていますか

■全体



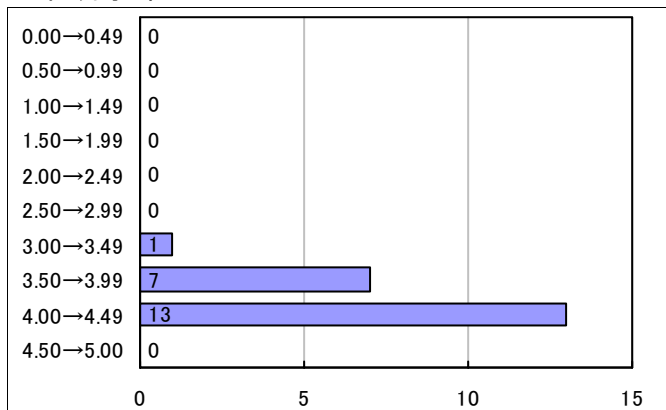
平均値 = 4.16

■人間生活科学部・管理栄養学科



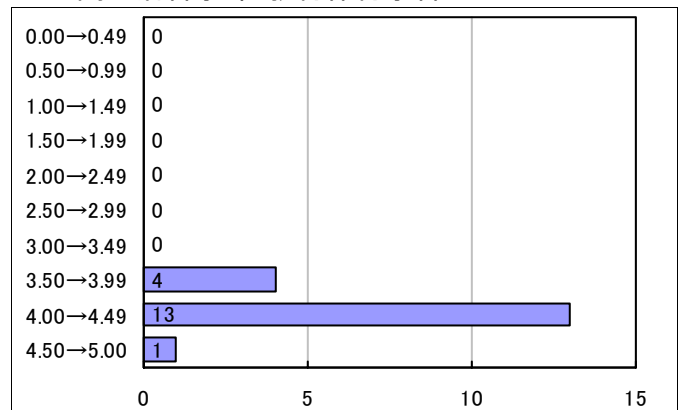
平均値 = 4.32

■経済学部



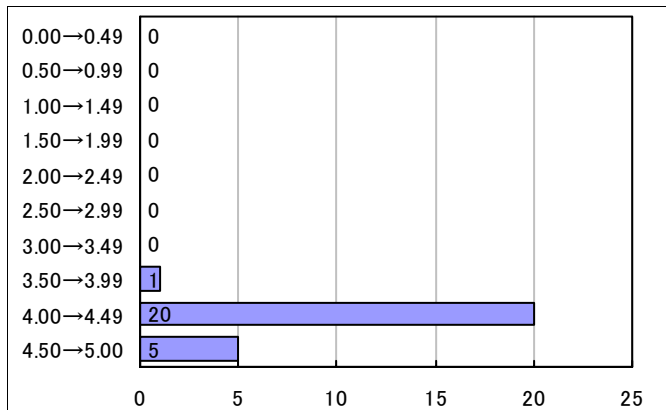
平均値 = 4.01

■人間生活科学部・教育保育学科



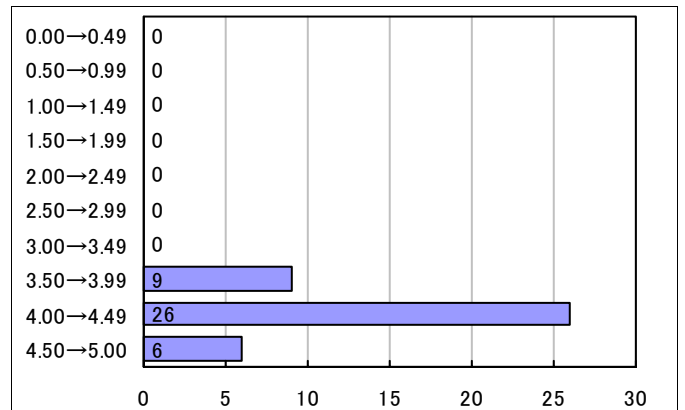
平均値 = 4.21

■経営学部



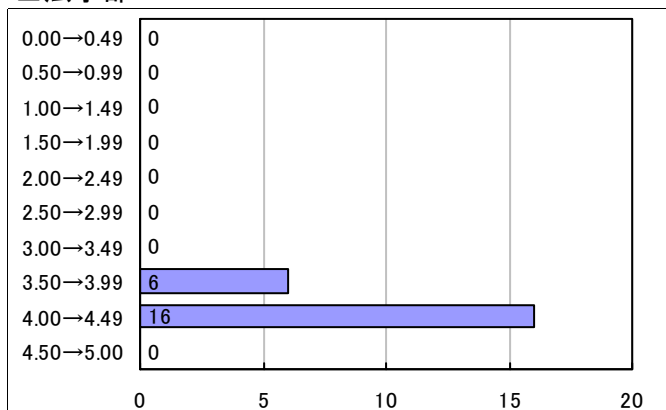
平均値 = 4.26

■非常勤



平均値 = 4.11

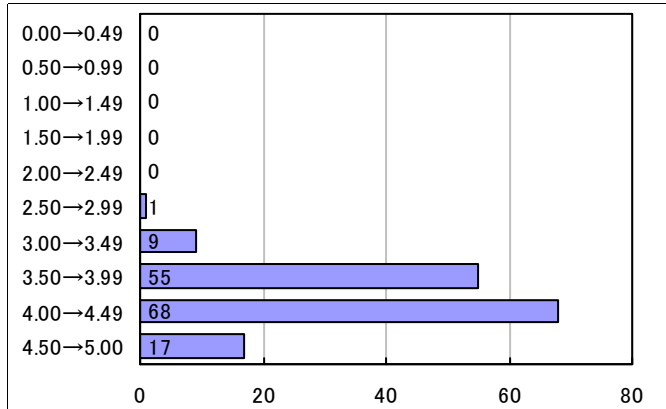
■法学部



平均値 = 4.06

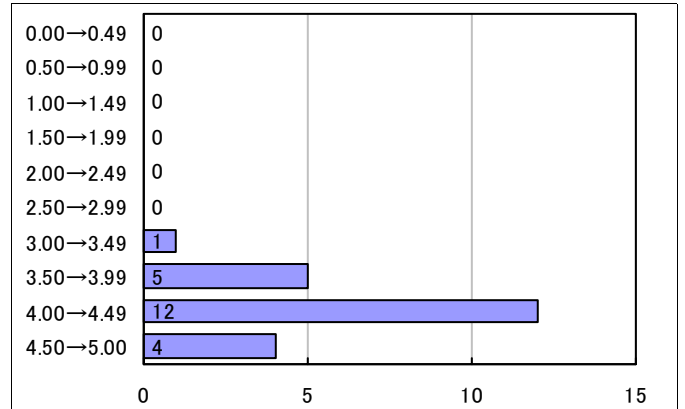
●4.授業内容は、わかりやすいですか

■全体



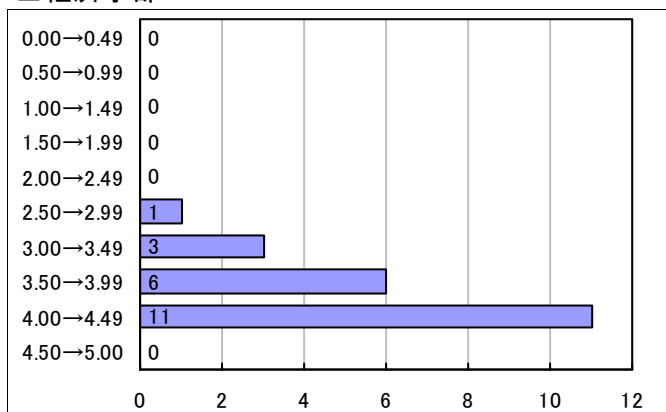
平均値 = 3.98

■人間生活科学部・管理栄養学科



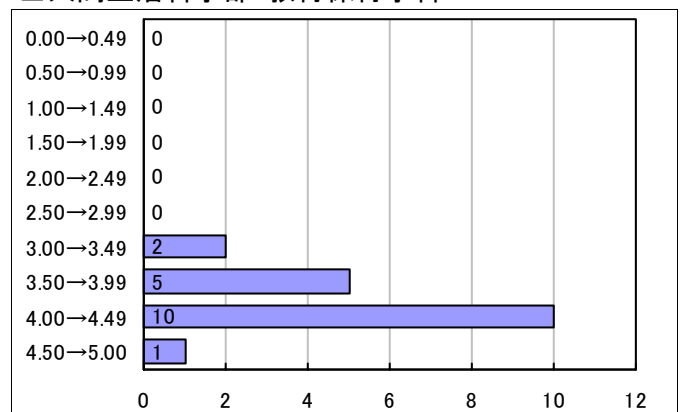
平均値 = 4.16

■経済学部



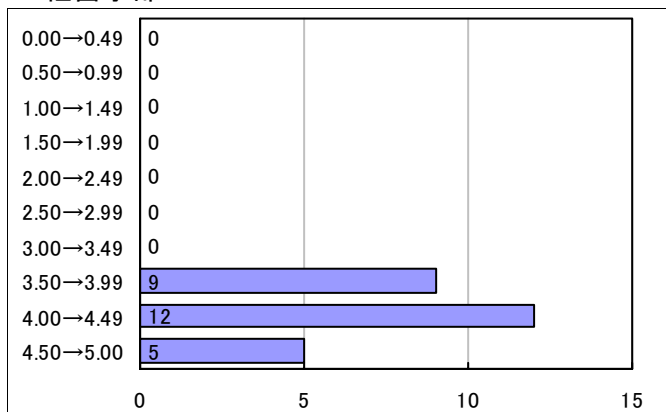
平均値 = 3.86

■人間生活科学部・教育保育学科



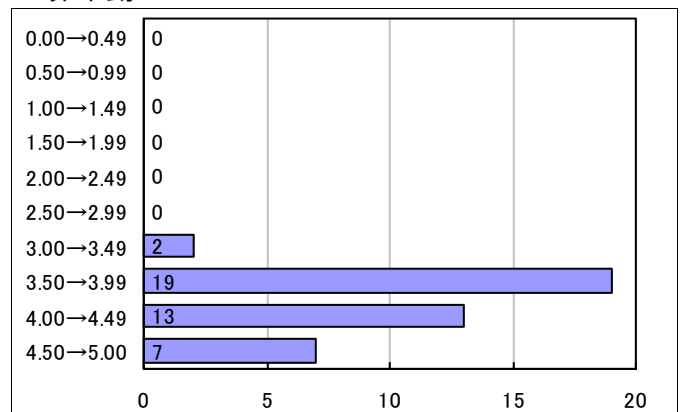
平均値 = 4.01

■経営学部



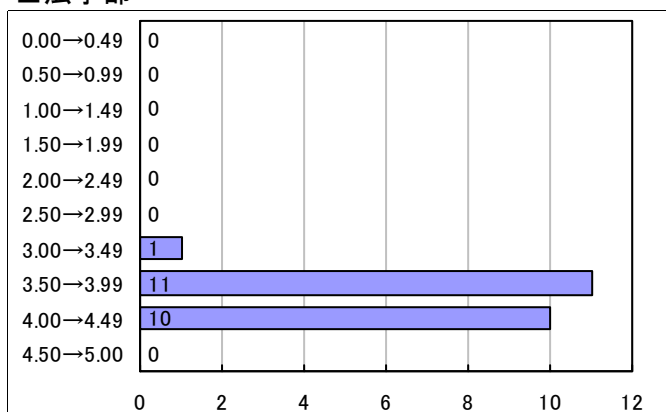
平均値 = 4.09

■非常勤



平均値 = 3.92

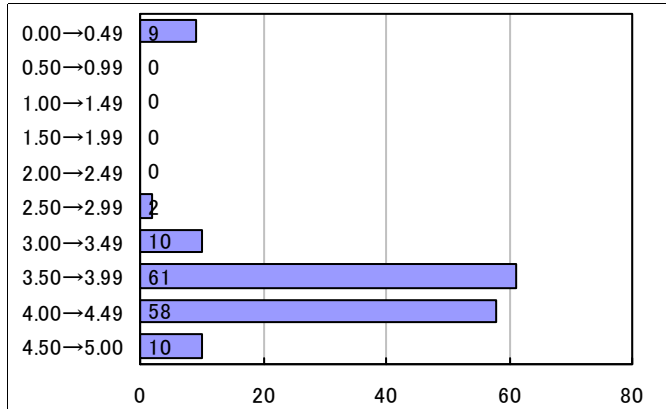
■法学部



平均値 = 3.88

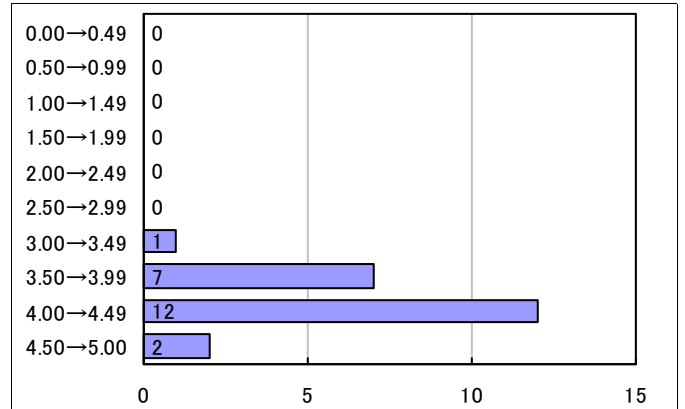
●5.この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか

■全体



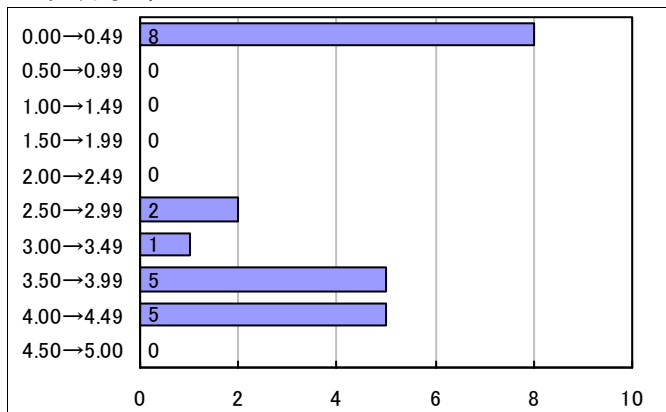
平均値 = 3.91

■人間生活科学部・管理栄養学科



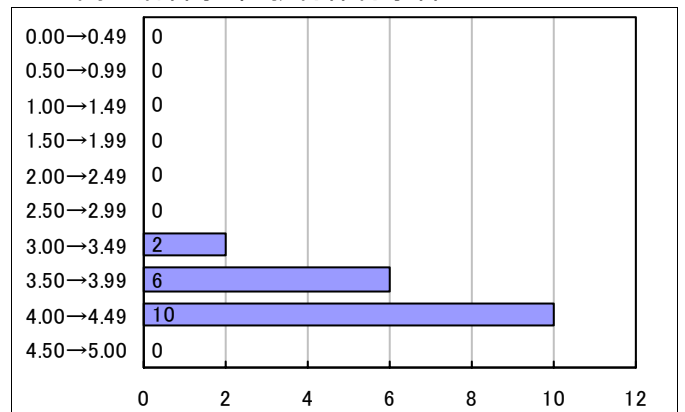
平均値 = 4.11

■経済学部



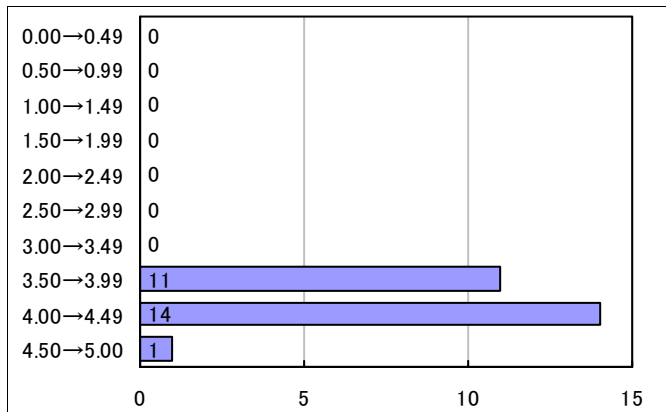
平均値 = 3.74

■人間生活科学部・教育保育学科



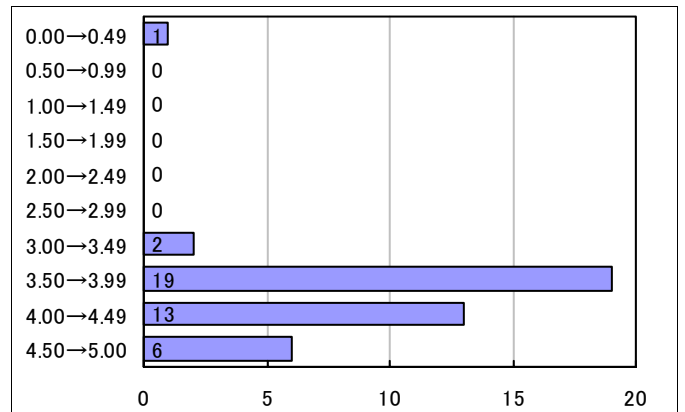
平均値 = 3.97

■経営学部



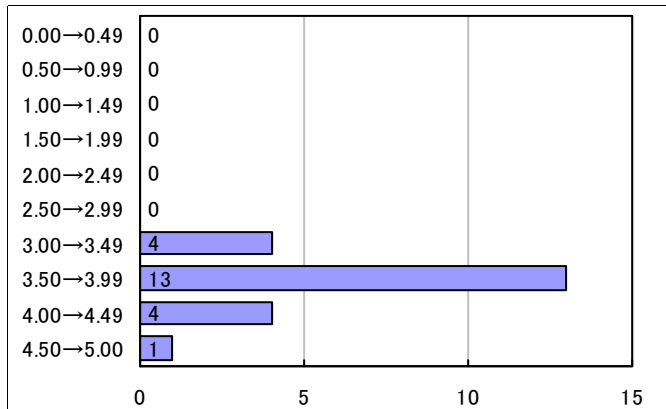
平均値 = 3.97

■非常勤



平均値 = 3.89

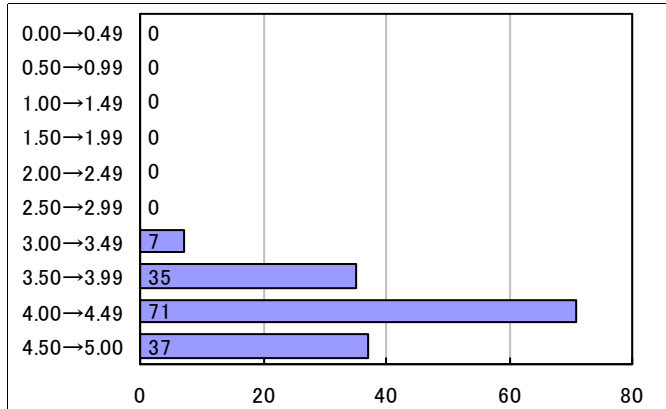
■法学部



平均値 = 3.77

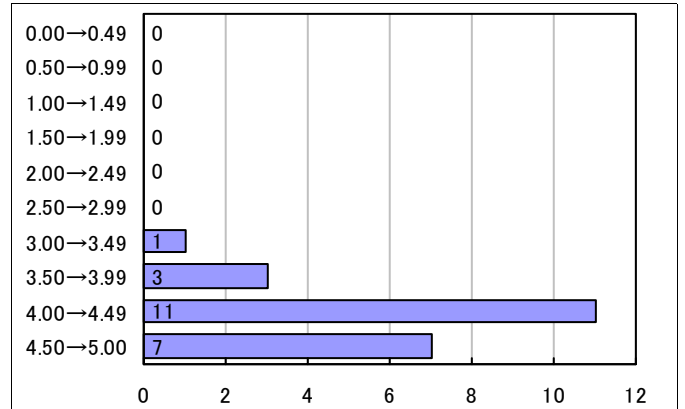
●6.教員の教え方には、熱意が感じられますか

■全体



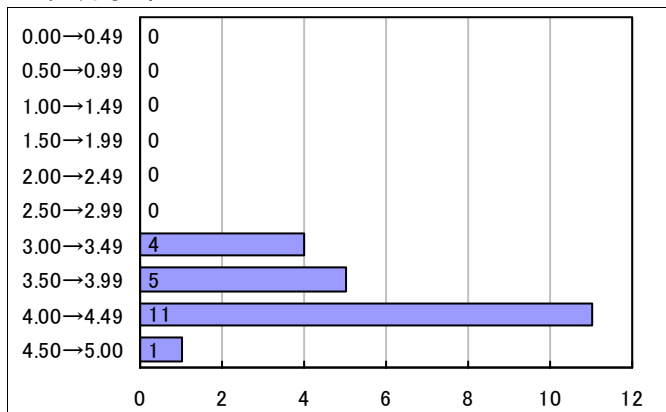
平均値 = 4.13

■人間生活科学部・管理栄養学科



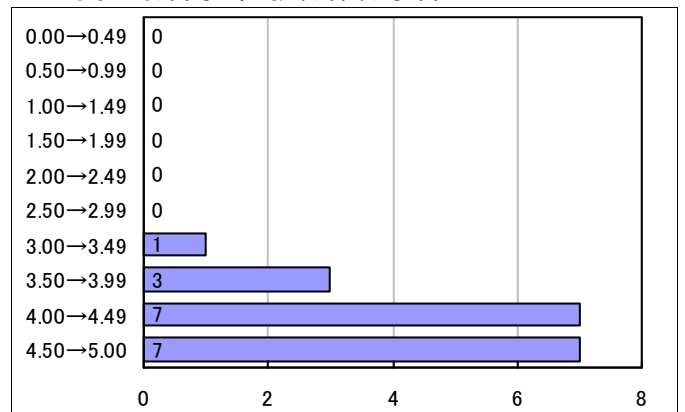
平均値 = 4.25

■経済学部



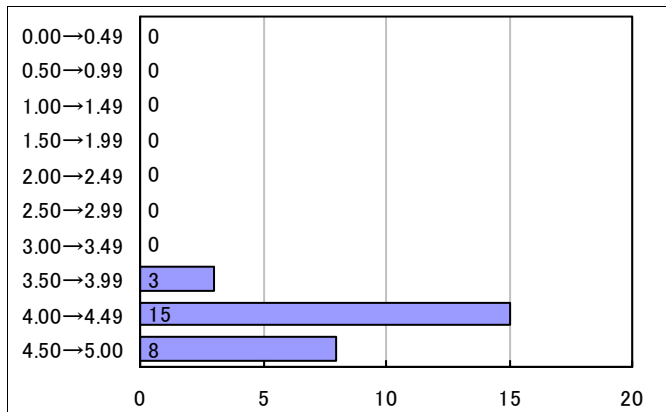
平均値 = 3.93

■人間生活科学部・教育保育学科



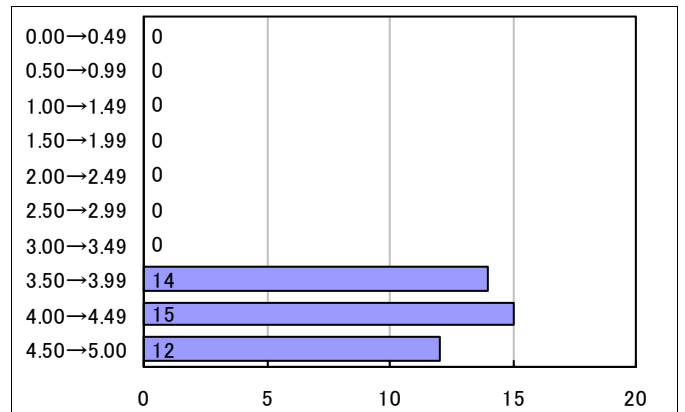
平均値 = 4.30

■経営学部



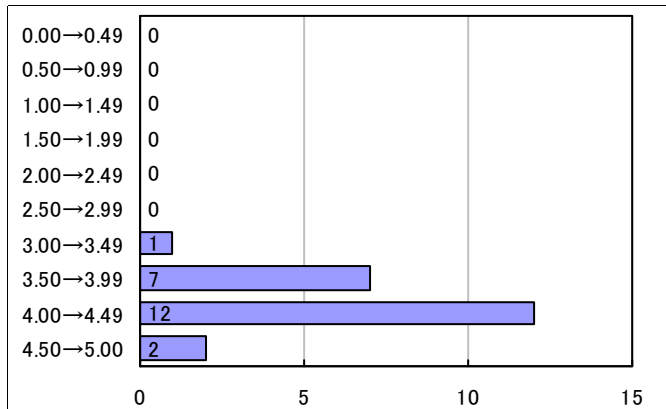
平均値 = 4.21

■非常勤



平均値 = 4.11

■法学部

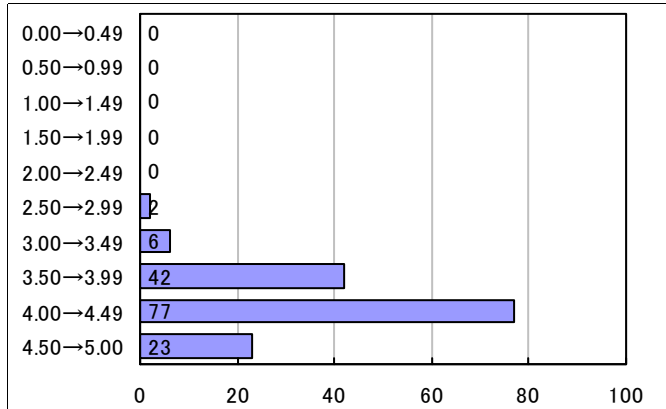


平均値 = 4.00



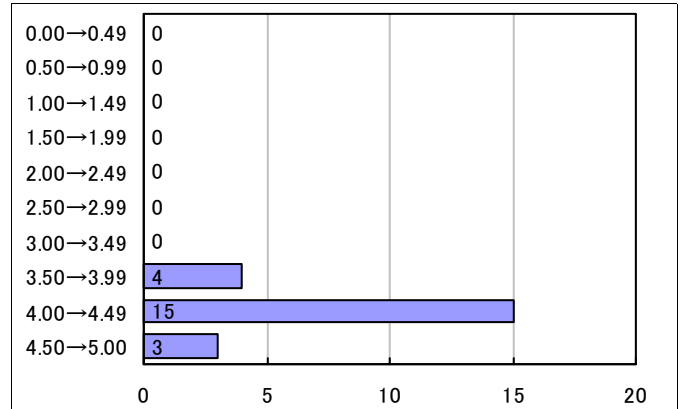
●7.授業の速さや進め方は、適切ですか

■全体



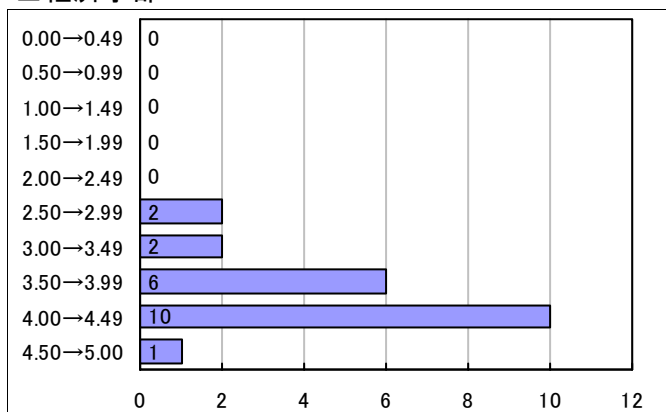
平均値 = 4.05

■人間生活科学部・管理栄養学科



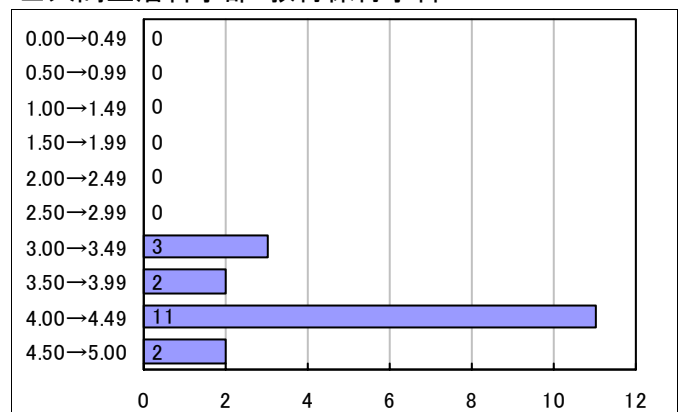
平均値 = 4.19

■経済学部



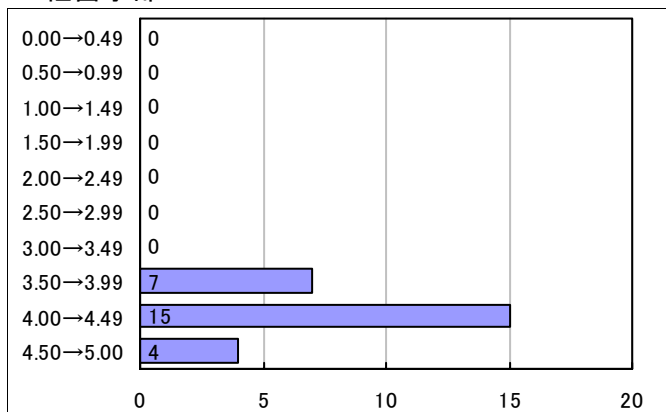
平均値 = 3.85

■人間生活科学部・教育保育学科



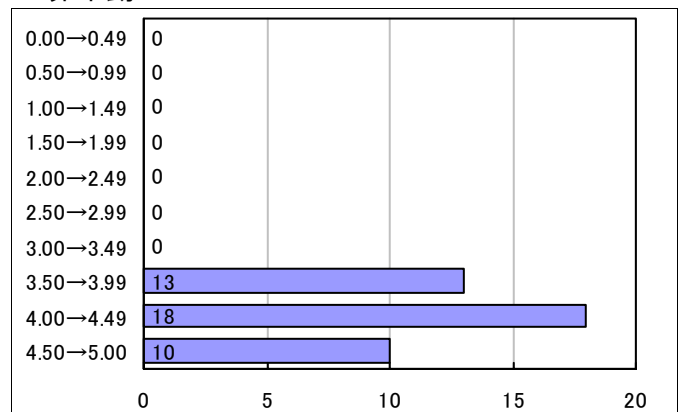
平均値 = 4.05

■経営学部



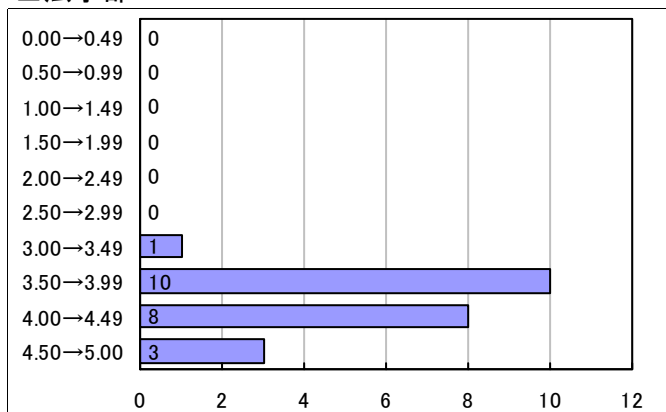
平均値 = 4.19

■非常勤



平均値 = 4.02

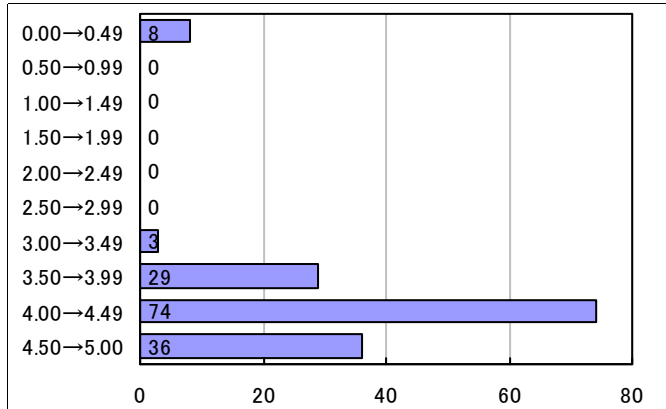
■法学部



平均値 = 4.00

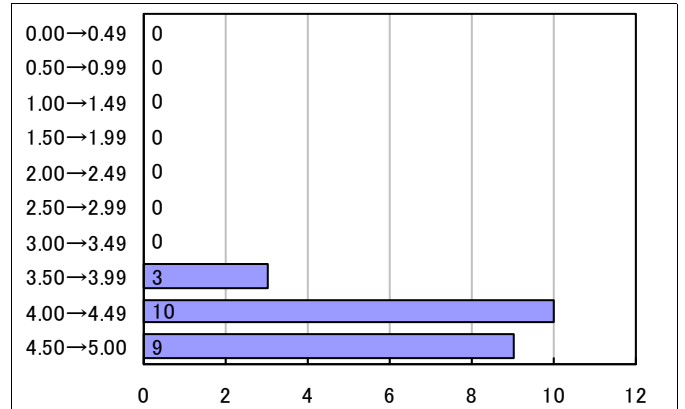
●8.教科書、配布資料が活用されていますか

■全体



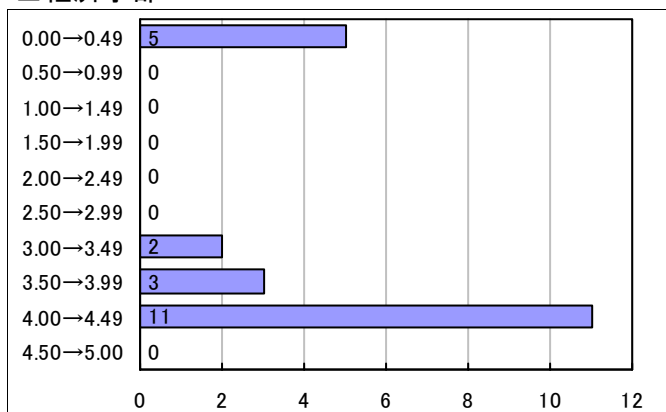
平均値 = 4.17

■人間生活科学部・管理栄養学科



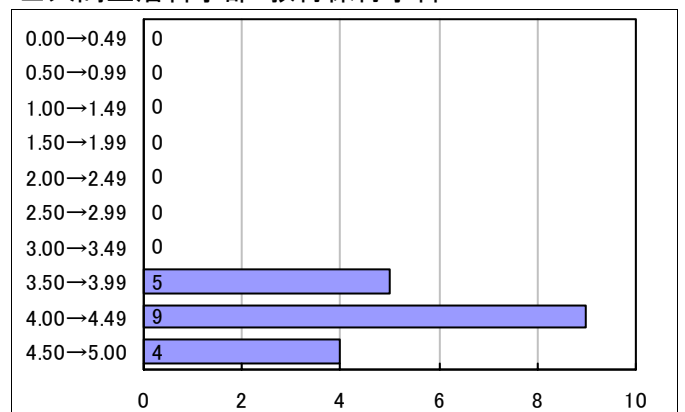
平均値 = 4.29

■経済学部



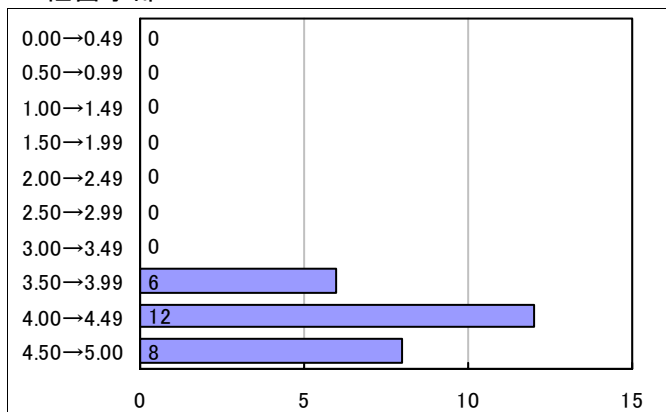
平均値 = 3.99

■人間生活科学部・教育保育学科



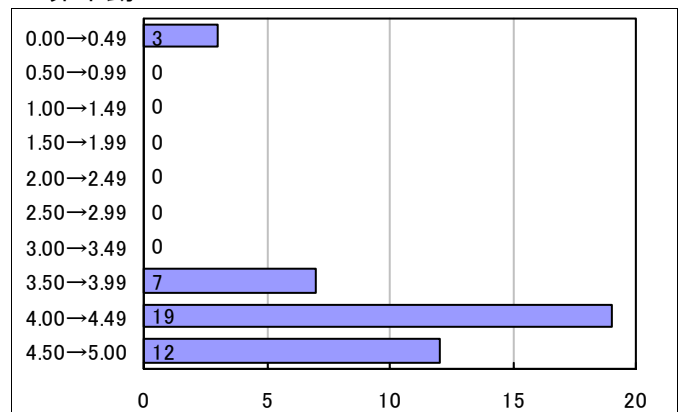
平均値 = 4.20

■経営学部



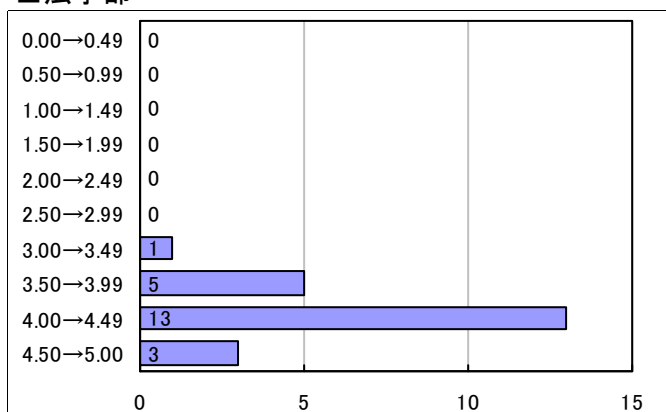
平均値 = 4.25

■非常勤



平均値 = 4.13

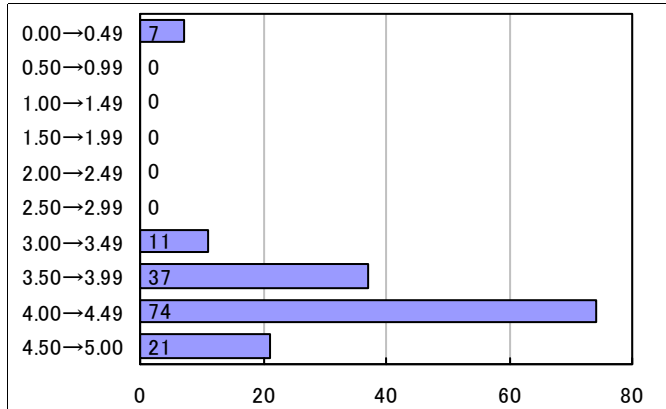
■法学部



平均値 = 4.09

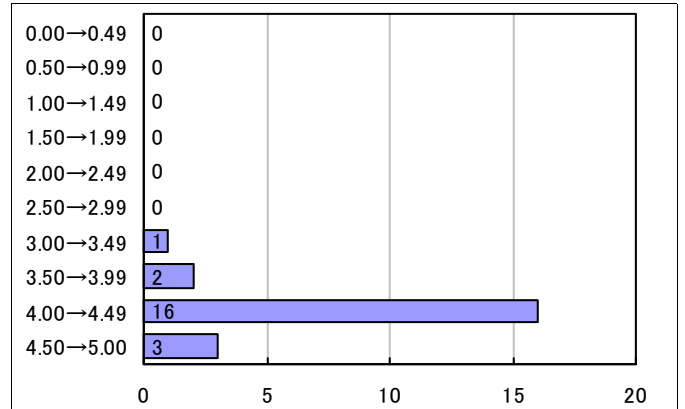
●9.板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか

■全体



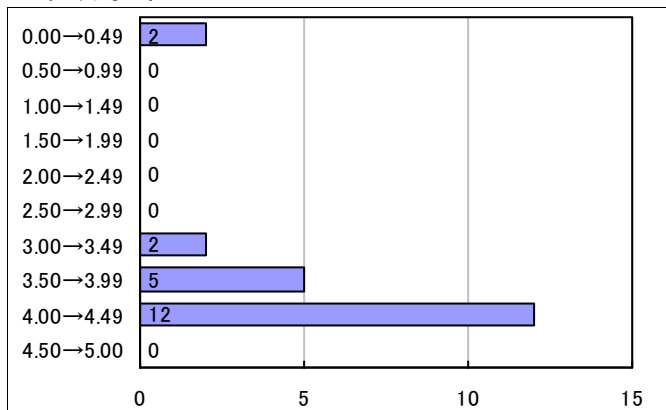
平均値 = 4.03

■人間生活科学部・管理栄養学科



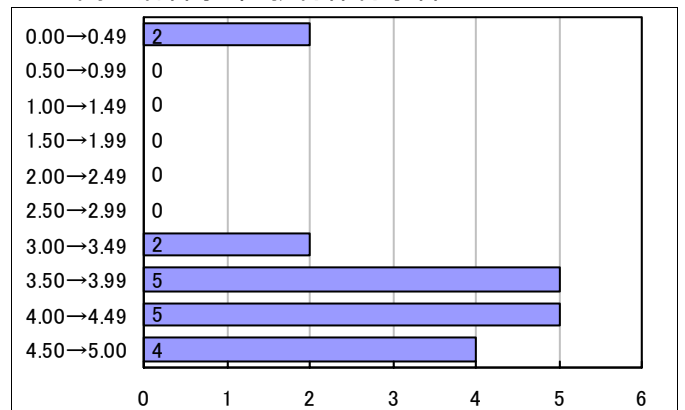
平均値 = 4.19

■経済学部



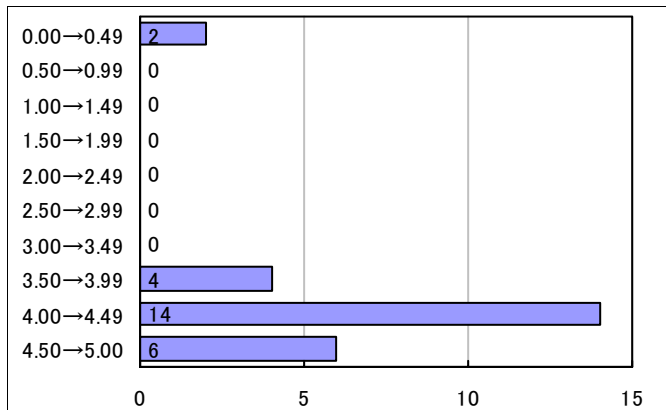
平均値 = 4.00

■人間生活科学部・教育保育学科



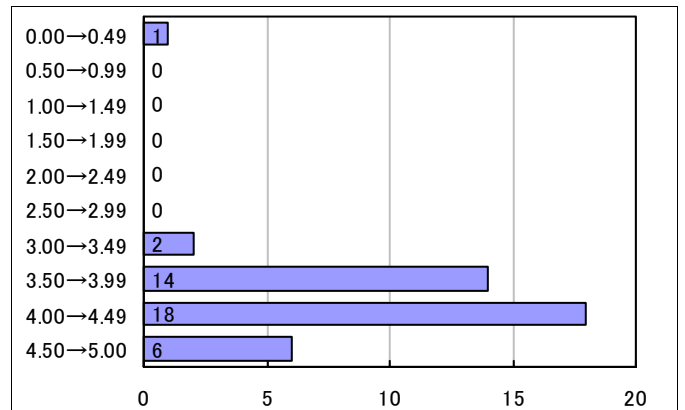
平均値 = 3.94

■経営学部



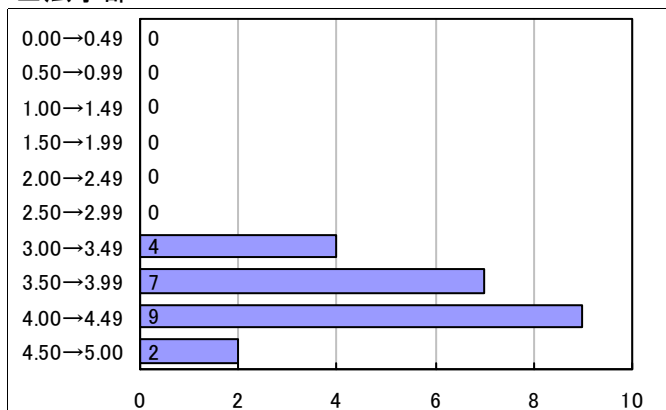
平均値 = 4.21

■非常勤



平均値 = 3.94

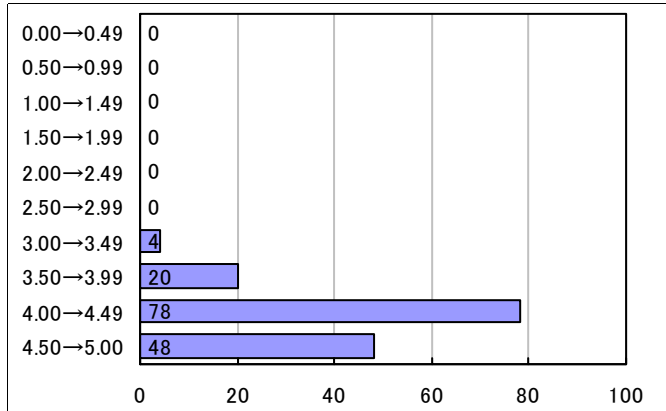
■法学部



平均値 = 3.88

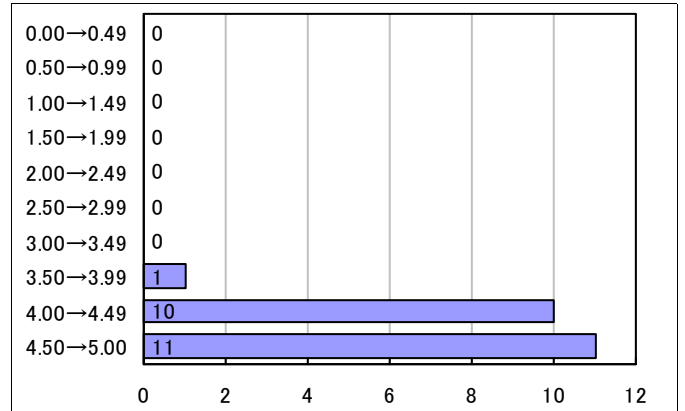
●10.教員の声は聞き取りやすいですか

■全体



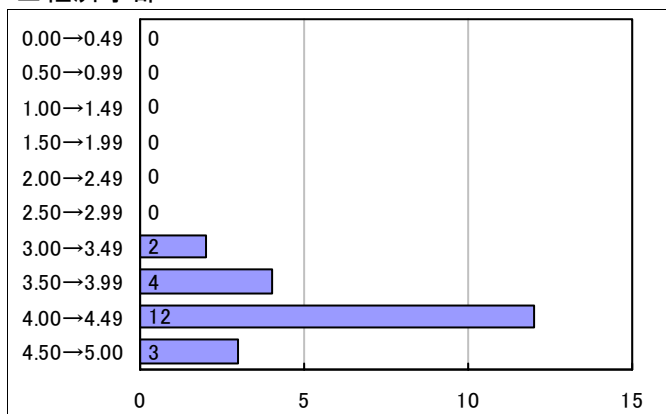
平均値 = 4.24

■人間生活科学部・管理栄養学科



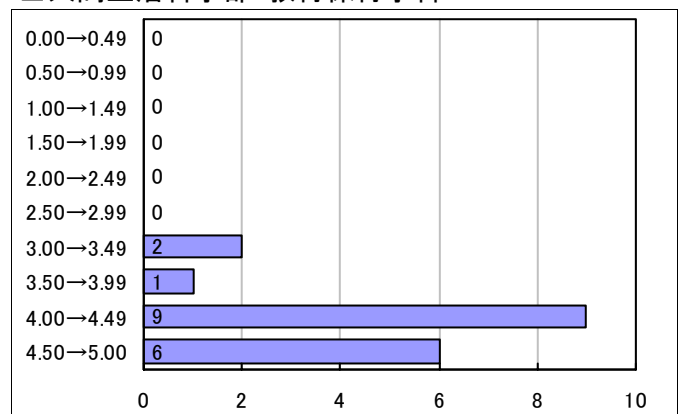
平均値 = 4.39

■経済学部



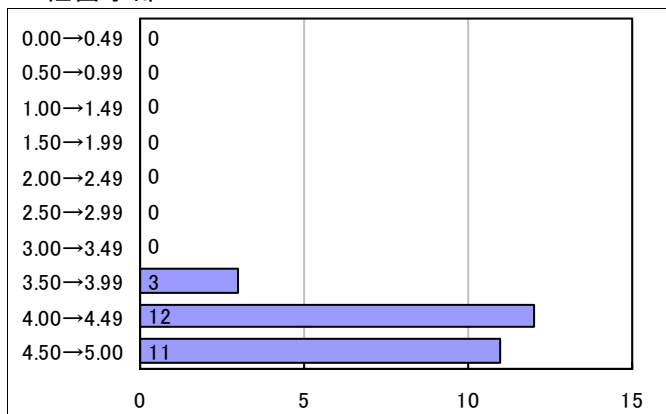
平均値 = 4.10

■人間生活科学部・教育保育学科



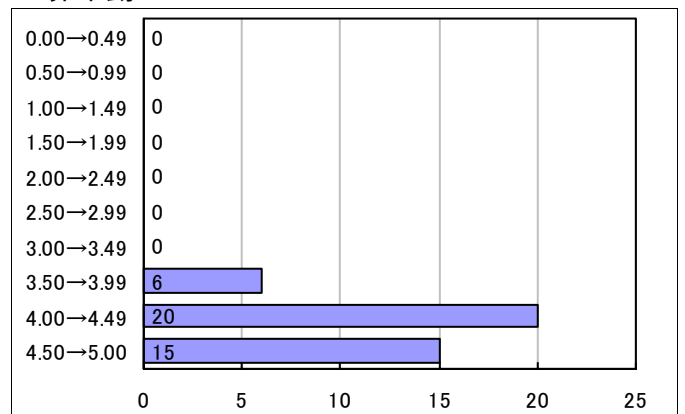
平均値 = 4.29

■経営学部



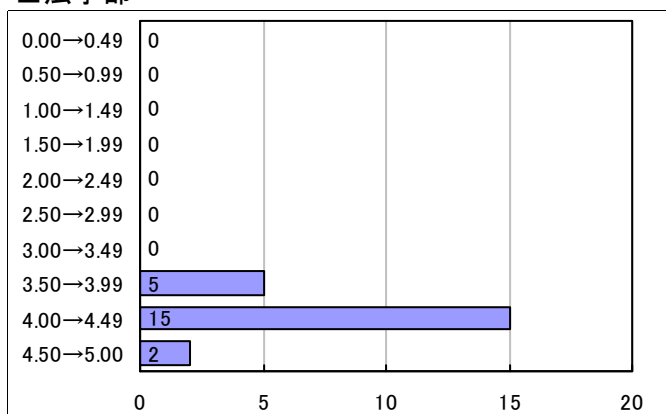
平均値 = 4.34

■非常勤



平均値 = 4.21

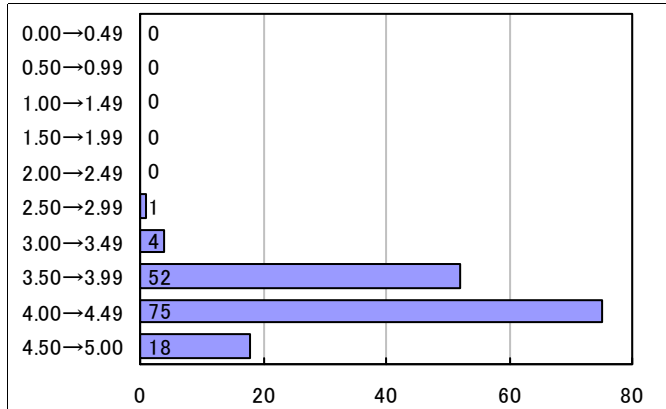
■法学部



平均値 = 4.14

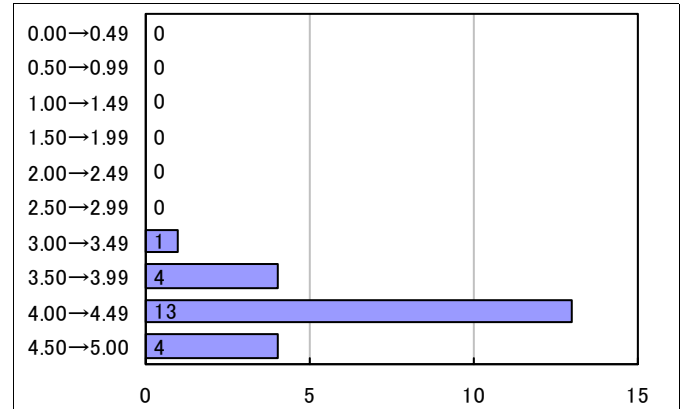
●11.一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか

■全体



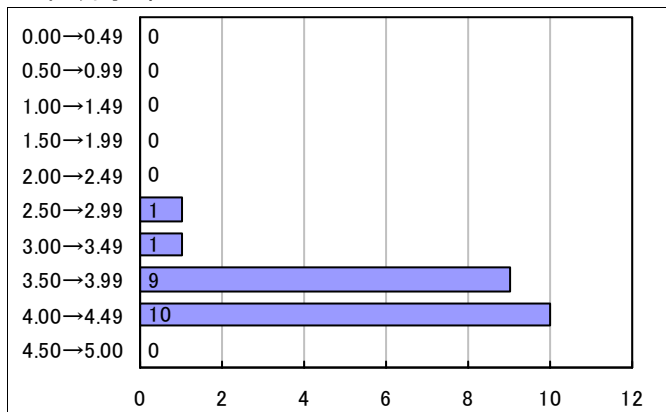
平均値 = 4.06

■人間生活科学部・管理栄養学科



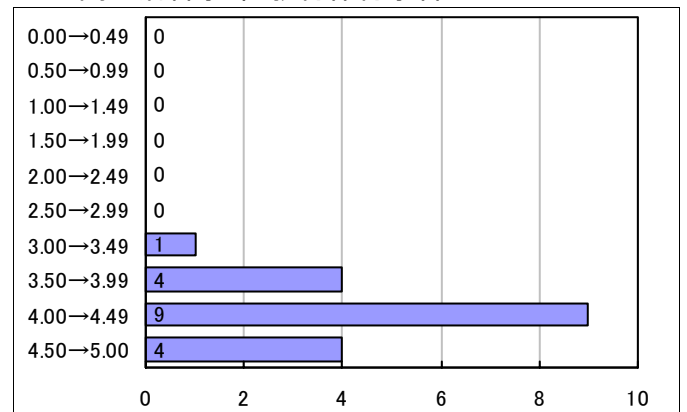
平均値 = 4.14

■経済学部



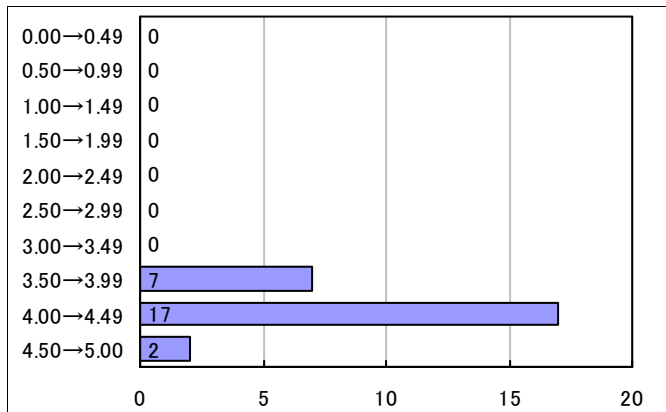
平均値 = 3.99

■人間生活科学部・教育保育学科



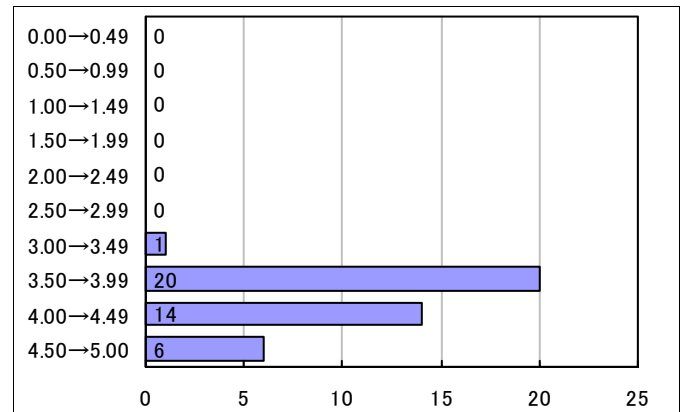
平均値 = 4.17

■経営学部



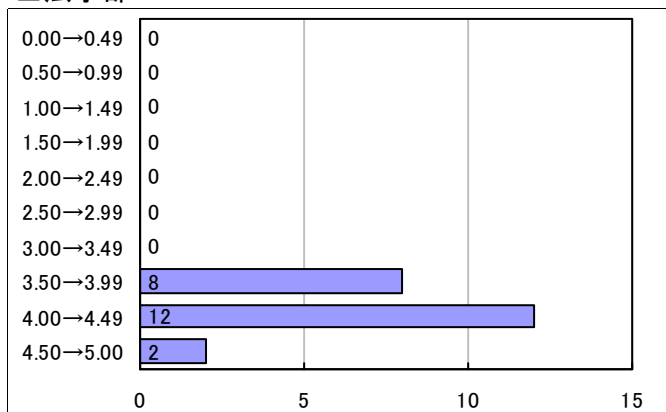
平均値 = 4.12

■非常勤



平均値 = 3.99

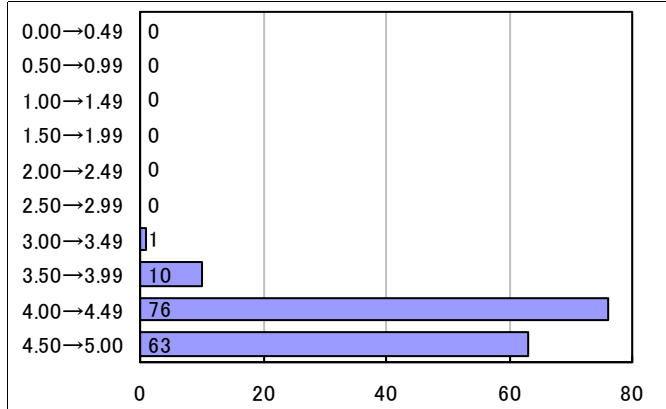
■法学部



平均値 = 3.97

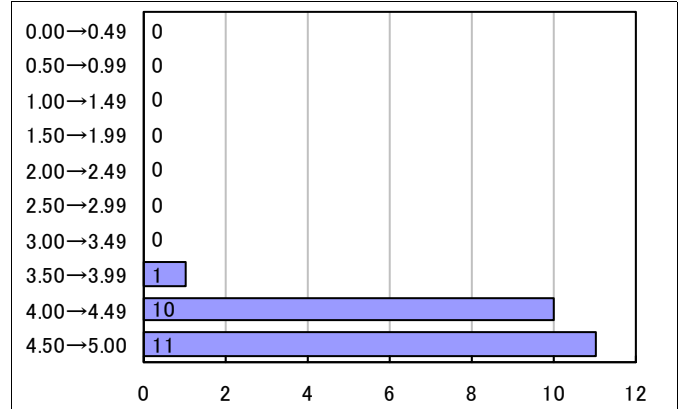
●12.教員は、授業時間を守っていますか

■全体



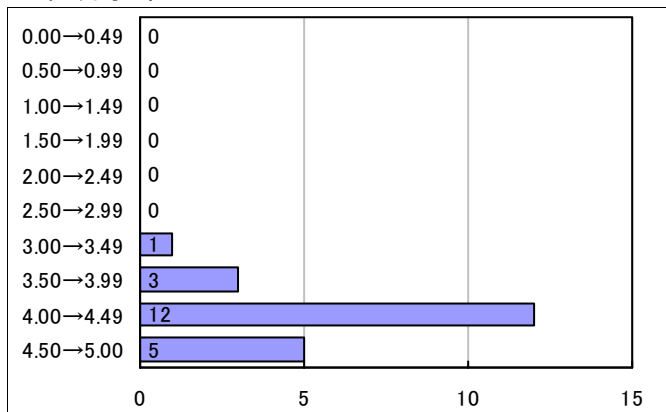
平均値 = 4.33

■人間生活科学部・管理栄養学科



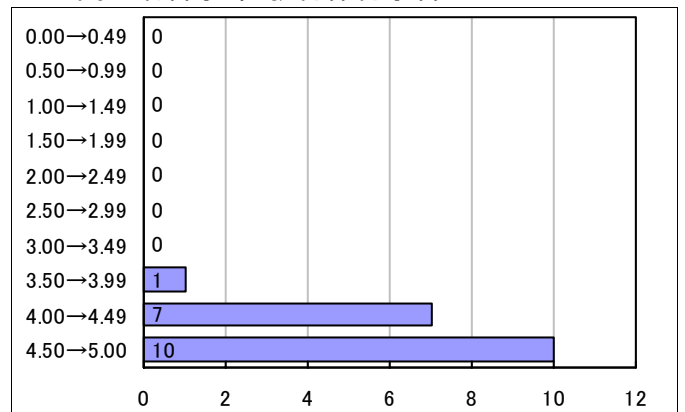
平均値 = 4.40

■経済学部



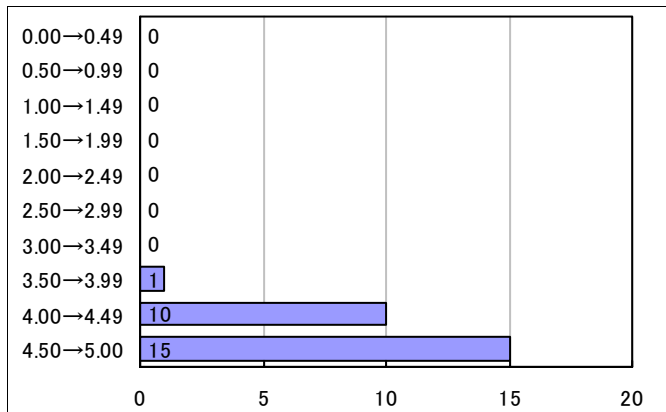
平均値 = 4.22

■人間生活科学部・教育保育学科



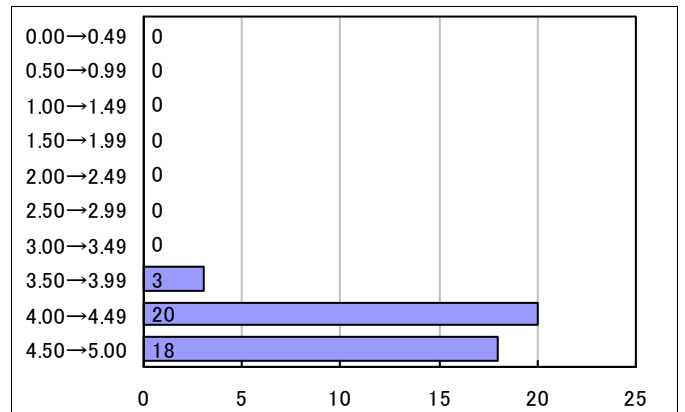
平均値 = 4.49

■経営学部



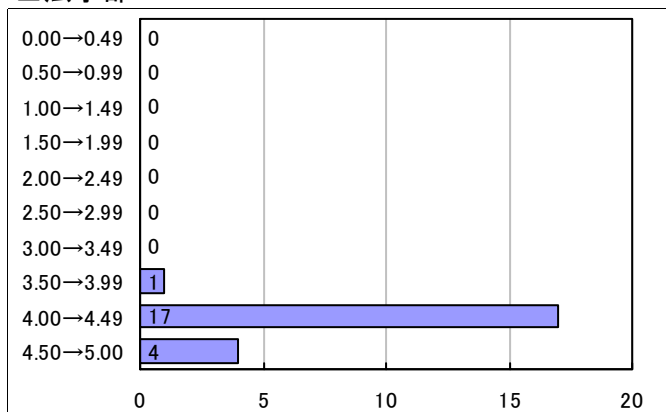
平均値 = 4.44

■非常勤



平均値 = 4.27

■法学部



平均値 = 4.24

## 2014 年度 法学部前期授業アンケート結果報告

### 1 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
法学部	1,788	1,788	1,058	59.17
<b>【全体】</b>	<b>8,825</b>	<b>8,633</b>	<b>5,639</b>	<b>65.32</b>

法学部の専任教員担当科目のうち 29 科目が今回のアンケート対象であり、全 29 科目のアンケートが回収された。該当科目履修者数に対する回答率は 59.17%と、前年度前期より約 5%改善したものの、全体の回答率と比較するとお低い結果にとどまった。他学部学科及び非常勤 (63.82%) と比較してももっとも低い回答率であり、出席した学生を未回答のまま帰らせないよう、各教員がより心がける必要があるだろう。

### 2 法学部所属教員の結果 (他学部科目及び他学部履修生を含む)

設問	内容	平均
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.2
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.8
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.1
4	授業内容は、わかりやすいですか	3.8
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	3.7
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	3.9
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	3.9
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.8
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.1
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	3.9
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.2

法学部所属教員担当の科目について気になるのは、知的関心に関する設問 5 と教室管理に関する設問 11 の平均値が、昨年度よりもわずかながら低下していることである。これらの点に対する学生の要求水準の高まりの反映かも知れないが、今後の授業運営上自覚的に取り組みたい部分である。

### 3 法学部生学年別結果

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年	5年以上
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	3.5
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.9	3.9	3.7	4.0	4.1	5.0
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.1	4.0	3.9	4.2	4.4	5.0
4	授業内容は、わかりやすいですか	3.9	3.9	3.7	4.0	4.2	4.5
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	3.8	3.8	3.6	4.0	4.1	4.0
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.0	3.9	3.8	4.1	4.2	5.0
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.0	3.9	3.8	4.1	4.3	4.5
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.0	4.0	3.8	4.2	4.3	5.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.9	3.9	3.6	4.1	4.1	4.5
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.1	4.2	4.0	4.2	4.3	5.0
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2	3.5
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.2	4.2	4.1	4.3	4.5	4.5
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.6	1.4	1.5	1.7	1.9	2.0

昨年度前期での結果報告では、1年生の評価の相対的な低さが指摘されていた。今年度の結果では、1年生よりも2年生の方が若干ながら低い評価を示す傾向を示している。また、これも若干ながら、旧カリキュラムの学生である3,4年生との比較において、新カリキュラムで学ぶ学生の評価の方が、設問5も含め全般として低い点も気になるところである。興味深いのは、学年が上がるにつれてシラバスを読む学生の比率が右肩上がりに増えていることである。シラバスを読むことのメリットが身についてきているせいなのか、それ以外の理由（旧カリキュラムにおける進級制度）によるものか、次年度の結果を見たいところである。

#### 4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.1	4.3	4.3	4.2
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.8	3.9	3.8	3.7
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.1	4.1	4.1	3.9
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.0	3.8	3.7	3.3
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	3.8	3.7	3.6	3.5
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.0	3.9	3.8	3.8
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.0	3.9	4.0	3.5
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.1	4.0	4.0	3.7
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.9	3.8	3.7	3.5
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.2	4.1	4.1	3.9
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.0	3.9	3.8	4.0
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.3	4.2	4.3	4.0

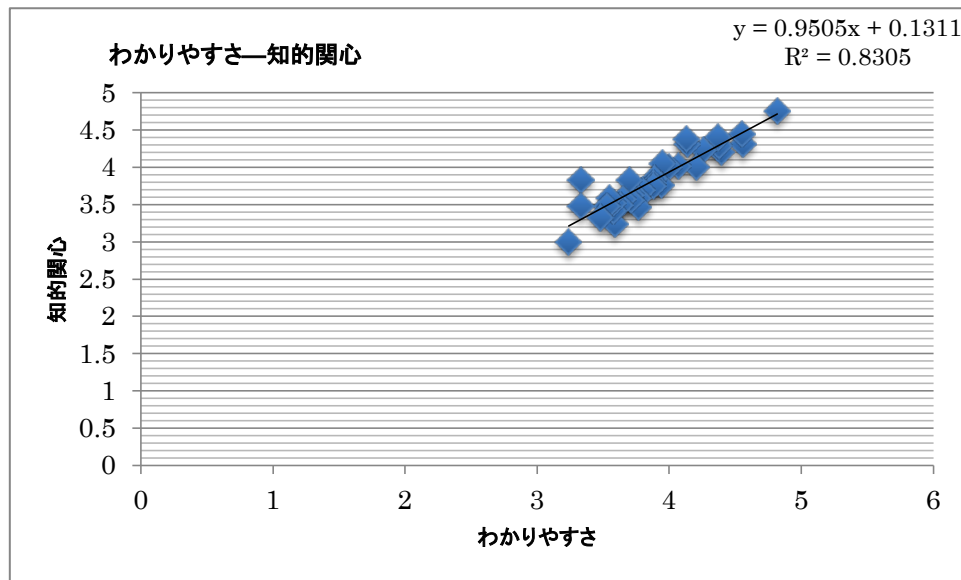
履修者数別では、151人以上の大人数授業において全般的に評価が低い様子が認められる。昨年度は、50人以下という少人数クラスの結果が4.0以上と高評価であったが、今年度はそこまで高い評価を認めることができない。とはいえ、設問2～4、6、7、9、10、12などから読み取れるように学生にとってはもちろんであるが、授業を行う教員にとってもクラス規模が、小さい方がさまざまな点において意欲的に授業に取り組めることが推測できる。

#### 5 授業のわかりやすさ及び知的関心（法学部関係科目及び法学部専任教員名が担当者として表記されている科目）

科目名	わかりやすさ	知的関心
行政法総論(月1)	4.82	4.75
手形法・小切手法(木1)	4.56	4.31
行政救済法(月3)	4.55	4.45
地方自治法(木1)	4.40	4.20
刑事訴訟法(水2)	4.38	4.29
(留)市民生活と法①C(水2)	4.37	4.40
知的財産法(金3)	4.26	4.23
金融担保法(木4)	4.21	4.00
契約法実務(水1)	4.14	4.31
民事執行法・民事保全法(水4)	4.13	4.38
契約法(水3)	4.07	4.02
外国法(水1)	4.00	4.00
(留)特別講義(市民生活と法)(木1)	3.95	4.05
市民生活と法②D(木1)	3.94	3.76
経済法／独占禁止法(木2)	3.89	3.85
企業法実務(火3)	3.88	3.79
市民生活と法②E(木1)	3.88	3.75
消費者法(火2)	3.80	3.69
商法(会社法を含む。)(通)／商法総則・商行為法(水2)	3.77	3.59
市民生活と法①B(水2)	3.77	3.47
労働法(火4)	3.71	3.63
不動産登記法(水4)	3.71	3.56
多文化共生の探究／多文化共生の探究Ⅰ／現代社会とジェンダー(総合科目)／総合科目Ⅱ(現代社会とジェンダー)(火2)	3.70	3.83



裁判と法②(木 2)	3.65	3.58
人間と地球環境／環境共生の探究Ⅱ／地球の科学(火 1)	3.63	3.5
基礎英語Ⅰ(C)(月 3)	3.59	3.24
スキルアップ英語Ⅱ(金 4)	3.58	3.42
企業と法②(水 1)	3.58	3.52
裁判と法①／裁判と法(木 2)	3.55	3.59
企業と法①／企業と法(水 1)	3.53	3.48
市民生活と法①A(水 2)	3.48	3.33
租税法(水 2)	3.33	3.83
民法総則(水 3)	3.33	3.48
英語コミュニケーションⅡ(B)(月 4)	3.24	3.00



相関係数
0.911317615
R2 乗値
0.830499795

法学部の科目では、わかりやすさと知的関心の間におおむね正の相関関係が認められる。

## 6 授業・教室管理について

科目名	平均
行政法総論(月 1)	4.73
手形法・小切手法(木 1)	4.63
(留)市民生活と法①C(水 2)	4.54
行政救済法(月 3)	4.48
知的財産法(金 3)	4.27
契約法実務(水 1)	4.21
外国法(水 1)	4.19
地方自治法(木 1)	4.17
契約法(水 3)	4.14
商法(会社法を含む。)(通)／商法総則・商行為法(水 2)	4.14

授業及び教室管理について、高評価順に 10 科目を示すと、左記の通りである。

概ね設問 4 でポイント上位の科目が並んでいるが、留学生向けの科目を除き、旧カリキュラムの科目が上位を占めている状況は次年度に向けて気になるところである。

## 7 複数教員による授業

科目名	平均
(留)市民生活と法①C(水 2)	4.43
(留)特別講義(市民生活と法)(木 1)	3.83
市民生活と法②D(木 1)	3.70
市民生活と法②E(木 1)	3.69
市民生活と法①B(水 2)	3.51

複数教員による授業を好ましいという評価のあった授業を、高評価順に 5 科目示すと、左記の通りである。

他学部も含め、留学生向け科目が上位を占めていたのが特徴的であった。他方で、平均値が 4 ポイントであったのは、全学部通じても 4 科目であり、いずれも留学生向け科目であった。

8 クロス集計

			設問4(授業のわかりやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	3	15	5	6	2	1
		1	5	221	63	40	13	4
		2	6	30	213	71	11	7
		3	4	12	68	183	14	8
		4	0	2	12	15	6	1
		5	1	2	1	1	5	7

			設問8(教科書・配布資料の活用)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	4	16	5	5	5	1
		1	8	253	49	28	6	2
		2	9	73	204	40	7	5
		3	4	35	64	168	10	8
		4	0	7	14	10	4	1
		5	0	2	2	1	4	8

			設問9(板書・モニターの見やすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	4	16	1	9	1	1
		1	6	249	41	32	11	7
		2	7	41	195	71	21	3
		3	2	17	54	175	28	1
		4	0	4	9	13	6	4
		5	1	2	5	1	0	8

			設問10(声の聞き取りやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	4	14	7	5	1	1
		1	5	282	45	11	2	1
		2	1	81	221	30	4	1
		3	3	44	79	151	9	3
		4	0	7	14	9	5	1
		5	0	5	2	2	0	8

クロス集計は、教室管理（設問11）と設問4、設問8、設問9、設問10と行なった。それぞれ共通していえることは、一般に教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高いということである。

9 専門共通基礎科目について（概要）

区分	No.	回収番号	科目名	設問04	設問05	設問11
				(わかりやすさ)	(知的関心)	(教室・授業管理)
専門共通基礎Ⅰ	1	23	市民生活と経済①A(月2)	3.78	3.67	3.74
	2	26	市民生活と経済①B(月2)	4.03	3.78	3.84
	3	2	(留)市民生活と経済①C(月2)	4.56	4.61	4.59
	4	24	市民生活と経済②D(水3)	3.71	3.52	4.06
	5	27	市民生活と経済②E(水3)	4.08	3.86	3.75
	6	56	市民生活とビジネス①A(木4)	3.79	3.57	3.33
	7	60	市民生活とビジネス①B(木4)	4.00	3.94	3.88
	8	48	(留)市民生活とビジネス①C(木4)	4.37	4.47	4.37
	9	57	市民生活とビジネス②D(木3)	3.62	3.31	3.48
	10	61	市民生活とビジネス②E(木3)	3.81	3.74	3.71
	11	49	(留)特別講義(市民生活とビジネス)(木3)	4.57	4.60	4.60
	12	71	市民生活と法①A(水2)	3.48	3.33	3.64
	13	85	市民生活と法①B(水2)	3.77	3.47	3.46
	14	65	(留)市民生活と法①C(水2)	4.37	4.40	4.54
	15	72	市民生活と法②D(木1)	3.94	3.76	4.09
	16	86	市民生活と法②E(木1)	3.88	3.75	3.88
	17	66	(留)特別講義(市民生活と法)(木1)	3.95	4.05	4.05
	18	158	市民生活とキャリア形成(再)／キャリアの基礎／市民生活とキャリア形成(水4)	4.00	3.86	3.86
	19	42	市民生活と健康(火2)	4.02	3.82	4.26
	20	41	総合科目Ⅴ(食生活と健康)／食生活と健康(総合科目)／市民生活と健康(再A)(再B)(火1)	3.89	3.97	4.04

専門 共通基礎 Ⅰ	21	50	会計と資金の経営学①(金 2)	3.99	3.84	3.94
	22	51	会計と資金の経営学②/会計学(木 1)	4.20	3.94	3.85
	23	52	商品と流通の経営学①(金 1)	3.51	3.51	3.92
	24	53	商品と流通の経営学②/販売管理Ⅰ(火 2)	3.63	3.46	3.96
	25	11	国民経済と政府①/マクロ経済学(通)(水 3.金 2)	4.01	3.95	4.16
	26	12	国民経済と政府②(木 4)	4.03	3.81	4.39
	27	4	市場の経済学①(金 1)	3.53	3.52	3.72
	28	1	消費経済学(通)/市場の経済学②(火 1)	3.86	3.83	3.94
	29	84	裁判と法①/裁判と法(木 2)	3.55	3.59	3.70
	30	68	裁判と法②(木 2)	3.65	3.58	4.09
	31	82	企業と法①/企業と法(水 1)	3.53	3.48	3.71
	32	63	企業と法②(水 1)	3.58	3.52	3.64

昨年度と異なり、専門共通基礎Ⅰのクラス分けは学部別ではなく各学部混合となっている。そのため法学部学生の動向を科目別の結果から抽出することは不可能である。全般的に見て、留学生向けのクラスにおいて、表に現れたすべての設問に対する評価が高いことがうかがわれる。

専門共通基礎Ⅱについては、それぞれの科目の①が科目設置学部の学生向け（含旧カリキュラム生）、②がそれ以外の学部学生向けとなっている。明らかに法学部生のみが履修しているのは、裁判と法及び企業と法のそれぞれ①であるが、他学部の学生と比較すると、幾分厳しめな評価が認められた。法学部学生の評価の低さは、昨年度の結果報告でも指摘されているところであり、法学部学生の授業に対する期待値の高さをうかがわせる可能性もあるが、昨年度と比較不能なデータであることから、なお様子を見る必要があるだろう。

## 平成 26 年度前期授業評価アンケート結果—経済学部関連部分の分析

### 1. 概要

アンケート回収率(回収科目数÷対象科目数)は 96.3%であった。これは法学部と人間生活科学部が 100%であったことと比較すると低い。また、全体の回収率が 97.5%であったことから比べると最も低い水準にある。回収率の向上に関しては、担当者への周知徹底が必要であると考えられる。告知は行っているが、実施漏れなどもあるようである。今後は回収率 100%を目指し、周知徹底を図っていきたい。

また、アンケート回答率(回答者数÷回収科目履修者数)についてみると、64.3%であった。昨年前期の 63.1%に比べると若干の、向上しているといえる。経営学部の 61.9%、法学部の 59.2%と比較すると高くなっている。しかし、前年同期と比較した場合とも共通するが、人間生活科学部と比較すると、管理栄養学科の 84.3%、教育保育学科の 78.3%と比べると低い。また、全体の 65.3%と比較しても若干低くなっている。

前年度に比べて回答率は向上しているが、全体の平均に比べて低くなっている。回答率の向上については、担当者への周知徹底がその 1 つの理由としてあると考えられる。しかし、回答率は依然として、6 割程度の回答率である。このことは、アンケート実施の時点で失格(あるいはその予備軍)になっている学生が相応にいると考えられる。しかし、アンケート実施時点で失格を確定することは、公正かつ適切な授業評価を行う上で重要であるので、回答率が下がってしまうということは、ある意味で当然であるといえる。

今回の概要からわかる課題として、①アンケート回収率の向上、②回答率の向上がある。①については教員間での意識の向上と周知徹底が必要である。②の回答率の向上については、失格もしくは失格予備軍の学生を減らすことが重要になるが、これについては授業の出席率向上を図ることが対策となろう。ただし、強制的に「来させる」ということではなく、そうせずとも「来たくなる」ように学生にとって魅力的な授業づくりが必要になるのではないだろうか。

### 2. 学部所属教員全体に関するデータの分析

設問の全体は次の通りである。

1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか
13	(自由設問①)

また、回答の全体は次の通りである。

設問名	有効数	平均	回答 01	回答 02	回答 03	回答 04	回答 05	率 01	率 02	率 03	率 04	率 05
1	934	4.2	466	234	209	20	5	49.9	25.1	22.4	2.1	0.5
2	933	3.9	282	354	245	26	26	30.2	37.9	26.3	2.8	2.8
3	924	4.0	364	285	245	16	14	39.4	30.8	26.5	1.7	1.5
4	927	3.8	275	327	244	36	45	29.7	35.3	26.3	3.9	4.9
5	836	3.7	223	288	246	37	42	26.7	34.4	29.4	4.4	5.0
6	927	4.0	330	338	195	29	35	35.6	36.5	21.0	3.1	3.8
7	929	3.8	274	322	247	54	32	29.5	34.7	26.6	5.8	3.4
8	714	3.9	241	238	181	23	31	33.8	33.3	25.4	3.2	4.3
9	877	3.9	299	297	193	43	45	34.1	33.9	22.0	4.9	5.1
10	926	4.0	381	301	166	36	42	41.1	32.5	17.9	3.9	4.5
11	925	3.9	314	311	233	40	27	33.9	33.6	25.2	4.3	2.9
12	928	4.2	434	314	139	19	22	46.8	33.8	15.0	2.0	2.4
13	228	3.6	66	65	61	19	17	28.9	28.5	26.8	8.3	7.5
14	61	3.3	11	18	17	7	8	18.0	29.5	27.9	11.5	13.1

昨年同期の状況との比較を行うと、ほぼ全ての項目で平均が下がるか、もしくは同じであった。「設問 5(3.6→3.7)」、「設問 9」(3.7→3.9)、「設問 10」(3.9→4.0)、「設問 11」(3.8→3.9)については、昨年同期よりも若干の上昇がみられた。

昨年度の結果分析では、授業が抱える課題と対策として「授業が学生の興味をかきたてるものとなりきっていない」、「内容そのものが学生の理解度に即したものとなっていないならば、分かりにくいという結果を生む」、「声の出し方、目線の使い方、対話の技法、など基本的な術を修得し、向上させる努力が必要だろう」と指摘したが、これらの点が若干の改善されていった結果ではないかと考えられる。ただし、改善したとはいえ、3 点台が多いため、より一層の改善が必要になるといえる。

### 3. 履修者数別データの分析

ここでは、設問 4 の授業内容のわかりやすさ、設問 9 の授業内容の提示方法、設問 10 の教員の声量など、設問 11 の教室管理について注目したい。教室の規模が拡大するにつれて、これらの項目は低下するのではないかと考えられたが、設問 10 の場合にみられるように大教室であっても授業内容は伝わっているとみられる結果もある。また、他の回答結果では 3 点台であるものでも、4 点台になっているものもあった。

とはいえ、全体的な傾向としては、教室のサイズが小さいほど満足度も高くなっている。1 クラスあたりの規模拡大は教室管理の困難さも伴うものであるため、受講生の授業満足度を下げる要因となる。もちろん、これには教員の力量も関係するので、全ての授業の規模を小規模にする必要はないのではないかと考えられる。現在の規模の中で、適正な教室管理を行うなどの対応が必要になっていくと考えられる。

授業規模	授業数	設問(赤の数字は平均)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1～50人	16	4.2	3.9	4.1	3.9	3.7	4.0	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	4.3
51～100人	8	4.3	3.9	4.0	3.7	3.8	3.9	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1
101～150人	1	4.1	4.0	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	3.5	4.0	4.3	3.9	4.2
151～200人	1	4.1	3.8	3.9	3.6	3.6	3.8	3.7	0.0	3.5	3.9	3.8	4.2

#### 4. 学部学生視点からのデータ分析

「設問2」の意欲的に取り組んでいるかについては、2年生を除く全ての学年で4点台となっていた。と「設問5」の知的関心は1年生と4年生で高くなっており、2年生が最も低くなっていた。全体的にみて、1年生と4年生の平均点が高くなっている一方で、2年生の平均点が低くなっていた。2年生を除く全ての学年では平均点は4点台となっており、まずまずであるといえるが、2年生の平均点がほぼ3点台であることについては、授業に意欲的に取り組めるような仕組み作り、知的関心を向上させられるような取り組みを行っていく必要があるといえる。

ただし、これらの取り組みを進めるに当たっては教員側での準備も必要であるが、学生側でも予習・復習を進める必要がある。予習復習が行われていないなかでは、わかりやすさや知的関心の結果についてはもう少し慎重に捉える必要があるといえる。また、Dのシラバスを読んでいるかどうかの結果については、全ての学年で1点台という結果になっている。授業の内容をつかまないうまま受講しているケースがほとんどはないかと判断されるので、この点についてもゼミ等で指導をしていく必要があるのではないだろうか。

設問名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	D
全体	4.2	3.9	4.1	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.3	1.6
1年	4.3	4.0	4.3	4.0	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	1.8
2年	4.2	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.7	4.0	3.8	4.1	1.4
3年	4.3	4.0	4.2	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0	4.0	4.3	4.0	4.3	1.7
4年	4.1	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	1.7

#### 5. 知的関心について

本学部において知的関心の項目が高くなっている授業の上位3つをあげると、「(留)市民生活と経済①C・月2」(4.61)、「消費者法(木1)」(4.28)、「アジア経済論(月4)」(4.08)である。このほか、「ファイナンシャル・プランナー論(火1・金3)」(4.00)が平均4以上となっていた。そのほか、「国民経済と政府①/マクロ経済学(水3・金2)」、「金融システム論/金融論(通)(金2)」の科目も高くなっていた。これらの科目の担当教員の知的関心については高くなっており、教員の授業スタイルと知的関心の高さには関係がある結果となった。なお、これらの科目についてはわかりやすさの面でも上位に位置している授業である。

#### 6. クロス集計データ

ここでのデータは、教室管理とわかりやすさ、教室管理と授業資料の活用、教室管理と機材の活用、教室管理と教員の声の聞き取りやすさである。全体的に言えることであるが、教室管理と授業への配慮をしっかりと行っている場合には、学生の満足も高くなっている。適切な教室管理をすることは、適切な授業環境を提供

することにほかならない。授業内容の充実を高めていくうえでも今後必要なものとなっていくので、教室管理を各教員で適切に行うのはもちろんであるが、これに関する情報の共有や交換を行うことも重要になっていくのではないだろうか。

# 平成 26 年度前期 経営学部 授業評価アンケート結果総評

経営学部 FD 委員会

## 1. 実施対象科目数、実施率、コメント提出率

所属名	対象科(A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント 提出率 (C÷B)
【全体】	162	158	97.53	153	96.84
経営学部	34	33	97.06	33	100.00

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	8,825	8,633	5,639	65.32
経営学部	2,368	2,320	1,436	61.90

経営学部の回答率は 61.90%であり、全体平均 65.32%に近い数値であった。ただし全体平均と言う数値は曲者である。国家試験を目指す人間生活科学部の 2 学科とそうでない社会科学系 3 学部とでは出席に対する学生の内発的動機付けが観察的にも異なり、70%～80%台の出席率を維持する前者と 50%～60%台を維持する後者は統計的に異なる母集団群と見なさざるを得ず、全体平均は両群の谷間の数値を示すに過ぎない。むしろ後者もなんらかの動機付けの工夫により前者の出席率の水準を目指すべきであるが、現状はそうではなく、したがって本稿でも回答率にかぎり、全体平均を参考値としてのみ扱う。

回答率の推移を見ると——カッコ内は大学全体——、2011 年度前期 56.8 (63.3)、後期 50.3 (54.9)、2012 年度前期 62.65 (64.91)、後期 56.22 (61.55)と、2013 年度前期 62.55 (64.87)、後期 57.68 (60.48)と、前期より後期のほうが全般的に低い傾向があり、前後期を分けて比較する必要がある。前期だけで見ると経営学部の推移は、56.8→62.65→62.55 であり、学生の出席率は昨年やや向上したが、今年前期 61.90 は昨年前期 62.65 とほぼ同じである。昨年後期に新たな出席管理システムを導入し、後期の適用経験を踏まえて今年前期の適用となったが、経営学部一丸の努力にも係らず飛躍的改善に結びついていない。出席率をもっと上げるためには更なる工夫の取り組みが必要である。出席率は単位取得率を大きく左右する。学生の授業への参加をいかに促していくかは、従来通り大きな課題である。

## 2. 学生視点からのデータ分析

\* 設問項目 (科目ごとの自由設問①②、およびフェース確認の設問 A, B, C を省略)

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか



5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

### \* 教員所属別平均

所属	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 D (Yes 率)
全体	4.3	4.0	4.2	4.0	<b>3.9</b>	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.3	56.2%
経営学部	4.3	4.0	4.2	4.1	<b>4.0</b>	4.2	4.1	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	64.1%

経営学部所属教員担当科目の平均ポイント（上表）を見ると、すべての設問において大学全体の平均と同等もしくは同等以上であり、おおむね良好である。昨年前期に引き続き、設問 5「知的関心」（太字）は、大学平均でも経営学部でも他の設問と比較すると評価値がやや低く、依然として課題である。また昨年前期と同様、設問 4「わかりやすさ」（斜体）は大学全体の平均を若干上回った。なお、シラバスを読んで授業に臨んだ割合 64.1%は、大学平均 56.2%を大きく上回った。経営学部ではシラバスに目を通すことを繰り返し学生に伝えていたので、その結果であると評価できる。

### \* 学生視点＜学部全体と学年別＞（）内は昨年前期

設問	全体	1年	2年	3年	最終学年	不明
1	4.3 (4.4)	4.4 (4.3)	4.3	4.4	4.1	4.4
2	4.0 (3.9)	4.1 (3.7)	3.8	4.1	4.0	4.3
3	4.2 (4.2)	4.3 (4.0)	4.1	4.2	4.4	4.3
4	4.0 (3.9)	4.1 (3.7)	3.8	4.1	4.1	4.6
5	3.9 (3.8)	4.0 (3.6)	3.8	4.0	3.9	4.0
6	4.1 (4.1)	4.2 (4.0)	3.9	4.1	4.2	4.0
7	4.0 (4.0)	4.1 (3.8)	3.9	4.1	4.1	4.7
8	4.1 (4.0)	4.2 (3.9)	4.0	4.2	4.2	4.4
9	4.0 (4.0)	4.2 (3.9)	3.8	4.1	4.1	4.1
10	4.2 (4.1)	4.3 (4.1)	4.0	4.2	4.2	4.3
11	4.0 (3.9)	4.1 (3.7)	3.9	4.1	4.1	4.1
12	4.3 (4.3)	4.4 (4.3)	4.2	4.2	4.5	4.3
1～12 平均	4.1 (4.0)	4.2 (3.9)	4.0 (4.0)	4.1 (4.1)	4.1 (4.0)	4.3

経営学部学生の12個の設問の平均得点（上表）は、昨年より少し改善された。学年別の昨年前期との比較に見るように、これには1年生の得点の伸び3.9→4.2が寄与している。1年生が受講する専門共通基礎I科目や共通科目における教室管理の工夫（人数制限や座席指定の導入、静謐さの確保）に加え、経営学部担当科目に対する教員レビューなどの努力の結果と考えることができる。

設問ごとの1年生の得点の昨年前期からの変化を詳しく見てみよう。設問2「意欲的取組み」は昨年の3.7から4.1に、設問4「わかりやすさ」は3.7から4.1に、設問5「知的関心」は3.6から4.0に、それぞれ改善された。設問11「教室管理」についても、これと同程度の改善（3.7→4.1）が見られたので、「教室管理」の改善が、「意欲的取組み」や「わかりやすさ」、「知的関心」の改善と深い関係があることがデータによっても確かめられたと言えよう（後述のクロス分析結果も参照のこと）。

### \* クラスサイズ別の「わかりやすさ」と「教室管理」

クラスサイズ別の各設問の得点（下表）をみると、大学全体では、受講者数が少ないほどすべての設問で得点が高くなる顕著な傾向が見られたが、経営学部に限ると、授業数（データ数）は合計で33個と少なく、必ずしも大学全体のような顕著な関係は見られない。しかし、1～100人と101人～200人に規模グループを2分割すると、経営学部でも大学全体と同じ傾向が浮かび上がる。すなわち、「人数が少ないほうが良い授業が作りやすい」という一般認識は正しいが、100人以下の場合、人数の如何を問わず工夫次第で良い授業は作りうる」、ということであろう。これはまだ仮説に過ぎないが、引き続き検討してゆきたい点である。

		授業数	設問 1	設問 2	設問 4	設問 5	設問 6	設問 9	設問 10	設問 11
全体	1～50人	99	4.4	4.0	4.0	3.9	4.2	4.0	4.3	4.1
	51～100人	41	4.4	4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.2	4.0
	101～150人	12	4.2	3.8	3.8	3.8	4.0	3.9	4.1	3.9
	151～200人	6	4.3	3.9	3.8	3.8	4.0	3.9	4.0	3.9
経営学部	1～50人	12	4.2	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.3	4.0
	51～100人	14	4.5	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4	4.2
	101～150人	5	4.2	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	4.1	4.1
	151～200人	2	4.3	3.8	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2	3.9
2分割	1～100人	26	4.3	4.0	4.1	4.0	4.2	4.2	4.3	4.1
	101～200人	7	4.2	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.1	4.0

### 3. クロス集計について

ここでは昨年と同じく設問11「教室管理」と、設問4「わかりやすさ」、設問8「教科書、配布資料の活用」、設問9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問10「教員の声の聞こえやすさ」の4項目のクロス集計を行なった（詳細データは省略）。いずれのクロス集計においても、昨年と同様、大学全体および他学部と同じく、「教室管理」の評価が高ければ、クロス項目の評価も高くなるという強い

相関関係が見られる。

#### 4. 「わかりやすさ」、「知的関心」、「教室管理」の結果分析

この分析では、専任教員の担当科目のみならず、兼担の非常勤講師の1科目も含まれている。

##### \* 設問4「わかりやすさ」と設問11「教室管理」結果（詳細データ省略）

アンケート対象となった31科目の中で、設問4「わかりやすさ」について評価平均4.0以上の科目は20科目（64.5%）であり、昨年（22科目中11科目で50%）から大幅な改善が見られる。設問11「教室管理」は33科目で22科目（66.6%）が4.0以上を得ており、同じく昨年（22科目中13科目で59%）から大幅に改善された。ともに、おおむね良好と言える。

##### \* 設問5「知的関心」結果

設問5「知的関心」は、下表のとおり、4.0以上は33科目中14科目の42.4%（昨年は22科目中8科目の36.3%）であり、昨年と同じく、設問4「わかりやすさ」、設問11「教室管理」に比べると比率がやや低い。この傾向は社会科学系3学部に通通であり、引き続き大きな課題であると言える。

科目名	平均
(留)日本語ⅢA(金4)	4.68
中国語入門(木3)	4.60
(留)特別講義(市民生活とビジネス)(木3)	4.60
(留)日本語ⅡA(金3)	4.51
(留)市民生活とビジネス①C(木4)	4.47
(留)日本語I(通)／(留)日本語ⅠA(水3.金2)	4.45
簿記Ⅰ(株式会社社会計)(月1)	4.35
総合科目Ⅲ(イノベーション・マネジメント)(金1)	4.22
生活経営論(月2)	4.15
現代企業論(水3)	4.12
国際会計論(金1)	4.11
ビジネスエッセンス(金2)	4.05
スポーツと心理／(ス)スポーツと心理(水3)	4.03
簿記Ⅱ(製造業会計)(火2)	4.00
総合科目Ⅴ(食生活と健康)／食生活と健康(総合科目)／市民生活と健康(再A)(再B)(火1)	3.97
中国語入門(月3)	3.96
市民生活とビジネス①B(木4)	3.94
会計と資金の経営学②／会计学(木1)	3.94
財務会計論(水1)	3.88
情報システム論(木4)	3.86
会計と資金の経営学①(金2)	3.84
健康生活と生涯スポーツ(金3)	3.82
市民生活と健康(火2)	3.82
情報ネットワークⅠ／情報ネットワーク／情報ネットワーク(通)(火2.火3)	3.79

トピック対策英語Ⅱ(2)(金 2)	3.78
市民生活とビジネス②E(木 3)	3.74
思想の歩み／日本思想史(木 2)	3.69
スキルアップ英語 IB(金 3)	3.58
市民生活とビジネス①A(木 4)	3.57
基礎英語 I(D)(月 3)	3.55
商品と流通の経営学①(金 1)	3.51
商品と流通の経営学②／販売管理 I(火 2)	3.46
市民生活とビジネス②D(木 3)	3.31

## 2014 年度前期教育保育学科授業評価アンケート結果について

### 1 概要

人間生活科学部教育保育学科の 2014 年前期実施概要については、対象科目数が 9 科目であり、回収率は 100 パーセントであった。法学部と人間生活科学部管理栄養学科の回収率も 100 パーセントであった。経済・経営・法学部、人間生活科学部管理栄養学科に比べると、教育保育学科の実施科目数は少ないことが指摘できる。実施科目数が多くなった場合、100 パーセントの回収率が維持できるかは、担当教員の努力にかかっている。

教育保育学科の対象科目履修者数は 313 人であり、回答者数は 245 人である。回答率は 78.27 パーセントであり、管理栄養学科の 84.28 パーセントに次ぐ数字である。

回答率は、授業評価アンケートを実施した授業の出席状況を示していると理解できる。管理栄養学科と教育保育学科の回収率が高い理由として、免許・資格を取得する学科であることを指摘できる。授業に出席しなければ、結果として、免許・資格を取得できなくなる。免許・資格を取得したいという意欲は、授業の出席率に大きな影響を与えている。

### 2 教員所属別平均点

教育保育学科の質問項目ごとの平均点は、次の通りである。

- 1 あなたは、授業に出席していますか。 4.6
- 2 あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。 4.0
- 3 この授業は、シラバスにそって行なわれていますか。 4.0
- 4 授業内容は、わかりやすいですか。 3.7
- 5 この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか。 3.6
- 6 教員の教え方には、熱意が感じられますか。 3.9
- 7 授業の速さや進め方は、適切ですか。 3.7
- 8 教科書、配布資料が活用されていますか。 4.1
- 9 板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか。 3.6
- 10 教員の声は聞き取りやすいですか。 3.7
- 11 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる教員の対応は、適切ですか。 3.8
- 12 教員は、授業時間を守っていますか。 4.2

質問項目の平均点について、次のことを指摘できる。

第 1 に、教育保育学科の授業の出席率は高い。管理栄養学科の出席率の平均点は 4.7 に次ぐ高さである。まれに出席率の悪い学生がいる。授業に出席しなくなると、授業の内容が理解できなくなり、最後には退学に至る場合が多い。退学を防ぐひとつの方法は、授業への出席率を高めることである。

第2に、授業に意欲的に取り組んでいるかについては、4.0である。しかし、この数字は決して高くはない。教育保育学科の学生の中には、一部ではあるけれども、意欲が高くない者が見受けられる。教育学科は保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になるための教員養成系の学科である。学生には、大学卒業後、保育士や教員になるという、強い意欲を維持することが求められる。

第3に、授業の内容が知的関心を引き出すかについては、3.6である。担当教員の立場に立てば、授業の内容を学生の知的関心に合致するように選択することになる。科目によっては、必ず取り上げる内容があるので、中には学生の知的関心に合致しない内容も存在する。担当教員は、学生の知的関心を喚起する内容を選択することに目を向けなければならない。

学生の立場に立てば、受け身の授業態度ではなく、積極的な授業態度が求められる。学生が自ら知的関心を喚起する態度を身に付けなければならない。

第4に、授業の速さや進め方については、3.7である。授業の速さや進め方は、学生の理解度と関連している。学生の理解度は、一律ではない。学生の中には、すでに予備知識を持っている者もいるし、初めて授業の内容を聞く者もいる。学生の学力にも、ばらつきがある。学生の理解度や学力に合致した授業を実施することは、なかなか難しい。

第5に、一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などへの対応については、3.8である。担当教員には、忍耐力が必要である。忍耐強く、学生に注意を与えるのが、担当教員のすべきことである。一回の注意で、私語がなくなれば、二回三回注意をすべきである。

学生にも、私語、携帯電話、遅刻などを考えてほしい。学生が私語をしなければ、担当教員は注意する必要がなく、授業に集中することができる。平穏な授業を保つことができると、学生の理解度も高まる。

### 3 履修人数とわかりやすさ

教育保育学科において、履修人数別のわかりやすさを比較すると、次のようになる。

1～50人	(クラス数 8)	わかりやすさ 3.9
51～100人	(クラス数 1)	わかりやすさ 2.9
101～150人	(クラス数 0)	
151～200人	(クラス数 0)	

わかりやすさについては、履修人数が多い科目は、得点が低くなっている。ただし、科目数が少ないので、一般化できるかどうかは、さらに検証が必要である。わかりやすさが高い数値の科目は、「乳児保育B」「保育内容総論」「音楽表現指導法 III」「教科教育研究(算数)」「子どもの英語」である。

### 4 知的関心

教育保育学科において、知的関心が高い科目は、「乳児保育B」「音楽表現指導法 III」「保

育実習指導Ⅰ」「教科教育研究(算数)」「心の科学／性格心理学」である。知的関心が高い科目の半数は、わかりやすさの数値も高い。

## 5 教室・授業管理

教室・授業管理の数値が高い科目は、「音楽表現指導法Ⅲ」「乳児保育Ⅱ」「保育内容総論」「保育実習指導Ⅰ」「子どもの英語」「教科教育研究(算数)」「健康生活と生涯スポーツ」「特別活動論」「心の科学／性格心理学」である。教室・授業管理の数値が高い科目の多くは、わかりやすさと知的関心の数値も高くなっている。教室・授業管理の数値が高い科目については、授業を管理する担当教員のスキルが高いと評価できる。

## 6 クロス集計データ

クロス集計データについては、授業の内容のわかりやすさと一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などへの対応、教科書、配布資料の活用と一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などへの対応、板書やスクリーン・モニターなどの見やすさと一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などへの対応、教員の声の聞き取りやすさと一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などへの対応が表にされている。全体的に見れば、授業の満足度が高いほど、一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などへの対応も良いという相関関係が認められる。

## 2014 年度 人間生活科学部管理栄養学科前期授業アンケート結果報告

### 1. 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
管理栄養	999	999	842	84.28
<b>【全体】</b>	<b>8,825</b>	<b>8,633</b>	<b>5,639</b>	<b>65.32</b>

管理栄養学科の専任教員担当科目のうち 26 科目が今回のアンケート対象であった。アンケートの回収率は 84.28%と学校全体の回収率に加えて約 2 割上回っていた。

### 2. 管理栄養学科所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む）

設問	内容	平均
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.7
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.2
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.2
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.1
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	4.1
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.2
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.1
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.2
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.1
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.4
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.2
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.3
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.4

管理栄養学科に所属する専任教員担当の科目について、昨年度は 4.0 以下の科目がみられたが今年度は全て是正され最低が 4.1 と向上している。これは各教員の国家試験合格率の向上に向けての努力が少し実ってきたのかも知れない。

### 3 管理栄養学科学年別結果

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年	5年以上
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	2.8
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.1	4.0	4.1	4.3	4.0	2.3
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.2	4.3	4.1	4.4	4.4	2.0
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.0	3.9	4.0	4.3	4.2	2.3
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	4.0	3.8	4.0	4.3	4.1	2.5
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.2	4.0	4.2	4.5	4.3	2.3
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	2.0
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.2	4.1	4.2	4.5	4.2	2.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.0	3.8	4.0	4.3	4.2	2.8
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.3	4.3	4.2	4.7	4.4	2.3
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.1	3.9	4.1	4.3	4.2	2.3
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.3	4.3	4.3	4.5	4.1	2.3
B	あなたは、何年度入学ですか	7.1	8.0	7.0	6.0	5.1	1.5
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.4	1.4	1.4	1.5	1.5	1.0

学年別でのアンケート結果で、特徴的なのは 1 年生の評価が他に比べて低いことである。管理栄養学科における 1 年次教育は、その後の学習の基礎となる科目が多く、1 年次から高い意識を持たせて授業に取り組ませることが必要である。



#### 4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.7	4.7	-	-
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.2	4.0	-	-
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.3	4.2	-	-
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.1	4.1	-	-
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	4.1	4.0	-	-
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.2	4.2	-	-
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.2	4.1	-	-
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.4	3.8	-	-
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.1	4.1	-	-
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.5	4.3	-	-
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.2	4.0	-	-
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.4	4.2	-	-
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.5	1.4	-	-

履修者数別では、設問1及びDを除いたすべての項目で、51-100人規模の講義に比べて1-50人規模の講義で高値を示した。管理栄養学科では、今回の対象であった25科目の内、23科目が1-50人規模の講義であったように、ほとんどの科目で1-50人規模の講義・実習形態をとっており、講義人数の規模としては、良い形で行われていると考えられる。

#### 5 授業のわかりやすさ及び知的関心

表 わかりやすさ

科目名	平均
臨床栄養学実習 I(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.77
臨床栄養学 II(1組)(月 2)	4.73
応用栄養学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.71
運動生理学(1組)(木 3)	4.59
給食経営管理論 I(1組)(木 2)	4.44
栄養調理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.41
応用栄養学演習(1組)(火 1.火 2)	4.36
臨床栄養学演習(1組)(火 3.火 4)	4.32
栄養演習(月 3)	4.30
栄養教育論実習 II(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.30
応用栄養学 I(1組)(木 3)	4.27
公衆栄養学 II(1組)(月 1)	4.24
栄養教育論 II(1組)(木 1)	4.16
栄養管理学入門(オムニバス)(月 1)	4.08
食品学 I(1組)(火 2)	4.05
病態学 I(1組)(月 2)	4.04
フードスペシャリスト論(月 5)	4.00
公衆栄養学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.00
公衆衛生学 I(1組)(木 2)	3.95
食品官能検査・鑑別論(2年生)(金 4)	3.91
調理科学実験(1組)(金 1.金 2.金 3)	3.83
臨床栄養学 I(1組)(火 4)	3.81
食品学実験 I(1組)(木 2.木 3.木 4)	3.71
基礎栄養学 I(1組)(月 4)	3.59
生化学 I(1組)(金 1)	3.00

表 知的関心

科目名	平均
1 運動生理学(1組)(木 3)	4.73
2 臨床栄養学実習 I(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.73
3 臨床栄養学 II(1組)(月 2)	4.73
4 応用栄養学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.66
5 給食経営管理論 I(1組)(木 2)	4.46
6 栄養調理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.45
7 栄養演習(月 3)	4.33
8 応用栄養学演習(1組)(火 1.火 2)	4.32
9 栄養教育論 II(1組)(木 1)	4.21
10 栄養教育論実習 II(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.20
11 臨床栄養学演習(1組)(火 3.火 4)	4.20
12 公衆栄養学 II(1組)(月 1)	4.14
13 食品学 I(1組)(火 2)	4.10
14 応用栄養学 I(1組)(木 3)	4.09
15 病態学 I(1組)(月 2)	4.08
16 食品学実験 I(1組)(木 2.木 3.木 4)	3.97
17 フードスペシャリスト論(月 5)	3.96
18 公衆栄養学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	3.95
19 調理科学実験(1組)(金 1.金 2.金 3)	3.93
20 栄養管理学入門(オムニバス)(月 1)	3.90
21 臨床栄養学 I(1組)(火 4)	3.78
22 基礎栄養学 I(1組)(月 4)	3.75
23 食品官能検査・鑑別論(2年生)(金 4)	3.71
24 公衆衛生学 I(1組)(木 2)	3.67
25 生化学実験 I(1組)(木 2.木 3.木 4)	3.30

授業のわかりやすさ(設問4)については、かねてから「わかりやすい」だけの評価では片手落ちであり、「簡単すぎる」といった物足りなさや「大学の授業のレベルに達していない」といった不満の声が反映されていないとの指摘があった。そこで、今回のアンケートでは、学生が「知的関心」を持てたかを問う設問(設問5)を加えた。

そこで、両設問の結果を対照してみると、「わかりやすさ」が「知的関心」が上回った科目は11科目、「わかりやすさ」より「知的関心」が上回った科目は13科目、両者のポイントが同じであった科目は1科目であった。

## 6 授業・教室管理について

科目名	平均
運動生理学(1組)(木3)	4.73
臨床栄養学Ⅱ(1組)(月2)	4.68
応用栄養学演習(1組)(火1.火2)	4.64
臨床栄養学実習Ⅰ(1組)(金1.金2.金3)	4.59
栄養教育論実習Ⅱ(1組)(火1.火2.火3)	4.50
応用栄養学実習(1組)(金1.金2.金3)	4.48
臨床栄養学演習(1組)(火3.火4)	4.44
栄養調理学実習(1組)(火1.火2.火3)	4.42
栄養教育論Ⅱ(1組)(木1)	4.42
応用栄養学Ⅰ(1組)(木3)	4.36
給食経営管理論Ⅰ(1組)(木2)	4.32
臨床栄養学Ⅰ(1組)(火4)	4.29
病態学Ⅰ(1組)(月2)	4.28
食品学Ⅰ(1組)(火2)	4.22
栄養演習(月3)	4.18
公衆栄養学実習(1組)(金1.金2.金3)	4.14

授業及び教室管理について、4.0ポイント以上の好評価を得た科目は、左の通りである。

## 7 クロス集計

			設問4(授業のわかりやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	2	8	9	6	0	0
		1	4	264	75	18	8	4
		2	2	41	152	41	5	1
		3	1	18	53	80	16	5
		4	0	1	5	6	5	1
		5	0	0	1	1	0	9

			設問8(教科書・配布資料の活用)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	4	10	6	4	0	1
		1	0	307	33	26	4	3
		2	1	60	148	26	5	2
		3	4	33	53	71	10	2
		4	1	5	6	0	5	1
		5	0	2	0	1	0	8

			設問9(板書・モニターの見やすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	4	9	6	5	0	1
		1	1	279	56	25	10	2
		2	0	36	162	34	10	0
		3	0	21	52	79	15	6
		4	0	3	2	5	4	4
		5	0	1	0	0	1	9

			設問10(声の聞き取りやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	2	10	9	3	0	1
		1	0	336	25	11	0	1
		2	2	77	160	3	0	0
		3	2	48	57	63	1	2
		4	0	4	4	9	1	0
		5	0	2	0	0	0	9

クロス集計は、教室管理(設問11)と設問4、設問8、設問9、設問10と行なった。それぞれ共通していえることは、教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高く、これらは相関関係にあるということである。

## 8 複数教員担当科目について

科目名	学部学科名	学年	有効数	平均
市民生活と法	法学部	1	42	3.05

	経済学部	1	34	3.35
	経営学部	1	42	3.36
	人間生活科学部管理栄養	1	5	4.00
市民生活と経済	法学部	1	25	3.32
	経済学部	1	34	3.35
	経営学部	1	41	3.41
	人間生活科学部管理栄養	1	50	3.08
市民生活と健康	法学部	1	48	2.88
	経済学部	1	54	3.24
	経営学部	1	60	3.35
	人間生活科学部管理栄養	1	0	0.00
市民生活とビジネス	法学部	1	37	2.92
	経済学部	1	38	3.37
	経営学部	1	33	3.55
	人間生活科学部管理栄養	1	56	3.23

共通基礎科目（市民生活シリーズ）に対する評価は、どの科目についても法学部生の評価が最も低いという結果となった。要因の究明については、より詳細な調査を行わなければならない。

## 平成 26 年度前期授業評価アンケート（兼任・非常勤講師担当分）

### I. 実施率／コメント回収率／学生の回答率について

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
全体	162	158	97.53	153	96.84
兼任・非常勤講師	37	35	94.59	33	94.29

前期授業評価アンケート対象科目のうち兼任・非常勤講師担当分は 37 科目であった。文書による実施依頼にもかかわらず 3 科目が実施されなかった。

実施科目の内訳は外国語科目が 13、共通科目（講義形式）が 4、学部学科の専門科目が 18 であった。

アンケート結果についてのコメントが 2 科目について提出されていない。現状分析と今後の課題を考察することは次年度の授業改善に重要な点である。この点を兼任・非常勤講師に再度伝える必要がある。

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
全体	8,825	8,633	5,639	65.32
兼任・非常勤講師	1,840	1,755	1,120	63.82

学生の回答率は全体平均を下回る 63.82%である。これはアンケート実施日の出席率を示し、学期末に 3分の1 の学生が欠席していることになる。この中には失格者も含まれると思われるが、履修した科目を最後まで学び続けるように、兼任・非常勤講師にも学生に対して指導の強化をお願いする必要がある。

### II. 集計結果について

#### 設問項目

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

## 1. 33科目の平均ポイント

設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問 D(Yes 率)
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
4.3	4.0	4.2	4.0	4.0	4.2	4.1	4.2	4.0	4.2	4.0	4.3		56.60%

33科目の平均値である。すべての項目が4.0以上であり、大きな問題点はないが、本学が重視している4「わかりやすさ」5「知的関心」11「教室管理」が4.0で、他の項目よりも低い。この点の更なる改善をお願いしたい。

## 2. クラスサイズ別の平均ポイント

履修者 数	クラ ス数	設 問 1	設 問 2	設 問 3	設 問 4	設 問 5	設 問 6	設 問 7	設 問 8	設 問 9	設 問 10	設 問1 1	設 問1 2	設問 D(Yes 率)
1-50 人	26	4.4	4.1	4.3	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.1	4.4	4.1	4.4	50.9%

51- 100人	4	4.4	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	69.6%
101- 150人	3	4.3	3.8	4.1	3.8	3.8	4.0	4.0	4.1	3.8	4.0	3.8	4.1	60.7%
151- 200人	2	4.3	4.0	4.2	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	4.1	62.0%

履修者数 50 人以下が 26 クラス(74.2%)で、そのうち 13 クラスは外国語科目である。1~50 人と 51~100 人では大差はなく、101~150 人と 150 人~200 人もほぼ同じポイントである。これは 100 人以下にすることが授業環境として望ましいことを示している。本学では大教室の授業は最大 150 人としている。担当者が希望すれば 100~120 人に制限することも可能である。こうした履修者数の制限が可能であることを兼任・非常勤講師にも再度周知し、より良い学習環境を整えたい。

1~50 人のシラバス確認率が低い点は理由が不明であるが、外国語科目については「入門」であり、内容を確認する必要を感じていないのかもしれない。また選択必修の学部もあるため内容を確認せず履修する傾向があることも考えられる。

### 3. 「わかりやすさ」「知的関心」「教室管理」について

<外国語 13 科目>

科目	担当者	わかりやすさ	知的関心	教室管理
ポルトガル語	担当者 A(1 科目)	4.54	4.42	4.54
コリア語	担当者 B(2 科目)	4.31	4.44	4.42
コリア語	担当者 C(3 科目)	4.18	4.00	4.02
フランス語	担当者 D(2 科目)	4.25	4.09	4.32
フランス語	担当者 E(2 科目)	4.35	4.25	4.43
ドイツ語	担当者 F(3 科目)	3.67	3.66	3.73
	平均	4.15	4.07	4.17

全体平均は 3 項目とも 4.0 以上であるが、ドイツ語の平均が低いことが気になる。担当者に改善をお願いしたい。

< 共通科目(講義形式) >

科目名	わかりやすさ	知的関心	教室管理
政治の世界／政治の理論	4.15	4.06	3.98
心の科学／性格心理学	4.06	4.09	3.98
社会行動の科学／社会学	3.8	3.79	3.83
(留)日本事情 I	4.63	4.72	4.74

「社会行動の科学／社会学」は 2 名の担当者によるオムニバス形式で、2 名ともこの科目を初めて担当した(1 名は専任教員)。3 項目すべてについて改善が求められる。留学生対象の「日本事情 I」は 3 項目とも高いポイントを示している。今年度は留学生の数が増加しているが、どのような工夫がされているか担当者に尋ね、全学的に共有したい。「心の科学／性格心理学」の担当者は今年度が初めての担当で、受講者が 150 人を越えたが、ほぼ問題がなかったと言える。

< 専門科目 >

	わかりやすさ	知的関心	教室管理
18 科目平均	4.08	3.58	4.02

専門科目については、開講学部学科において分析報告がされているので数値のみ記載するが、「知的関心」が高まる授業が求められていることは明らかである。

#### 4. 「教室管理」との 4 項目クロス集計について

設問 11「教室管理」と、設問 4「わかりやすさ」、設問 8「教科書、配布資料の活用」、設問 9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問 10「教員の声の聞こえやすさ」の 4 項目のクロス集計結果(詳細データは省略)では、いずれのクロス集計においても、「教室管理」のポイントが高ければ、クロス項目のポイントも高くなるという強い相関関係が見られた。

## 2014 年度後期法学部授業評価アンケート結果報告

### 1 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
法学部	1,149	1,149	763	66.41
<b>【全体】</b>	<b>7,908</b>	<b>7,732</b>	<b>5,268</b>	<b>68.13</b>

法学部の専任教員担当科目のうち 22 科目が今回のアンケート対象であり、全 22 科目のアンケートが回収された。該当科目履修者数に対する回答率は 66.41%と改善が見られた（前年度：61.08%）。ただし、全体の回答率（68.13%）と比較すれば依然として低い結果である。この理由としては、以下の 2 点があるように思われる。

まず、①人間生活科学部の対象科目の多くが実習形式または少人数クラスの授業であることから同学部のアンケート回答率が非常に高く（8割超）、これが全体の回答率を押し上げていると推察される。また、②アンケート用紙が受講者のみならず出席者に対しても不足するケースがあり、これが回答率に影響を与えている疑いがある。②に関しては、以下の調査結果全体の信頼性を傷つけるおそれがある。アンケート用紙封入時に確認を行う等、改善をはかる必要がある。

なお、今年度、コメント未提出科目が（22 科目中）2 科目あった（提出率：90.91%）。こちらも改善の必要がある。

### 2 法学部所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む、値は「平均」）

設問	内容	本年	前年
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.1	4.2
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.8	4.0
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.1	4.1
4	授業内容は、わかりやすいですか	3.9	4.0
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	3.8	3.9
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.0	4.1
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.0	4.0
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.1	4.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.9	4.0
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.1	4.2
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.0	4.0
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.2	4.2

法学部所属教員担当の科目について、平均値のみを前年度と比較すれば 0.1 ポイントの変動が多々見られる（設問 1, 4, 5, 6, 8, 9, 10）。ただし、これが有意な変化か否かは直ちに判別できない。学生の「意欲」（設問 2）に関して、0.2 ポイントの低下が見られることは気付きではあるが、（対象科目の内訳が若干異なることを留保して）次項目「法学部生学年別結果」と合わせて考察するに、これは回収数の多い 1 年生、2 年生の評価が芳しくないことが原因であるように思われる。

### 3 法学部生学年別結果

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年	5年以上
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.0	3.9	4.0	4.1	3.8	4.5
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.8	3.7	3.8	4.0	3.9	5.0
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.0	4.0	4.0	4.2	4.4	5.0
4	授業内容は、わかりやすいですか	3.9	3.9	3.8	4.2	4.2	5.0
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	3.8	3.6	3.7	4.1	4.0	4.5
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.0	3.9	3.9	4.2	4.4	4.0
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.0	3.9	3.9	4.2	4.2	5.0
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.1	4.0	4.0	4.2	4.4	4.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	3.9	4.0	3.8	4.2	4.0	3.0
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.1	4.1	4.0	4.3	4.5	4.5
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.0	3.9	3.9	4.2	4.2	4.5
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.2	4.1	4.2	4.3	4.4	3.5
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.5	1.5	1.5	1.7	1.7	2.0

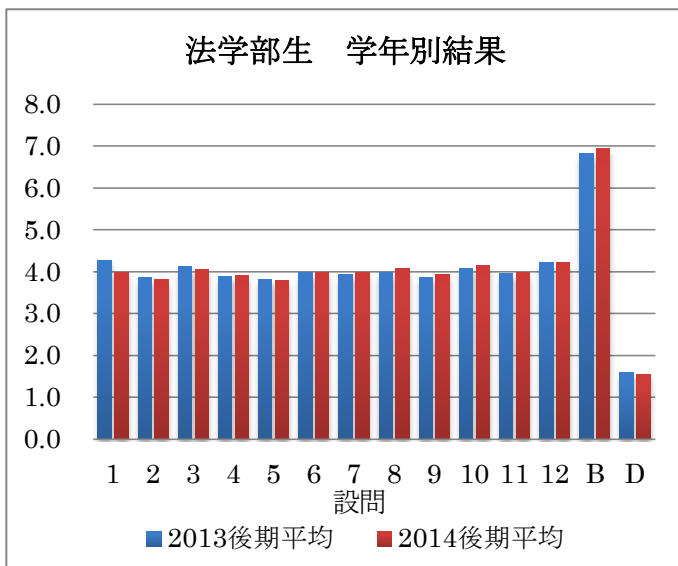


全体的には、前年同様の評価であった。

今年度前期の結果報告には、旧カリキュラムの学生である3,4年生と比較したところ新カリキュラムで学ぶ学生の評価の方が全般として低い傾向にあることが指摘されていたが、後期においても同様の傾向が見られる（もともと、①前期と後期とでは対象科目が異なることおよび②4年生の有効回答数が各設問とも50前後と少ないことは考慮する必要がある）。

この傾向が科目の特性に由来するのか否かは、提供されたデータからは精査できなかった。

なお、1年生が他の学年と比較して低めの評価を示す傾向は、一部の設問を除いて社会科学系三学部共通して見られることを付言する。



#### 4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.1	4.0	0.0	0.0
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	3.9	3.7	0.0	0.0
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.2	4.0	0.0	0.0
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.0	3.8	0.0	0.0
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	3.9	3.7	0.0	0.0
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.1	3.9	0.0	0.0
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.1	4.0	0.0	0.0
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.2	4.0	0.0	0.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.0	3.8	0.0	0.0
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.3	4.1	0.0	0.0
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.2	3.9	0.0	0.0
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.4	4.2	0.0	0.0
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.7	1.5	0.0	0.0

履修者数別については、前期は151人以上の大人数授業において全般的に評価が低い様子が認められたが、後期においてはこのような大人数授業は行われなかった。なお、後期においても、50人未満のクラスの学生評価が高い傾向が窺える。

さて、今年度においては、積極的にクラス分けが行われ大人数授業が無くなったにもかかわらず、法学部全体の学生評価が大きく好転することは無かった（「2 法学部所属教員の結果」参照）。

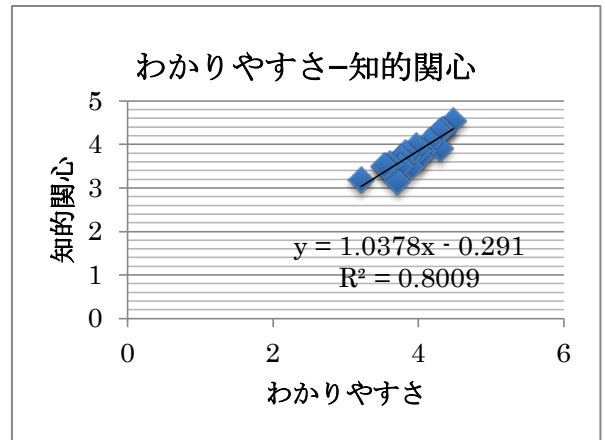
この原因としては、学生評価の高い50人未満の授業数が減少したこと（16科目→13科目）、クラス分けが前年度と異なること等いくつかの可能性が考えられるが、これらを検証することはできなかった。

#### 5 授業のわかりやすさ及び知的関心（法学部関係科目及び法学部専任教員名が担当者として表記されている科目）

科目名	わかりやすさ	知的関心
行政領域法(月3)	4.48	4.53
知的財産法II(金3)	4.35	4.33
独占禁止法II(木2)	4.33	4.33
市民生活と教育(火2)	4.30	3.90
簿記学II/簿記学(通)(木2)	4.29	4.29
契約法II(水3)	4.15	4.07
会社法(水3)	4.07	3.86
犯罪と法②(火2)	4.03	3.71
スキルアップ英語IID(月3)	4.00	3.87
市民生活と法/市民生活と法(再)/法と生活(火2)	4.00	3.85
国家と法(日本国憲法)①/国家と法(金4)	3.97	3.96
犯罪と法①/犯罪と法(火2)	3.91	3.47
民法総則II(再)(水2)	3.86	3.71

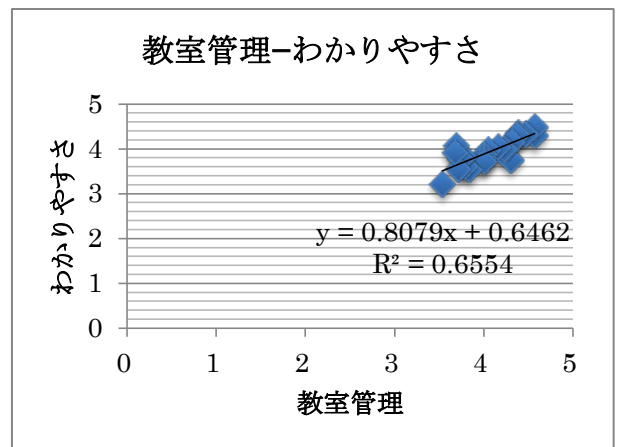
国際社会と法②(木3)	3.82	3.80
英語ライティング(3)/英語ライティングI(3)(水1)	3.78	3.61
スキルアップ英語IIA(月3)	3.77	3.69
企業会計法(火1)	3.75	3.50
刑法総論II(再)(金4)	3.71	3.14
国際社会と法①/国際社会と法(木2)	3.61	3.55
国家と法(日本国憲法)②/憲法(金4)	3.54	3.48
基礎英語II(A)(火1)	3.53	3.50
刑法総論(火4)	3.21	3.18

法学部の科目では、わかりやすさと知的関心の間に正の相関関係が認められる。



#### 6 授業・教室管理について

科目名	平均
簿記学II/簿記学(通)(木2)	4.57
行政領域法(月3)	4.57
独占禁止法II(木2)	4.47
知的財産法II(金3)	4.38
市民生活と教育(火2)	4.38
契約法II(水3)	4.31
企業会計法(火1)	4.30
スキルアップ英語IID(月3)	4.25
市民生活と法/市民生活と法(再)/法と生活(火2)	4.23
犯罪と法②(火2)	4.16



授業及び教室管理について、高評価順に10科目を示すと、上記の通りである。

「教室管理」(設問11)については、「わかりやすさ」(設問4)との関係が前期報告書においても指摘されていた。後期のデータを見る限りでは、ここにも正の相関関係が窺える。

#### 7 複数教員による授業

科目名	平均
犯罪と法②(火2)	3.94
国家と法(日本国憲法)①/国家と法(金4)	3.74
犯罪と法①/犯罪と法(火2)	3.49
市民生活と教育(火2)	3.40
国際社会と法②(木3)	3.29

法学部関係科目及び法学部専任教員名が担当者として表記されている科目について、複数教員による授業を好ましいという評価のあった授業を、高評価順に5科目示すと、左記の通りである。

「複数教員による授業の好ましさ」(設問13)については、前年度に科目別の集計がなされていなかったため、年度間の比較を行うことができなかった。

8 クロス集計

			設問 4(授業のわかりやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問 11	回答なし	1	15	7	4	2	2
		1	4	174	65	17	4	1
		2	3	26	152	50	12	2
		3	1	10	43	112	12	2
		4	0	2	6	10	5	2
		5	0	1	5	3	0	9

			設問 8(教科書・配布資料の活用)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問 11	回答なし	2	18	6	5	0	0
		1	7	205	35	11	3	4
		2	0	45	161	37	1	0
		3	5	25	40	102	6	2
		4	0	6	10	4	2	3
		5	1	2	5	3	1	6

			設問 9(板書・モニターの見やすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問 11	回答なし	3	10	12	5	0	1
		1	2	196	38	21	7	1
		2	2	27	152	51	11	1
		3	0	14	31	118	10	7
		4	0	2	9	5	8	1
		5	0	1	4	2	3	8

			設問 10(声の聞き取りやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問 11	回答なし	4	12	10	4	1	0
		1	2	226	27	7	3	0
		2	3	52	149	38	2	0
		3	0	26	47	98	8	1
		4	0	9	5	6	4	1
		5	1	3	5	1	1	7

クロス集計は、教室管理（設問 11）と設問 4、設問 8、設問 9、設問 10 と行なった。  
 一般に教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高い傾向がある。

9 専門共通基礎科目について（概要）

区分	No.	回収番号	科目名	設問 04	設問 05	設問 11	設問 13
専門共通基礎Ⅰ	1	153	市民生活とキャリア形成①A(水 4)	3.67	3.74	3.94	3.42
	2	144	市民生活とキャリア形成①B(水 4)	4.00	3.83	3.88	3.76
	3	154	市民生活とキャリア形成②D(水 2)	3.94	3.91	3.85	
	4	145	市民生活とキャリア形成②E(水 2)	3.86	3.68	3.86	3.61
	5	17	市民生活と経済(再 A)(月 4)	4.20	4.10	4.26	
	6	20	市民生活と経済(再 B)(月 4)	3.96	3.94	3.92	3.08
	7	1	市民生活と経済/経済学/現代経済入門/基本経済学(再)(月 4)	4.08	4.05	3.76	2.65
	8	37	市民生活とビジネス/市民生活とビジネス(再)/ネットワーク社会とビジネス(木 4)	3.96	3.73	3.79	3.23
	9	61	市民生活と法/市民生活と法(再)/法と生活(火 2)	4.00	3.85	4.23	
	10	66	市民生活と教育(火 2)	4.30	3.90	4.38	3.40
	11	29	市民生活と教育(再)/教育学 A(木 1)	4.13	4.11	4.39	2.92
専門共通基礎Ⅱ	12	45	情報技術の経営学①(金 2)	3.64	3.57	3.79	
	13	46	情報技術の経営学②/コンピュータの基礎(水 3)	3.72	3.53	3.73	
	14	146	人と組織の経営学①(水 3)	3.69	3.81	3.92	
	15	147	人と組織の経営学②/経営管理論(火 2)	3.44	3.52	3.69	
	16	6	戦後日本経済の動き①/日本経済論 I(木 3)	2.95	2.97	3.67	
	17	5	戦後日本経済の動き②(水 3)	3.02	2.88	3.72	
	18	123	地域経済と消費者①(水 3)	3.93	3.89	3.93	

19	18	地域経済と消費者②(金1)	3.71	3.67	3.95	3.23
20	62	国家と法(日本国憲法)①/国家と法(金4)	3.97	3.96	4.04	3.74
21	65	国家と法(日本国憲法)②/憲法(金4)	3.54	3.48	3.72	3.13
22	58	犯罪と法①/犯罪と法(火2)	3.91	3.47	3.68	3.49
23	68	犯罪と法②(火2)	4.03	3.71	4.16	3.94
24	53	国際社会と法①/国際社会と法(木2)	3.61	3.55	3.79	3.10
25	54	国際社会と法②(木3)	3.82	3.80	3.77	3.29

対象である各科目について、「わかりやすさ」(設問4)、「知的関心」(設問5)、「教室管理」(設問11)、「オムニバス」(設問13)を抽出した。

前期報告で述べたように、昨年度と異なり、専門共通基礎Ⅰのクラス分けは学部別ではなく各学部混合となっている。そのため法学部学生の動向を科目別の結果から抽出することは不可能である。また、専門共通基礎Ⅱについては、それぞれの科目の①が科目設置学部の学生向け(含旧カリキュラム生)、②がそれ以外の学部学生向けとなっている。

クラス分けを行っている科目において同一内容の講義を行っている場合には、当該科目のクラス間の相違は母集団の傾向として理解できそうである。この点、「国家と法」においては法学部生の評価が高い(①>②)のに対して、「犯罪と法」および「国際社会と法」は逆の傾向(①<②)を示している。この理由については、他学部クラス(②)の母集団の構成(比)が異なることに由来するのか、それとも他の要因があるのか明らかにできなかった。

本項目は前年度との変更点が多いため、年度間の検討は次年度以降に行うこととする。

## 平成 26 年度後期授業評価アンケート結果—経済学部関連部分の分析

### 1. 概要

アンケート回収率(回収科目数÷対象科目数)は 100%であった。前期の 96.3%に比べてアップしており、対象科目の全てから回収することができた。アンケート回答率(回答者数÷回収科目履修者数)は 65.0%であった。前期に比べて若干向上しているとはいえるが、人間生活科学部の回収率が 80%を超えていることと比較すると、低い水準にある。

回答率が 6 割程度であることについては、前期のアンケート結果の分析においても指摘したが、アンケート実施の時点で失格(あるいはその予備軍)になっている学生が相応にいたことがあると考えられる。しかし、アンケート実施時点で失格を確定することは、公正かつ適切な授業評価を行う上で重要であるので、回答率が下がってしまうということは、ある意味で当然であるといえる。

今後の課題としては、回答率の向上がある。これについては、失格もしくは失格予備軍の学生を減らすことが重要になる。となると、学生の出席率の向上がその手段の 1 つといえる。しかし、出席等の厳格化により、強制的に出席を促し、出席率向上を図ることは望ましいことではない。そのため、学生に自発的な出席を促すための仕組みづくり、つまり魅力的な授業づくりが教員にとって求められるといえよう。

### 2. 学部所属教員全体に関するデータの分析

分析対象とする設問は次の通りである。

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか

また、回答の全体は次の通りである。前期と比較すると、4の授業内容のわかりやすさ、7の授業の進め方、8の授業の資料の活用、9の板書やモニターの活用、10の声の聞き取りやすさ、11の教室管理においては、平均が上がっている。前期の分析でも指摘したが、9・10・11の項目は昨年度の前期に比べて、今年度の前期には上がっていた。後期も引き続き上がっていたことから、若干の改善が見られた結果ではないかと考えられる。しかし、依然として3点代の項目もあるので、より一層の改善が必要になるとみられる。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
前期	4.2	3.9	4.0	3.8	3.7	4.0	3.8	3.9	3.9	4.0	3.9	4.2
後期	4.1	3.8	4.0	3.9	3.7	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2

### 3. 履修者数別データの分析

ここでは、設問4の授業内容のわかりやすさ、設問9の授業内容の提示方法、設問10の教員の声量など、設問11の教室管理について注目したい。教室の規模が拡大するにつれて、これらの項目は低下するのではないかと考えられたが、設問10の場合にみられるように大教室であっても授業内容は伝わっているとみられる結果や教室管理の評価が高くなっているという結果となった。唯一、小規模クラスが大規模クラスに対して高くなっていたのは、設問9の授業内容の提示方法であった。

したがって、授業規模と授業の進め方、教室管理には相関がある項目もあるが、必ずしも教室規模が小規模だからといって、教室管理の評価の高さに結びついてはいないことが明らかになった。つまり、授業者である教員の力量によるところが大きく影響しているといえる。しかし、一般的な傾向としては、教室のサイズが小さいほど教室管理は容易であるので、クラスの規模の拡大にともなって、教室管理は困難になる可能性は高くなっていく。クラスの規模の拡大により、教室管理がおろそかになると、受講生の授業満足度を下げることにもつながる。今回の結果のように、教室管理は教員の力量も関係するので、全ての授業の規模を小規模にする必要はないと考える。現在の規模の中で、適正な教室管理の方法を模索することの方が重要である。

授業規模	授業数	設 問											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1～50人	10	4.1	3.8	4.0	3.8	3.7	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	3.9	4.2
51～100人	9	4.1	3.9	4.0	3.8	3.7	3.8	3.7	4.2	4.0	4.1	4.0	4.2
101～150人	2	4.1	3.8	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	3.8	4.0	4.2	4.1	4.3

### 4. 学部学生視点からのデータ分析

全体的な傾向としては、1年生と4年生において、平均を上回る項目が見られた。一方で、2年生と3年生では平均を上回る項目は少なく、2年生に至っては平均を上回る項目は1つも見られない。

1年生については、7～10の授業の進め方に関わる項目の平均値が高くなっていることから、授業の進め方について肯定的に評価していることがうかがえる。3年生については、基本的にすべての項目が4以上となっており、授業の進め方に関する項目は1年生とほぼ同様の傾向が見られた。4年生については、ほぼすべての項目が4以上でしかも平均以上の項目が目立っている。

ここで、11の教室管理に関わる項目についてみておきたい。すべての学年において4以上となっているので、特段問題がある授業はないようにも見える。しかし、学年別には1年生と2年生が平均以下になっている一方、3年生と4年生では平均以上になっている。これについては、1年生や2年生の場合は他学部と共通で受講する科目が多いなど、教員の側からする教室管理が困難な科目が多いことがあるのではないかと考えられる。3年生や4年生になると、専門科目が増え、クラスサイズもそれまでに比べて小さくなること、受講生自身も大学の授業に対する受講姿勢も確立されることもあり、教室管理において問題が生じることが少なくなることで影響しているのではないかと考えられる。

学部の特徴としては、2年生の評価が低いということがある。しかし、これも前期に比べると結果自体はよくなっている(前期は、1、10、12の設問の除いたすべての設問の平均が3点台であった)。前期のアンケート結果で指摘した点について改善が見られたのではないかと考えられる。しかし、他の学年に比べて圧倒的に低いので、授業に意欲的に取り組めるような仕組み作り、知的関心を向上させられるような取り組みを行っていく必要がある。

ただし、これらの取り組みを進めるに当っては教員側での準備も必要であるが、学生側でも予習・復習を進める必要がある。予習復習が行われていないなかでは、わかりやすさや知的関心の結果についてはもう少し慎重に捉える必要があるといえる。学生側の自発的な授業の準備(予習と復習)を促し、授業に臨んでもらうことについては、ゼミ等で指導していく必要があるのではないだろうか。

学年	設問											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全学年	4.2	4.0	4.1	4.0	3.9	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	4.1	4.3
1年	4.3	4.0	4.3	4.0	3.9	4.1	4.1	4.4	4.1	4.3	4.0	4.4
2年	4.2	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	4.0	4.2
3年	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1	4.3
4年	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3	4.0	4.2	4.3	4.3	4.5

## 5. 知的関心について

本学部において知的関心の項目が高くなっている授業の上位3つをあげると、「消費経済論・金3」(4.31)、「金融機関論・金2」(4.21)、「経済統計学・水1」(4.13)である。このほか、「市民生活と経済(再)・月4」の3クラスのうちの2クラスがそれぞれ、4.10と4.05と高くなっていた。これらの科目の担当教員の他の科目の知的関心は高くなっているものが多く、教員の授業スタイルと知的関心の高さには関係がある結果となった。

## 6. 非常勤講師の結果

経済学部専門科目のうち、非常勤講師が担当している科目は、以下の2科目であった。いずれの科目もほぼ4点であること、また経済学部の平均よりも上になっているため、授業を進めるうえで特段課題となっていることがあるとは考えにくい。いずれの科目も2年次生配当のものであるため、逆に、具体的にどのような授業を行っているのかといった情報交換を可能であれば行うというのも、今後、授業内容を充実させるうえで必要になるのではないかと考える。

科目名	わかりやすさ	知的関心	教室管理
地域経済と消費者①(水3)	3.93	3.89	3.93
経済史Ⅱ/経済史(通)(火4)	3.90	4.19	4.30

## 7. クロス集計データ

ここでのデータは、教室管理とわかりやすさ、教室管理と授業資料の活用、教室管理と機材の活用、教室管理と教員の声の聞き取りやすさである。全体的に言えることであるが、教室管理と授業への配慮をしっかりと行っている場合には、学生の満足も高くなっている。適切な教室管理をすることは、適切な授業環境を提供する

ことにほかならない。授業内容の充実を高めていくうえでも今後必要なものとなっていくので、教室管理を各教員で適切に行うのはもちろんであるが、これに関する情報の共有や交換を行うことも重要になっていくのではないだろうか。



# 平成 26 年度後期 経営学部 授業評価アンケート結果総評

経営学部 FD 委員会

## 1. 実施対象科目数、実施率、コメント提出率

所属名	対象科(A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント 提出率 (C÷B)
【全体】	154	150	97.40	150	100.00
経営学部	26	26	100.00	26	100.00

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	7,908	7,732	5,268	68.13
経営学部	1,656	1,656	1,041	62.86

経営学部の回答率は 62.86%であり、他の社会科学系 2 学部と同じく全体平均 68.13%と比べると少し低い。ただし全体平均と言う数値は曲者である。国家試験を目指す人間生活科学部の 2 学科とそうでない社会科学系 3 学部とでは出席に対する学生の内発的動機付けが観察的にも異なり、70%～80%台の出席率を維持する前者と 50%～60%台を維持する後者は統計的に異なる母集団群と見なさざるを得ず、全体平均は両群の谷間の数値を示すに過ぎない。むろん後者もなんらかの動機付けの工夫により前者の出席率の水準を目指すべきであるが、現状はそうではなく、したがって本稿でも回答率にかぎり、全体平均を参考値としてのみ扱う。

回答率の推移を見ると——カッコ内は大学全体——、2011 年度前期 56.8 (63.3)、後期 50.3 (54.9)、2012 年度前期 62.65 (64.91)、後期 56.22 (61.55)と、2013 年度前期 62.55 (64.87)、後期 57.68 (60.48)と、前期より後期のほうが全般的に低い傾向があり、前後期を分けて比較する必要がある。そこで後期の経営学部の推移を見ると、50.3→56.22→57.68 であり、今年後期 62.86 は昨年後期をさらに 5 ポイント上回り、今年前期 61.90 をも越える回答率となった。このことは後期の出席率が課題だっただけに評価して良い。昨年後期に導入した出席管理システムをベースとする経営学部一丸の努力がようやく実りつつある兆しと見たい。ただし出席率をもっと上げるためには更なる工夫の取り組みが必要である。出席率は単位取得率を大きく左右する。学生の授業への参加をいかに促していくかは、従来通り大きな課題である。

## 2. 学生視点からのデータ分析

\* 設問項目 (科目ごとの自由設問①②、およびフェース確認の設問 A, B, C を省略)

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか

3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか
8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

**\* 教員所属別平均 ( )内は前年度後期**

所属	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問D (Yes率)
全体	4.3 (4.4)	4.0 (4.0)	4.2 (4.1)	4.0 (4.0)	3.9 (3.9)	4.1 (4.1)	4.1 (4.0)	4.2 (4.1)	4.0 (4.0)	4.2 (4.2)	4.1 (4.0)	4.3 (4.3)	54.6%
経営	4.3 (4.4)	4.0 (4.1)	4.3 (4.2)	4.1 (4.1)	4.0 (4.0)	4.2 (4.2)	4.2 (4.1)	4.2 (4.2)	4.2 (4.1)	4.3 (4.2)	4.1 (4.1)	4.4 (4.4)	62.0%

経営学部所属教員担当科目の平均ポイント（上表）を見ると、設問1「出席」を除くすべての設問において大学全体の平均と同等もしくは同等以上であり、おおむね良好である。昨年後期に引き続き、設問5「知的関心」（太字）は、大学平均でも経営学部でも他の設問と比較すると評価値がやや低く、依然として課題である。また昨年後期と同様、設問4「わかりやすさ」（斜体）は大学全体の平均を若干上回った。なお、シラバスを読んで授業に臨んだ割合62.0%は、前期（64.1%）同様、大学平均54.6%（前期56.2%）を大きく上回った。経営学部ではシラバスに目を通すことを繰り返し学生に伝えていたので、その結果であると評価できる。

**\*学生視点<学部全体と学年別> ( )内は前年度後期**

設問	学部全体	1年	2年	3年	最終学年	不明
1	4.2 (4.3)	4.3 (4.4)	4.2 (4.4)	4.2 (4.4)	4.1 (4.1)	4.2
2	4.0 (3.9)	4.0 (4.0)	3.9 (4.0)	4.0 (4.0)	4.0 (4.0)	4.0
3	4.2 (4.0)	4.3 (4.2)	4.0 (4.2)	4.1 (4.2)	4.2 (4.3)	4.1
4	4.0 (3.9)	4.0 (4.0)	3.9 (4.0)	4.0 (4.0)	4.1 (4.0)	4.0
5	3.9 (3.8)	3.9 (3.9)	3.9 (3.9)	4.0 (3.9)	4.0 (4.1)	3.9
6	4.1 (4.0)	4.1 (4.1)	4.0 (4.1)	4.1 (4.2)	4.2 (4.2)	4.1
7	4.0 (4.0)	4.1 (4.0)	3.9 (4.0)	4.1 (4.1)	4.2 (4.2)	4.0
8	4.1 (4.0)	4.4 (4.1)	4.1 (4.1)	4.1 (4.2)	4.1 (4.2)	4.2
9	4.1 (3.9)	4.1 (4.0)	3.9 (4.0)	4.1 (4.1)	4.2 (4.0)	4.0
10	4.2 (4.1)	4.3 (4.1)	4.1 (4.1)	4.3 (4.3)	4.3 (4.3)	4.2

11	4.1 (4.0)	4.0 (4.0)	4.0 (4.0)	4.1 (4.1)	4.3 (4.0)	4.1
12	4.3 (4.3)	4.4 (4.3)	4.2 (4.3)	4.3 (4.5)	4.5 (4.4)	4.3
1~12 平均	4.3 (4.3)	4.4 (4.3)	4.2 (4.3)	4.3 (4.5)	4.5 (4.4)	4.1

経営学部学生の12個の設問の平均得点（上表）は、昨年より少し改善された。1年生が受講する専門共通基礎I科目や共通科目における教室管理の工夫（人数制限や座席指定の導入、静謐さの確保）に加え、経営学部担当科目に対する教員レビューなどの努力の結果と考えることができる。

学年ごとの違いはどうであろうか。今年前期の1年生の評価は前年よりも改善されていたが、今年後期の得点分布はそのようではなく学年間に目立った違いは認められない。ただし全般的には前年からの改善があった前期の状態がほぼ維持された状況と見ることも出来る。

### \* クラスサイズ別の「わかりやすさ」と「教室管理」

クラスサイズ別の各設問の得点（下表）をみると、大学全体では、前期同様、受講者数が少ないほどすべての設問で得点が高くなる顕著な傾向が見られたが、経営学部に限ると、授業数（データ数）は合計で26個と少なく、必ずしも大学全体のような顕著な関係は見られない。しかし、1~100人と101人~200人に規模グループを2分割すると、これも前期同様、経営学部でも大学全体と同じ傾向が浮かび上がる。すなわち、「人数が少ないほうが良い授業が作りやすい」という一般認識は正しいが、100人以下の場合、人数の如何を問わず工夫次第で良い授業は作りうる」、ということであろう。これはまだ仮説に過ぎないが、引き続き検討してゆきたい点である。

設問数= 16		授業数	出席	意欲的取り組み	わかりやすさ	知的関心	教員熱意	板書、スクリーン	教員の声	教室管理
			設問 1	設問 2	設問 4	設問 5	設問 6	設問 9	設問 10	設問 11
全体	1~50人	98	4.4	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.3	4.2
	51~100人	36	4.2	3.9	3.9	3.8	4.1	3.9	4.2	4.0
	101~150人	14	4.2	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0	4.2	4.0
	151~200人	2	4.2	3.8	3.7	3.7	4.0	3.6	4.0	3.7
経営学部	1~50人	13	4.2	4.1	4.3	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3
	51~100人	6	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4	4.2
	101~150人	7	4.3	3.9	3.9	3.8	4.1	4.1	4.2	4.0
	151~200人	0	/	/	/	/	/	/	/	/
2分割	1~100人	19	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3
	101~200人	7	4.3	3.9	3.9	3.8	4.1	4.1	4.2	4.0

### 3. クロス集計について

ここでは昨年と同じく設問11「教室管理」と、設問4「わかりやすさ」、設問8「教科書、配布資料の活用」、設問9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問10「教員の声の聞こえやすさ」の4項目のクロス集計を行なった（詳細データは省略）。いずれのクロス集計においても、昨年と同様、大

学全体および他学部と同じく、「教室管理」の評価が高ければ、クロス項目の評価も高くなるという強い相関関係が見られる。

#### 4. 「わかりやすさ」、「知的関心」、「教室管理」の結果分析

この分析では、専任教員の担当科目のみならず、兼担の非常勤講師の7科目も含まれている。

##### \* 設問4「わかりやすさ」と設問11「教室管理」結果（詳細データ省略）

アンケート対象となった33科目の中で、設問4「わかりやすさ」について評価平均4.0以上の科目は21科目（63.6%）であり、昨年後期（23科目中16科目で69.5%）から少し下がったものの、なお良好である。設問11「教室管理」は33科目で23科目（69.7%）が4.0以上を得ており、同じく昨年（23科目中16科目で69.6%）同様、おおむね良好と言える。

##### \* 設問5「知的関心」結果

設問5「知的関心」は、下表のとおり、4.0以上は33科目中18科目の54.5%であり、昨年後期（23科目中15科目の65.2%）より下がった。また、「知的関心」が、設問4「わかりやすさ」（63.6%）、設問11「教室管理」（69.7%）に比べて比率がやや低い点も昨年と変わらない。この傾向は社会科学系3学部に共通であり、授業の中でいかに知的関心を引き起こすかは、引き続き大きな課題であると言える。

科目名	平均
(留)日本事情Ⅱ(木2)	4.83
基本簿記(火2.金1)	4.42
地域情報論(木3.木4)	4.40
中国語入門(月3)	4.39
管理会計論(火4)	4.36
基本簿記(火2.金1)	4.33
監査論(水1)	4.32
消費者商品論(水1)	4.30
健康生活と生涯スポーツ／健康とスポーツ(再)(月1)	4.29
税法会計論(月2)	4.25
生産システム論(月2)	4.14
健康生活と生涯スポーツ／健康とスポーツ(再)(月2)	4.13
情報ネットワークⅡ／情報ネットワーク(通)(火3)	4.11
市民生活と教育(再)／教育学A(木1)	4.11
販売管理Ⅲ(金2)	4.10
情報システム設計(水1.金2)	4.09
原価計算論(木2)	4.05

マーケティング論(月 3)	4.00
マーケティング論(通)(木 3)	3.95
情報倫理学／情報社会と情報倫理(通)(木 4)	3.87
基本経営学(火 4)	3.86
人と組織の経営学①(水 3)	3.81
(ス)スポーツと社会／スポーツと社会(木 1)	3.80
生活の中の科学／生活と物質(木 1)	3.74
基礎英語Ⅱ(G)(金 3)	3.74
市民生活とビジネス／市民生活とビジネス(再)／ネットワーク社会とビジネス(木 4)	3.73
経営統計論／マネジメント・エンジニアリング(木 1)	3.69
基本簿記(再)(火 3.金 1)	3.69
英語リーディングⅠ(3)／英語リーディング(3)(金 2)	3.67
スキルアップ英語ⅡC(月 3)	3.65
情報技術の経営学①(金 2)	3.57
情報技術の経営学②／コンピュータの基礎(水 3)	3.53
人と組織の経営学②／経営管理論(火 2)	3.52

## 2014 年度後期 学生授業評価アンケート結果分析（教育保育学科）

### 1. 実施概要より

- 対象科目数 18、回収科目数 18 の回収率 100%であった
- 対象科目履修者数 756 名、回収科目履修者数 756 名、回答者数 632 名の回答率 83.60%（人間生活科学部は両学科とも回答率 8 割超であった）

### 2. 教員所属別集計結果より

1. 学生の出席度合いは、4.4（他学部他学科は 4.1～4.7）
2. 学生の意欲は、4.0（他学部他学科は 3.8～4.2）
3. シラバスどおりの授業実施は、4.1（4.0～4.3）
4. わかりやすさは、4.0（3.9～4.2）
5. 知的関心は、4.0（3.7～4.1）
6. 教員の熱意は、4.3（3.9～4.3）
7. 授業進度の適切さは、4.0（3.9～4.2）
8. 教科書・配付資料の活用は、4.2（4.0～4.3）
9. 板書・スクリーンモニターの見やすさは、3.9（3.9～4.2）
10. 教員の声の聞き取りやすさは、4.3（4.1～4.4）
11. 授業の妨げへの教員の対応は、4.2（4.0～4.2）
12. 教員の授業時間の厳守は、4.5（4.2～4.5）
13. 学生のシラバス確認は、1.5（1.4～1.6）

### 3. 学生視点集計結果より（学年比較）

学年	設問	有効数	平均
1	1	457	4.4
2	1	250	4.5
3	1	88	4.4
4	1	74	4.3
1	2	456	4.0
2	2	249	4.3
3	2	87	4.4
4	2	74	4.2
1	3	456	4.0
2	3	250	4.4
3	3	82	4.4
4	3	74	4.3
1	4	454	<u>3.8</u>

2	4	249	4.2
3	4	88	4.3
4	4	74	4.3
1	5	457	<u>3.8</u>
2	5	250	4.0
3	5	88	4.3
4	5	74	4.2
1	6	457	4.1
2	6	249	4.5
3	6	88	4.5
4	6	74	4.3
1	7	457	<u>3.9</u>
2	7	249	4.3
3	7	88	4.3
4	7	74	4.2
1	8	452	4.1
2	8	248	4.4
3	8	85	4.5
4	8	73	4.3
1	9	404	<u>3.7</u>
2	9	250	4.2
3	9	87	4.4
4	9	73	4.2
1	10	456	<u>4.1</u>
2	10	249	4.6
3	10	88	4.6
4	10	73	4.5
1	11	447	4.0
2	11	239	4.3
3	11	87	4.3
4	11	72	4.2

1	12	456	4.4
2	12	247	4.6
3	12	87	4.6
4	12	72	4.5
1	B	456	8.0
2	B	250	6.9
3	B	88	6.0
4	B	74	4.9
1	D	444	1.4
2	D	246	1.6
3	D	86	1.5
4	D	73	1.6

#### 4. 履修者数別集計結果

本学科については1～50人と51～100人規模の授業のみであった。

範囲名	授業数	設問	平均
1～50人	13	1	4.4
51～100人	5	1	4.4
1～50人	13	2	4.2
51～100人	5	2	4.1
1～50人	13	3	4.2
51～100人	5	3	4.2
1～50人	13	4	4.1
51～100人	5	4	3.9
1～50人	13	5	4.1
51～100人	5	5	3.8
1～50人	13	6	4.3
51～100人	5	6	4.2
1～50人	13	7	4.1
51～100人	5	7	4.0
1～50人	13	8	4.2
51～100人	5	8	4.2
1～50人	13	9	<u>4.2</u>
51～100人	5	9	<u>3.7</u>
1～50人	13	10	4.3



51~100人	5	10	4.3
1~50人	13	11	4.2
51~100人	5	11	4.1
1~50人	13	12	4.5
51~100人	5	12	4.5
1~50人	13	A	2.1
51~100人	5	A	2.0
1~50人	13	B	6.9
51~100人	5	B	7.6
1~50人	13	C	4.0
51~100人	5	C	4.7
1~50人	13	D	1.6
51~100人	5	D	1.5

5. わかりやすさ 全体ポイント順から

- 兼担の「臨床心理学」(家次先生)のポイントが高い(4.67)
- 教育保育学科所属教員のポイント幅は、4.55~3.14(全体では5.00~2.95)

ポイント	所属教員の授業数(／全学の授業数)と割合
4.5~	1/17 5.56%/11.25%
4.0~	10/68 55.56%/45.03%
3.5~	5/55 27.78%/36.42%
3.0~	2/10 11.11%/19.6%
2.5~	0/1 0%/0.66%

6. 知的関心 全体ポイント順から

- 兼担の「臨床心理学」(家次先生)のポイントが高い(4.56)
- 教育保育学科所属教員のポイント幅は、4.43~3.37(全体では5.00~0.00)

ポイント	所属教員の授業数(／全学の授業数)と割合
4.5~	0/10 0%/19.6%
4.0~	10/58 55.56%/38.41%
3.5~	6/62 33.33%/41.05%
3.0~	2/10 11.11%/19.6%
2.5~	0/2 0%/1.32%
~2.49	0/9 0%/5.96%

7. 教室・授業管理 全体ポイント順から

- 「教育課程論」のポイントが高い(4.77)
- 教育保育学科所属教員のポイント幅は、4.77~3.39(全体では5.00~2.53)

ポイント	所属教員の授業数(／全学の授業数)と割合
------	----------------------

4.5～	4/10	22.22%/19.6%
4.0～	8/75	44.44%/49.67%
3.5～	4/52	22.22%/34.44%
3.0～	1/4	5.56%/2.65%
2.5～	0/1	0%/0.66%

8. 複数教員による授業 全体ポイント順から

- 「教職実践演習」のポイントが高い (3.82)
- 教育保育学科所属教員のポイント幅は、3.82～3.57 (全体では 4.37～2.65)

9. 総括

- 教育保育学科所属教員は、授業の妨げへの対応、また教員の授業時間の厳守に関するポイントが高い。
- 学年別に見ると、1年次生対象の授業について、知的関心、授業進度の適切さ、板書・スクリーンモニターの見やすさ、教員の声の聞き取りやすさのポイントが他学年に比べて低い。
- 履修者数別に見ると、1～50人の授業と、51～100人の授業では、板書・スクリーンモニターの見やすさのポイントの開きが大きい。
- 全体ポイント順から見ると、全学と比較した場合、わかりやすさ、知的関心、教室・授業管理の項目について、もっとも高いポイントを示しているわけではないが、やや高いポイントを示す授業の割合が多い。

## 2014 年度 人間生活科学部管理栄養学科後期授業アンケート結果報告

### 1. 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
管理栄養	922	888	733	82.55
【全体】	7,908	7,732	5,268	68.13

管理栄養学科の専任教員担当科目のうち 23 科目が今回のアンケート対象であった。アンケートの回収率は 82.6%と学校全体の回収率より約 1.5 割上回っていた。

### 2. 管理栄養学科所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む）

設問	内容	平均
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.7
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.2
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.3
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.2
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	4.1
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.3
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.2
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.3
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.2
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.4
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.1
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.4
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.4

管理栄養学科に所属する専任教員担当の科目について、昨年度は 4.0 以下の科目がみられたが今年度は全て是正され最低が 4.1 と向上している。これは各教員の国家試験合格率の向上に向けての努力が少し実ってきたのかも知れない。

### 3 管理栄養学科学年別結果

設問	内容	全学年 平均	1年	2年	3年	4年	5年以上
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.7	4.8	4.7	4.7	4.1	1.0
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.2	4.1	4.0	4.3	4.2	3.0
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか	4.3	4.4	4.1	4.5	4.0	3.0
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.2	4.1	4.0	4.4	4.3	3.0
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	4.1	4.0	3.9	4.3	4.3	3.0
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.3	4.2	4.1	4.5	4.5	3.0
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.2	4.2	4.1	4.3	4.5	3.0
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	3.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.2	4.1	4.2	4.4	4.5	3.0
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.4	4.3	4.3	4.6	4.5	5.0
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.1	4.1	4.1	4.4	4.5	3.0
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.4	4.5	4.2	4.6	4.5	5.0
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.4	1.4	1.3	1.4	1.5	1.0

学年別でのアンケート結果で、特徴的なのは 1・2 年生の評価が他に比べて低いことである。管理栄養学科における 1・2 年生は主に基礎科目を受講しており、基礎科目から高い意識を持たせて授業に取り組ませることが必要である。

### 4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200
1	あなたは、この授業に出席していますか	4.7	-	-	4.1
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.2	-	-	3.8
3	この授業は、シラパスにそって行なわれていますか	4.4	-	-	4.0
4	授業内容は、わかりやすいですか	4.2	-	-	4.0
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか	4.1	-	-	4.0
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか	4.3	-	-	4.2
7	授業の速さや進め方は、適切ですか	4.2	-	-	3.9
8	教科書、配布資料が活用されていますか	4.4	-	-	3.8
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか	4.2	-	-	4.0
10	教員の声は聞き取りやすいですか	4.4	-	-	4.2
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか	4.2	-	-	3.8
12	教員は、授業時間を守っていますか	4.4	-	-	4.1
D	あなたは、この授業のシラパスを読みましたか	1.3	-	-	1.6

履修者数別では、設問Dを除いたすべての項目で、150-200人規模の講義に比べて1-50人規模の講義で高値を示した。管理栄養学科では、今回の対象であった23科目の内、21科目が1-50人規模の講義であったように、ほとんどの科目で1-50人規模の講義・実習形態をとっており、講義人数の規模としては、良い形で行われていると考えられる。

## 5 授業のわかりやすさ及び知的関心

### 表 わかりやすさ

科目名	平均
公衆衛生学Ⅱ(2組)(火3)	4.58
臨床栄養学Ⅲ(2組)(月3)	4.55
解剖生理学実習(2組)(木1.木2.木3)	4.50
臨床栄養学実習Ⅱ(2組)(金1.金2.金3)	4.50
食品学実験Ⅱ(2組)(木1.木2.木3)	4.48
調理学実習(2組)(火1.火2.火3)	4.48
応用栄養学Ⅱ(2組)(金3)	4.44
公衆衛生学実習(2組)(金1.金2.金3)	4.43
公衆栄養学Ⅰ(2組)(月4)	4.41
健康管理論(2組)(水5)	4.41
給食経営管理論実習(2組)(木1.木2.木3)	4.37
食品学Ⅱ(2組)(金2)	4.35
調理学(2組)(金1)	4.32
給食経営管理論Ⅱ(2組)(金1)	4.24
フードコーディネータ論(月1)	4.21
栄養教育論演習(2組)(木1.木2)	4.18
生命の科学/生命科学(火3)	4.04
栄養教育論Ⅰ(2組)(月3)	3.97
栄養教育論実習Ⅰ(2組)(火2.火3.火4)	3.90
生化学Ⅱ(2組)(月2)	3.86
基礎栄養学Ⅱ(2組)(金2)	3.82
基礎栄養学実習(2組)(火2.火3.火4)	3.75
フードシステム論(月2)	3.81
スポーツと栄養/スポーツと栄養(木4)	3.72
食品衛生学実習Ⅰ(2組)(木1.木2.木3)	3.47
生化学実験Ⅱ(2組)(火1.火2.火3)	3.06

### 表 知的関心

科目名	平均
臨床栄養学実習Ⅱ(2組)(金1.金2.金3)	4.60
臨床栄養学Ⅲ(2組)(月3)	4.60
解剖生理学実習(2組)(木1.木2.木3)	4.44
食品学実験Ⅱ(2組)(木1.木2.木3)	4.42
公衆衛生学Ⅱ(2組)(火3)	4.42
応用栄養学Ⅱ(2組)(金3)	4.41
食品学Ⅱ(2組)(金2)	4.41
公衆衛生学実習(2組)(金1.金2.金3)	4.32
調理学(2組)(金1)	4.29
調理学実習(2組)(火1.火2.火3)	4.27
給食経営管理論実習(2組)(木1.木2.木3)	4.27
公衆栄養学Ⅰ(2組)(月4)	4.21
健康管理論(2組)(水5)	4.18
給食経営管理論Ⅱ(2組)(金1)	4.17
栄養教育論演習(2組)(木1.木2)	4.09
生命の科学/生命科学(火3)	3.97
フードコーディネータ論(月1)	3.97
基礎栄養学Ⅱ(2組)(金2)	3.88
栄養教育論Ⅰ(2組)(月3)	3.86
栄養教育論実習Ⅰ(2組)(火2.火3.火4)	3.83
生化学Ⅱ(2組)(月2)	3.76
基礎栄養学実習(2組)(火2.火3.火4)	3.76
スポーツと栄養/スポーツと栄養(木4)	3.74
フードシステム論(月2)	3.60
食品衛生学実習Ⅰ(2組)(木1.木2.木3)	3.53
生化学実験Ⅱ(2組)(火1.火2.火3)	3.28

## 6 授業・教室管理について

科目名	平均
応用栄養学Ⅱ(2組)(金3)	4.56

臨床栄養学実習Ⅱ(2組)(金1.金2.金3)	4.55
公衆衛生学Ⅱ(2組)(火3)	4.53
調理学(2組)(金1)	4.50
臨床栄養学Ⅲ(2組)(月3)	4.47
給食経営管理論実習(2組)(木1.木2.木3)	4.41
公衆栄養学Ⅰ(2組)(月4)	4.39
フードコーディネータ論(月1)	4.38
調理学実習(2組)(火1.火2.火3)	4.36
公衆衛生学実習(2組)(金1.金2.金3)	4.33
解剖生理学実習(2組)(木1.木2.木3)	4.26
食品学Ⅱ(2組)(金2)	4.25
食品学実験Ⅱ(2組)(木1.木2.木3)	4.25
給食経営管理論Ⅱ(2組)(金1)	4.23
栄養教育論演習(2組)(木1.木2)	4.14
基礎栄養学Ⅱ(2組)(金2)	4.09
健康管理論(2組)(水5)	4.03
栄養教育論Ⅰ(2組)(月3)	4.03
スポーツと栄養/スポーツと栄養(木4)	3.99
生化学Ⅱ(2組)(月2)	3.98
栄養教育論実習Ⅰ(2組)(火2.火3.火4)	3.90
基礎栄養学実習(2組)(火2.火3.火4)	3.83
生命の科学/生命科学(火3)	3.76
食品衛生学実習Ⅰ(2組)(木1.木2.木3)	3.75
フードシステム論(月2)	3.65
生化学実験Ⅱ(2組)(火1.火2.火3)	3.29

授業のわかりやすさ(設問4)、「知的関心」を持ってたかを問う設問(設問5)および授業及び教室管理について(設問6)上位から最下位まで列挙した。今回も非常勤の教員も加えた。3項目を一覧すると、順位の若干上下はあるものの、評価の良い科目悪い科目は3項目間で相関が見られた。

## 7 クロス集計

			設問4(授業のわかりやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	0	9	3	4	0	1
		1	1	262	55	8	1	0
		2	2	36	131	31	2	1
		3	1	12	36	100	6	0
		4	0	2	6	8	6	1
		5	0	0	1	1	4	2

			設問8(教科書・配布資料の活用)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	0	11	4	1	0	1
		1	3	279	31	10	4	0
		2	0	63	114	23	3	0
		3	2	27	36	86	3	1
		4	1	6	5	5	4	2
		5	0	3	0	2	1	2

			設問9(板書・モニターの見やすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	2	7	6	1	0	1
		1	0	271	37	15	2	2
		2	0	50	120	32	0	1
		3	0	19	30	98	6	2
		4	0	4	5	7	6	1
		5	0	0	2	2	1	3

			設問10(声の聞き取りやすさ)					
			回答なし	1	2	3	4	5
人間生活科学部 管理栄養学科	設問11	回答なし	1	9	4	2	0	1
		1	1	294	28	4	0	0
		2	1	78	111	12	1	0
		3	0	27	40	87	1	0
		4	0	11	6	3	1	2
		5	0	2	1	2	0	3

クロス集計は、教室管理(設問11)と設問4、設問8、設問9、設問10と行なった。それぞれ共通していえることは、教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高く、これらは相関関係にあるということである。

## 平成 26 年度後期授業評価アンケート（兼任・非常勤講師担当分）

### I. 実施率／コメント回収率／学生の回答率について

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
全体	154	150	97.4	150	100.00
兼任・非常勤講師	44	41	93.18	41	100.00

後期授業評価アンケート対象科目のうち兼任・非常勤講師担当分は 44 科目であった。メールと文書による実施依頼にもかかわらず専門科目 3 科目が実施されなかった。

実施科目の内訳は情報科目が 16、共通科目(講義形式)が 4、学部学科の専門科目が 21 であった。

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
全体	7,908	7,732	5,268	68
兼任・非常勤講師	2,115	1,973	1,248	63.25

学生の回答率は全体平均を下回る 63.25%である。これはアンケート実施日の出席率を示し、学期末に 3分の1 の学生が欠席していることになる。この中には失格者も含まれると思われるが、履修した科目を最後まで学び続けるように、兼任・非常勤講師にも学生に対して指導の強化をお願いする必要がある。

### II. 集計結果について

#### 設問項目

設問	内容
1	あなたは、この授業に出席していますか
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
3	この授業は、シラバスにそって行なわれていますか
4	授業内容は、わかりやすいですか
5	この授業の内容は、知的関心を引き出すものですか
6	教員の教え方には、熱意が感じられますか
7	授業の速さや進め方は、適切ですか

8	教科書、配布資料が活用されていますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていますか
10	教員の声は聞き取りやすいですか
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか
12	教員は、授業時間を守っていますか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

## 1. 41 科目の平均ポイント

設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 D(Yes 率)
4.3	4	4.1	3.9	3.9	4.1	4	4.1	3.9	4.2	4	4.3	55.50%

41 科目の平均値である。「わかりやすさ」「知的関心」「板書・モニタースクリーン」のポイント 3.9 は問題視するほど低いというわけではないが、「わかりやすさ」「知的関心」は教授法と授業内容を反映しているものなので、更なる改善が必要と思われる。

## 2. クラスサイズ別の平均ポイント

履修者 数	クラ ス数	設 問 1	設 問 2	設 問 3	設 問 4	設 問 5	設 問 6	設 問 7	設 問 8	設 問 9	設 問 10	設 問 11	設 問 12	設問 D(Yes 率)
1-50 人	28	4.4	4.2	4.3	4.1	4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.1	4.4	56.75%
51- 100 人	7	4.3	3.9	4	3.9	3.9	4.2	4	4.1	4	4.2	3.9	4.2	52.72%
101- 150 人	5	4.2	3.9	4	3.8	3.8	4	3.9	4.1	3.8	4.1	4	4.1	56.54%
151- 200 人	1	4.3	3.8	3.9	3.4	3.5	3.8	3.7	3.6	3.2	3.8	3.7	4	52.68%

履修者数 50 人以下が 28 クラス(68%)で、そのうち 16 クラスの情報科目は 25 人以下である。1~50 人、51~100 人、101~150 人の 3 段階では、クラスサイズが大きくなるとポイントが下がる傾向にある。150 人以上のクラスはひとつであるため、「わかりやすさ」3.4、「知的関心」3.5、「教室管理」3.7 のポイントが他と比べて低いのは履修者数によるものかどうかは判断が難しい。本学では大教室の授業は担当者の希望により、人数制限をし、最大 150 人としているので、この科目の担当者がどのような判断で 150 人以上の履修を受け入れたか確認する必要がある。

履修者数の制限が可能であることを兼任・非常勤講師にも再度周知し、より良い学習

環境を整えたい。

### 3. 「わかりやすさ」「知的関心」「教室管理」について

<情報科目>

	わかりやすさ	知的関心	教室管理
<b>情報16科目平均</b>	<b>4.24</b>	<b>4.06</b>	<b>4.25</b>
担当者 A 7科目平均	4.50	4.30	4.46
担当者 B 2科目平均	4.11	4.06	4.29
担当者 C 3科目平均	4.19	4.15	4.22
担当者 D 2科目平均	4.00	4.00	4.33
担当者 E 2科目平均	3.82	3.13	3.46

全体平均は3項目とも4.0以上であるが、担当者別では1名のポイントの低さが気にかかる。2015年度入学生からは情報科目を選択必修とする学部が増加することも考慮すると、上記の結果を情報科目担当者決定機関に報告し、改善を図る必要がある。

<共通科目(講義形式)>

科目名	わかりやすさ	知的関心	教室管理
日本探訪／地理学	3.99	3.76	4.18
歴史との対話／歴史学	3.86	4.09	3.71
多文化共生の探究 II(	3.95	0.00	4.14
社会行動の科学／社会学	3.80	3.82	3.82

「歴史との対話」は新任の非常勤講師が担当したが、「教室管理」の改善が求められる。「多文化共生の探究 II」は今年度からの新設科目であるが、「知的関心」をアンケート対象項目からはずした理由は不明である。

「わかりやすさ」とともに「知的関心」についてさらなる改善が望まれる。

<専門科目>

	わかりやすさ	知的関心	教室管理
<b>21科目平均</b>	<b>3.98</b>	<b>3.96</b>	<b>3.99</b>

専門科目については、開講学部学科において分析報告がされているので数値のみ記載する。

### 4. 「教室管理」との4項目クロス集計について



設問 11「教室管理」と、設問 4「わかりやすさ」、設問 8「教科書、配布資料の活用」、設問 9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問 10「教員の声の聞こえやすさ」の 4 項目のクロス集計結果（詳細データは省略）では、いずれのクロス集計においても、「教室管理」のポイントが高ければ、クロス項目のポイントも高くなるという強い相関関係が見られた。